

東京都がん対策推進計画に係る都民意識調査

報告書

令和5年3月

東京都福祉保健局

I	調査実施概要	3
II	回答者の属性	4
III	調査結果の分析	5
1	: 回答者の状況	5
2	: 「がん」についての認識	8
3	: 「がん」に関する知識	15
4	: 「がん」検診について	20
5	: 「肝炎ウイルス」について	30
6	: 「がん教育」について	43
7	: 「がん」にかかった場合、整っていることが望ましい環境	45
8	: がんの「緩和ケア」について	47
9	: 「がんゲノム医療」について	49
10	: 人生の最終段階の療養場所	50
11	: 「小児がん」について	51
12	: 「がん」に関する情報収集	53
13	: 「がん」に関する自由記述	56

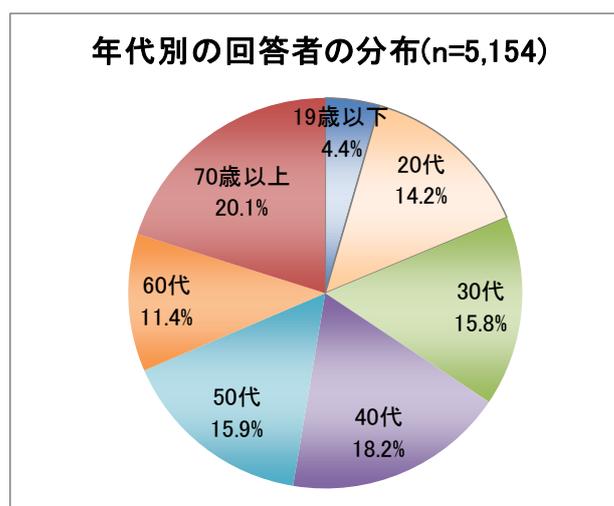
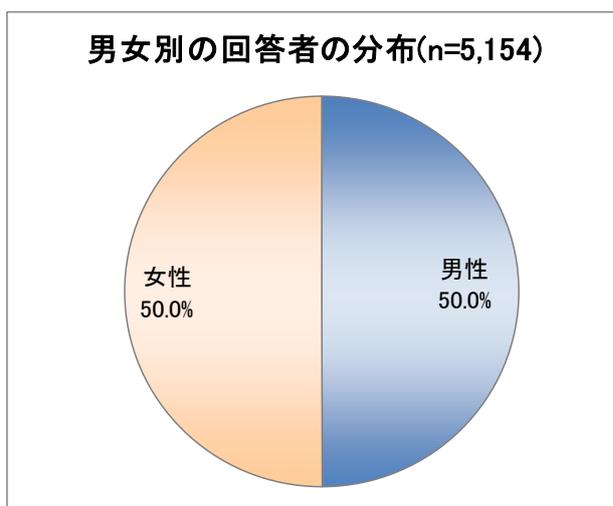
付 調査票（提示調査画面）

I 調査実施概要

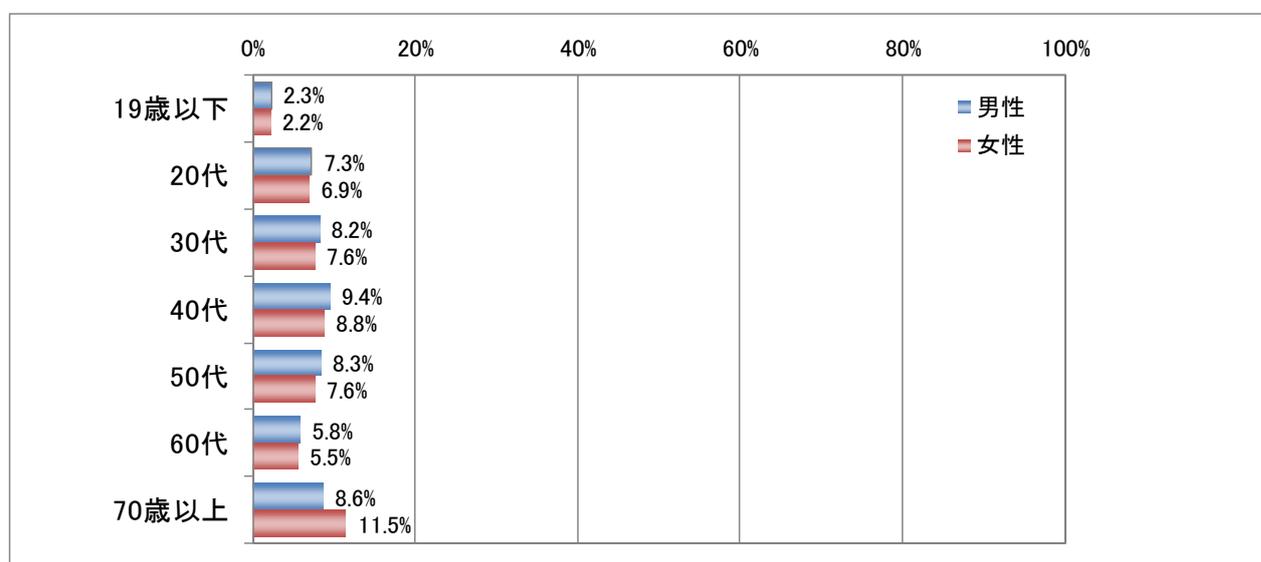
- (1) 調査目的「東京都がん対策推進計画」の第3次改定に向けて、がんに関する現状及び今後の課題を把握することを目的として、「東京都がん対策推進計画に係る都民意識調査」を実施した。
- (2) 調査項目・内容
後掲の調査票（提示調査画面）を参照
- (3) 調査方法
調査モニタを使用したインターネット調査
- (4) 調査地域及び調査対象者
東京都内全域に居住する都民 5,154 人
- (5) 調査期間
令和4年11月2日（水）から同月4日（金）まで
- (6) 報告書の見方
 - (ア) 有意差検定について
本調査では、有意水準 5%で全体との差の検定を実施した。有意差検定とは、調査結果内のする2つのデータについて、それらのデータの差が統計学的に「偶然ではなく意味があると考えられる」差かどうかを検定するものである。本調査ではそれぞれ全体回答と特定属性の回答者による回答（例：「男性」）において差の検定を実施している。
 - (イ) 前回調査との比較について
前回調査（※）との比較は、前回調査においても同様の質問がある項目についてのみ実施している。前回調査と聴取方法に変更（例：単一選択 → 複数選択）があったものは、備考欄にその旨を記載している。
※平成29年2月に、同じ目的で実施した都民意識調査（前回調査対象者数は5,380人）
 - (ウ) コメントによる言及箇所について
今回の全体回答と特定属性の回答者による回答（例：全体回答と男性による回答）との間での有意差検定（有意水準5%）を行い、有意差ありと判定された部分について言及。
また、前回調査との比較を行い、±10pt以上の差がある部分について言及。
その他、傾向の差がみられる部分についてコメントを記載。

II 回答者の属性

(1) 性別・年代別での回答者分布



(2) 性別×年代別の回答者分布



n 数	男性	女性	合計
合計	2,575	2,579	5,154
19歳以下	118	111	229
20代	374	358	732
30代	422	390	812
40代	487	452	939
50代	430	390	820
60代	300	286	586
70歳以上	444	592	1,036

Ⅲ 調査結果の分析

1 : 回答者の状況

問 1 . あなたご自身は、これまで「がん」になられたことがありますか。(択一式)

【全体】

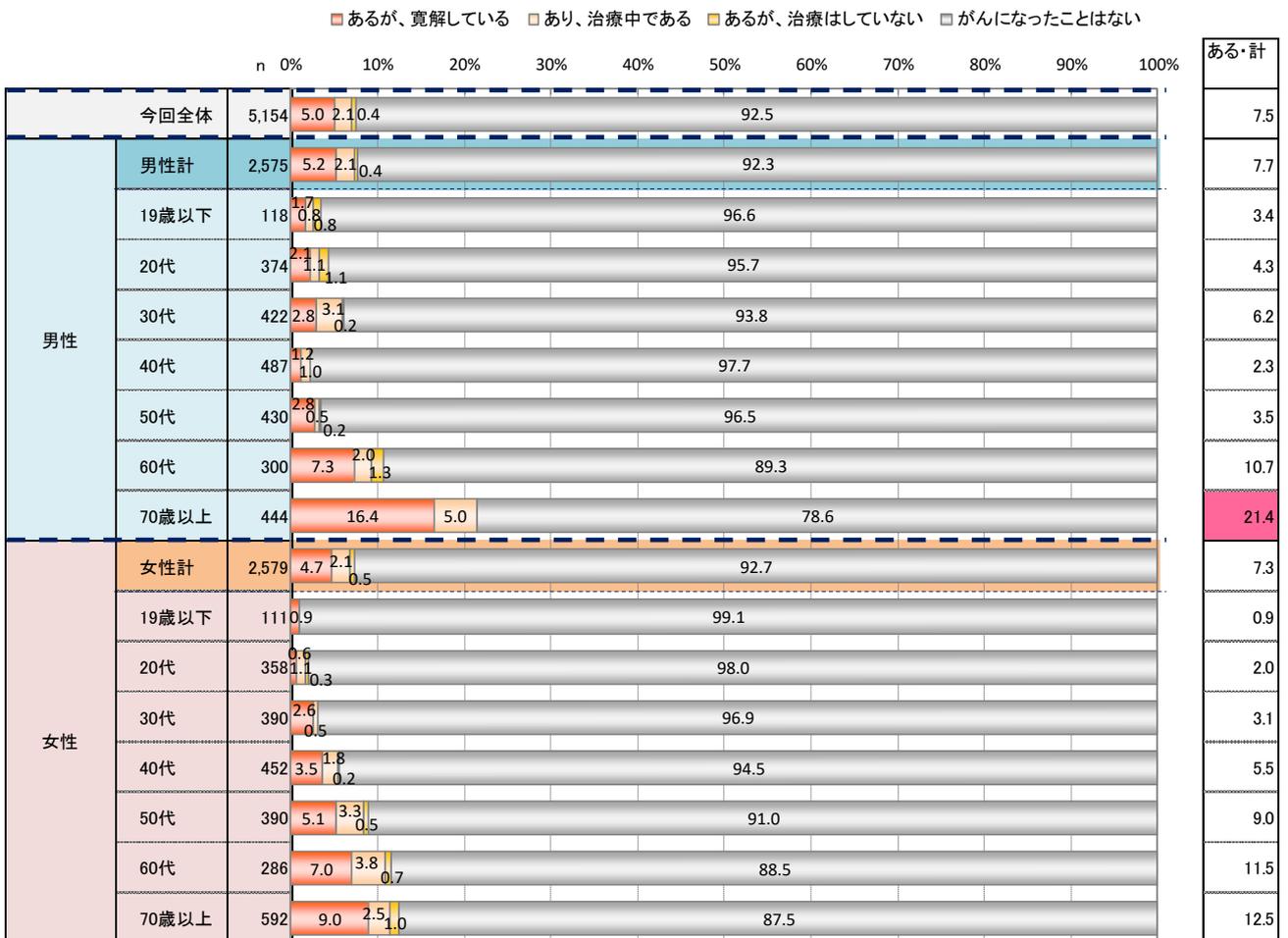
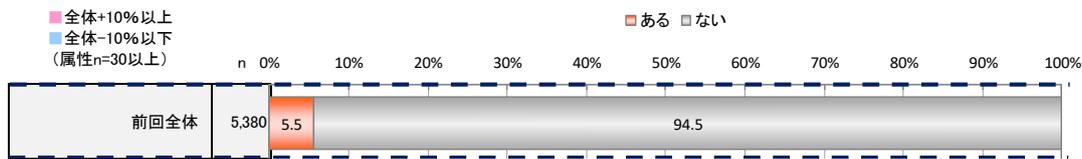
- 「がん」経験者は 7.5%、うち寛解者が 5.0%、治療中の者が 2.1%、治療をしていない者が 0.4%。

【性別×年代別】

- 男性 20 代・40-50 代及び女性 19 歳以下-30 代は「がん」経験者が有意に少なく、高齢層 (60 代以上) は「がん」経験者が有意に多い。
- 男性 70 歳以上において、「がんになった経験があるが、寛解している」と回答した人が 16.4%と顕著に多い。

【前回調査との比較】

- 前回調査 (5.5%) と比較して、「がん」経験者は 2.0pt 増加。



1：回答者の状況

問2．あなたの周りで「がん」になられた方はいますか（いましたか）。（択一式）

※ご家族（血縁関係がない方も含む）や友人などすべて含めてお答えください。

【全体】

- ・ 周りに「がん」経験者がいる人は71.1%と過半数。

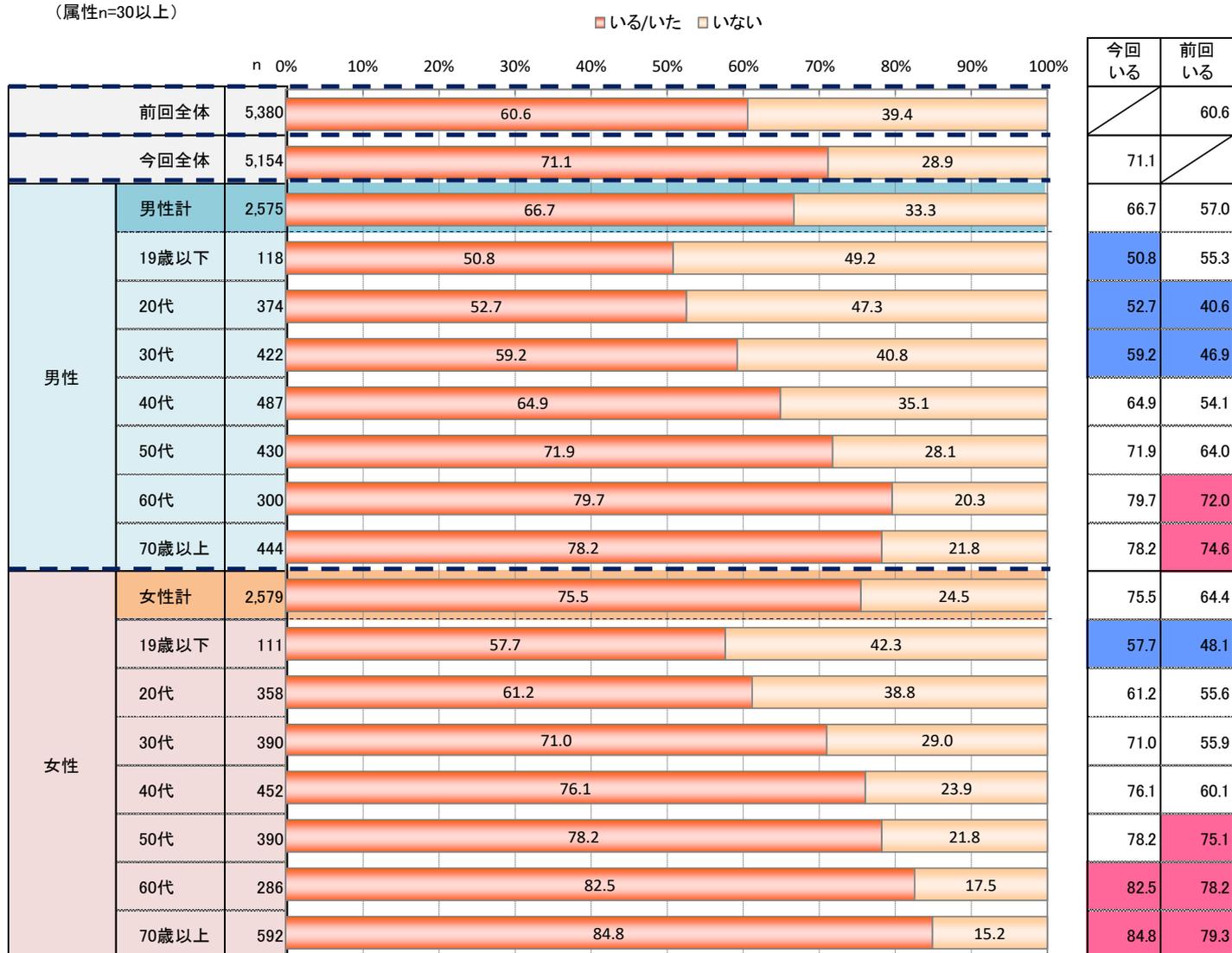
【性別×年代別】

- ・ 男女とも、年齢が上がるほど周りに「がん」経験者がいる人が有意に多い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査（60.6%）と比較して、周りに「がん」経験者がいる人が10.5ptアップしており、全体的に増加傾向にある。

■ 各全体+10%以上
■ 各全体-10%以下
(属性n=30以上)



1：回答者の状況

問3．前問でご自身の周りに「がん」になられた方がいるとお答えになった方にお伺いします。
その「がんと診断された方」とあなたとの関係において、あてはまるものをお選びください。
(複数回答)

【全体】

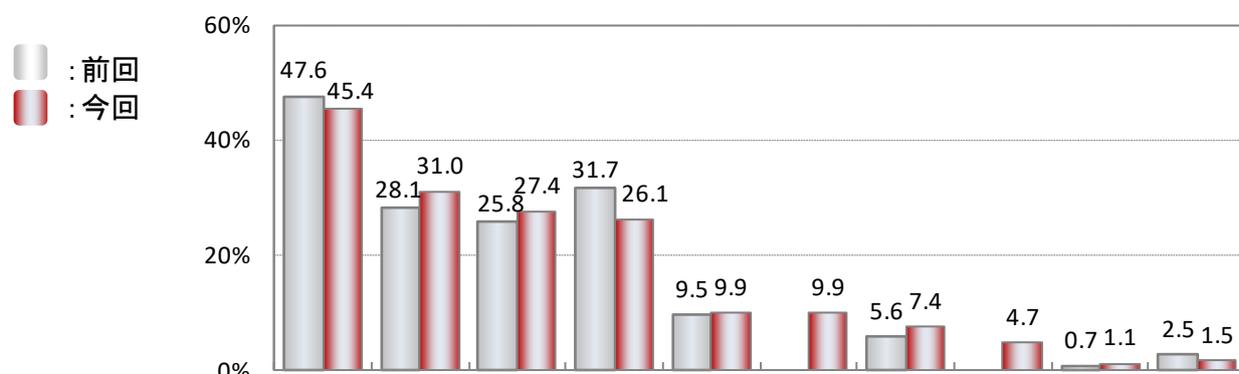
- 「両親（血縁関係あり）」が45.4%でトップ、「祖父母」（31.0%）、「友人、同僚」（27.4%）、「その他の親戚」（26.1%）とつづく。

【性別×年代別】

- 男女とも、30代以下の若年層は「祖父母」、50-60代は「両親（血縁関係あり）」、70歳以上は「友人、同僚」「兄弟/姉妹（血縁関係あり）」「配偶者」のスコアがそれぞれ有意に高い。

【前回調査との比較】

- 前回調査と比較して、大きな変化はみられない。



		n 数	両親（血縁関係あり）	祖父母	友人・同僚	その他の親戚	兄弟/姉妹（血縁関係あり）	両親（血縁関係なし）	配偶者	兄弟/姉妹（血縁関係なし）	子ども	その他
前回全体		3,258	47.6	28.1	25.8	31.7	9.5	0.0	5.6	0.0	0.7	2.5
今回全体		3,665	45.4	31.0	27.4	26.1	9.9	9.9	7.4	4.7	1.1	1.5
男性	男性計	1,718	46.9	28.8	24.6	23.1	9.5	8.6	6.3	3.5	1.2	1.4
	19歳以下	60	15.0	70.0	3.3	21.7	-	-	-	-	-	5.0
	20代	197	20.3	55.8	10.2	18.8	-	3.0	2.0	1.0	1.0	2.0
	30代	250	38.8	46.4	17.2	21.6	3.2	6.0	2.8	0.8	0.4	2.4
	40代	316	50.3	34.8	18.0	25.0	4.4	10.1	2.2	0.9	0.3	0.9
	50代	309	60.5	19.7	25.2	28.8	6.8	8.7	6.5	2.9	1.0	0.6
	60代	239	61.9	15.5	33.5	23.8	11.7	10.5	8.8	4.6	0.8	1.7
	70歳以上	347	47.8	5.2	40.9	19.6	26.5	12.1	14.1	9.5	3.5	0.6
女性	女性計	1,947	44.0	32.9	30.0	28.8	10.3	11.0	8.3	5.7	1.0	1.6
	19歳以下	64	17.2	64.1	9.4	28.1	-	-	1.6	-	-	1.6
	20代	219	17.4	67.6	10.5	21.5	0.5	3.7	1.4	0.5	0.5	3.7
	30代	277	35.4	56.3	17.0	27.4	2.9	6.9	0.4	1.1	0.4	1.8
	40代	344	47.4	39.8	24.4	32.3	2.9	12.5	2.9	1.7	0.3	0.3
	50代	305	57.4	24.3	40.7	34.4	7.2	16.7	3.6	2.6	-	1.3
	60代	236	63.1	17.4	41.5	29.2	11.9	16.1	7.2	8.9	0.4	1.7
	70歳以上	502	44.4	8.8	40.2	26.7	26.3	11.2	23.7	14.3	3.2	1.8

※前回の「両親」「兄弟/姉妹」は血縁関係の有無は問わず聴取

2 : 「がん」についての認識

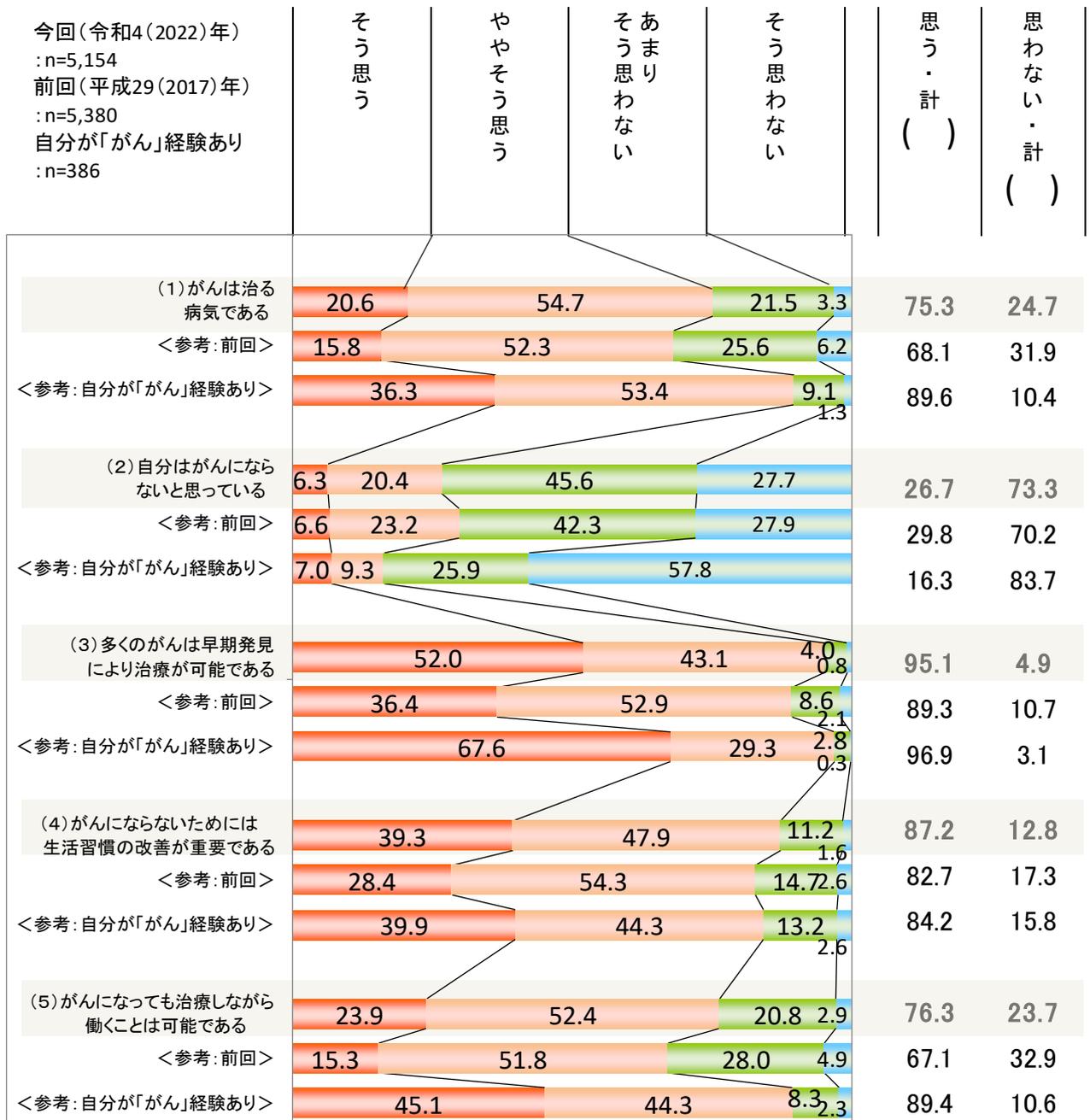
問 4. 「がん」における以下の内容について、あなたのお考えにあてはまるものをそれぞれお選びください。(択一式)

【全体】

- ・ 思う(計)をみると、「多くのがんは早期発見により治療が可能である」が95.1%で最も高く、一方「自分のがんにはならないと思っている」が26.7%で最も低い。

【自分の「がん」経験有無による比較】

- ・ 「そう思う」のスコアを全体と比較すると、すべての項目でがん経験ありのスコアが高い。中でも、「がんになっても治療しながら働くことは可能である」では21.2ptのスコア差がみられる。



2 : 「がん」についての認識

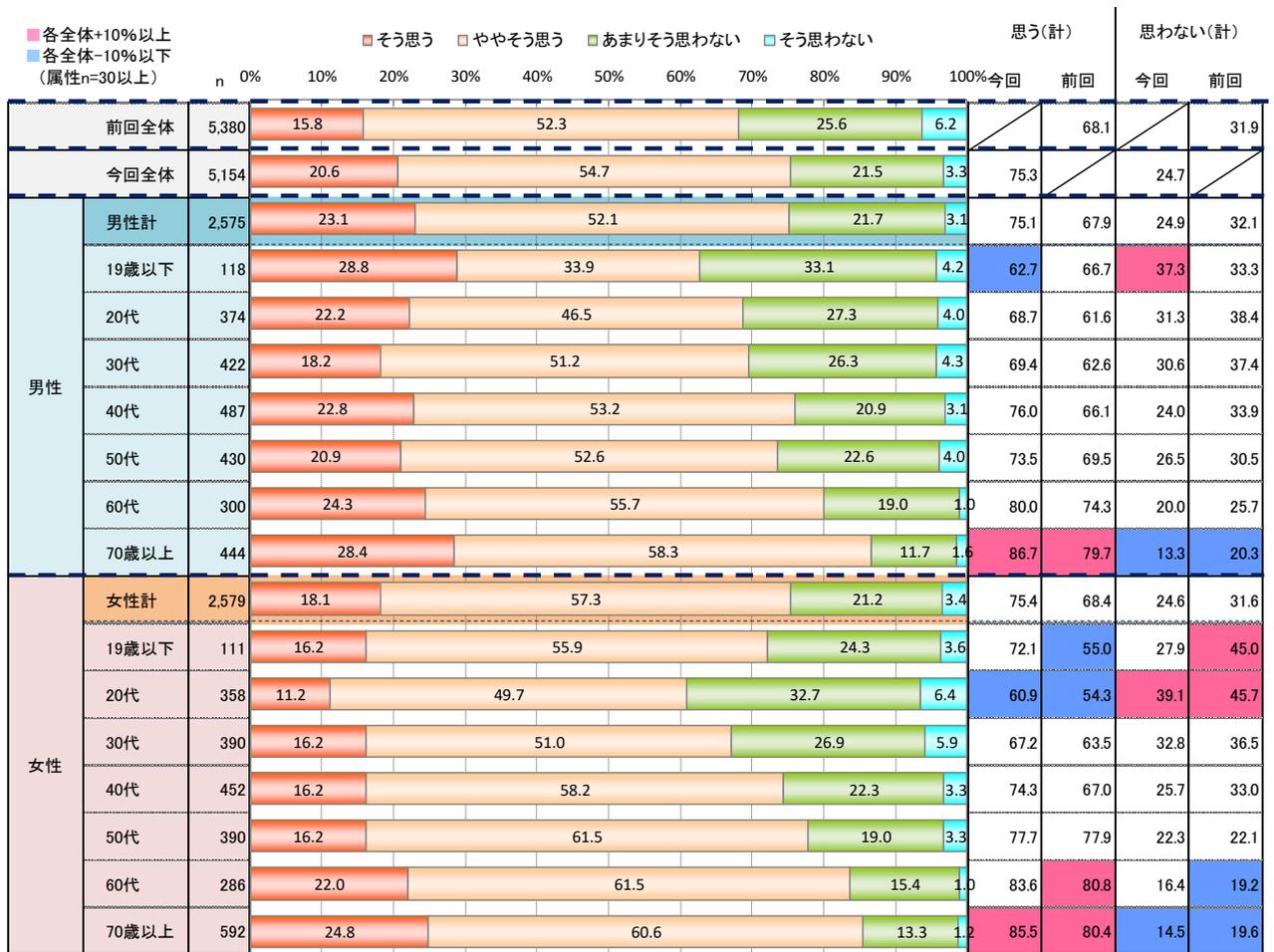
問 4. 「がん」における以下の内容について、あなたのお考えにあてはまるものをそれぞれお選びください。(択一式)
(1) 「がん」は治る病気である

【性別×年代別】

- 男女ともに 70 歳以上の高齢層において、思う(計)のスコアが有意に高い。
- 一方、男性 19 歳以下・女性 20 代の若年層において、思う(計)のスコアが有意に低く、若年層と高齢層で認識の違いが存在することが窺える。

【前回調査との比較】

- 前回調査(68.1%)と比較して、思う(計)は 7.2pt 増加。



2 : 「がん」についての認識

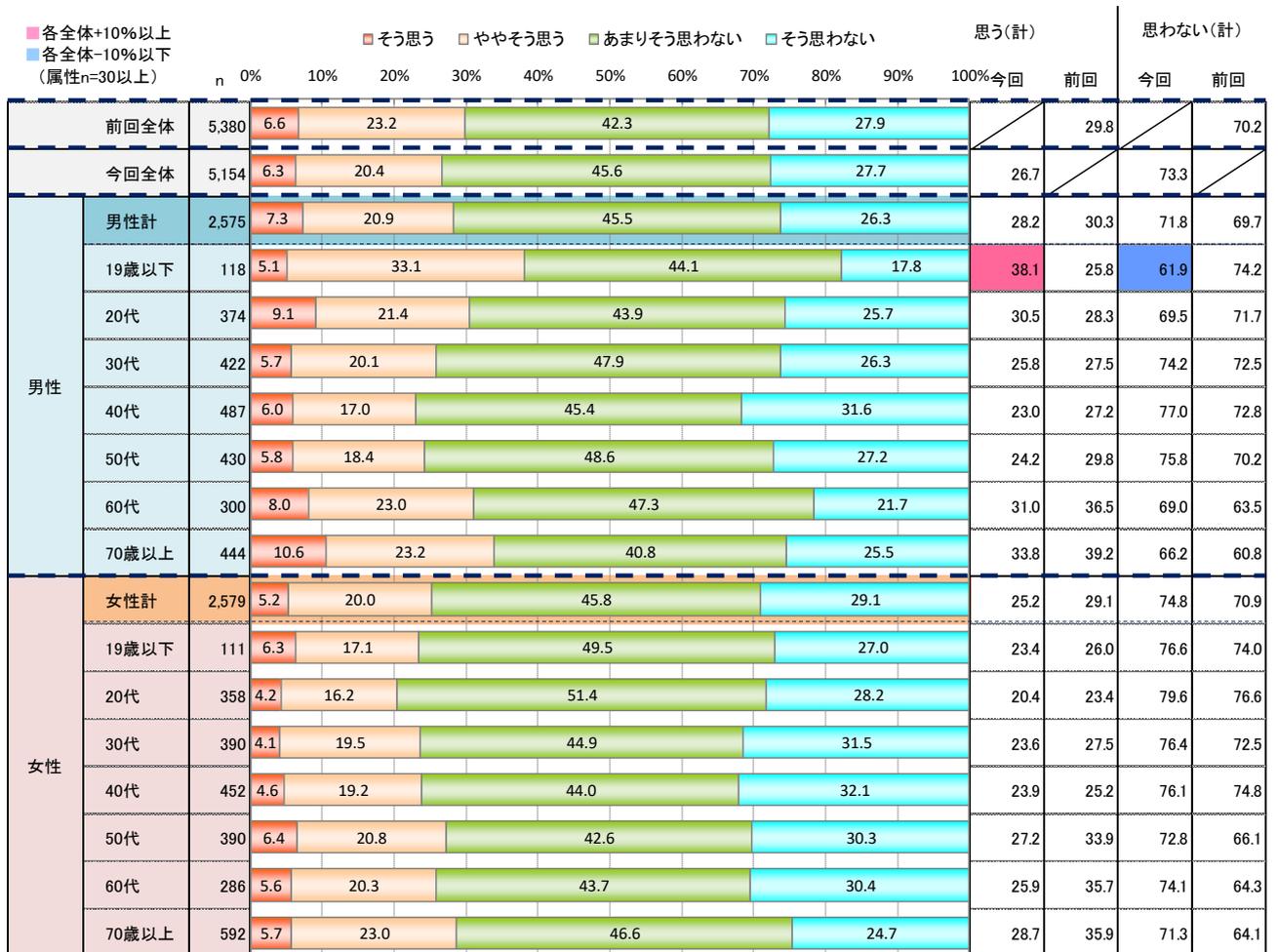
問 4. 「がん」における以下の内容について、あなたのお考えにあてはまるものを
それぞれお選びください。(択一式)
(2) 自分は「がん」にならないと思っている

【性別×年代別】

- ・ 男性 19 歳以下において、思う(計)のスコアが有意に高い。その内訳をみると「ややそう思う」のスコアが 33.1%と有意に高い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査(29.8%)と比較して、思う(計)のスコアは 3.1pt 減少。



2：「がん」についての認識

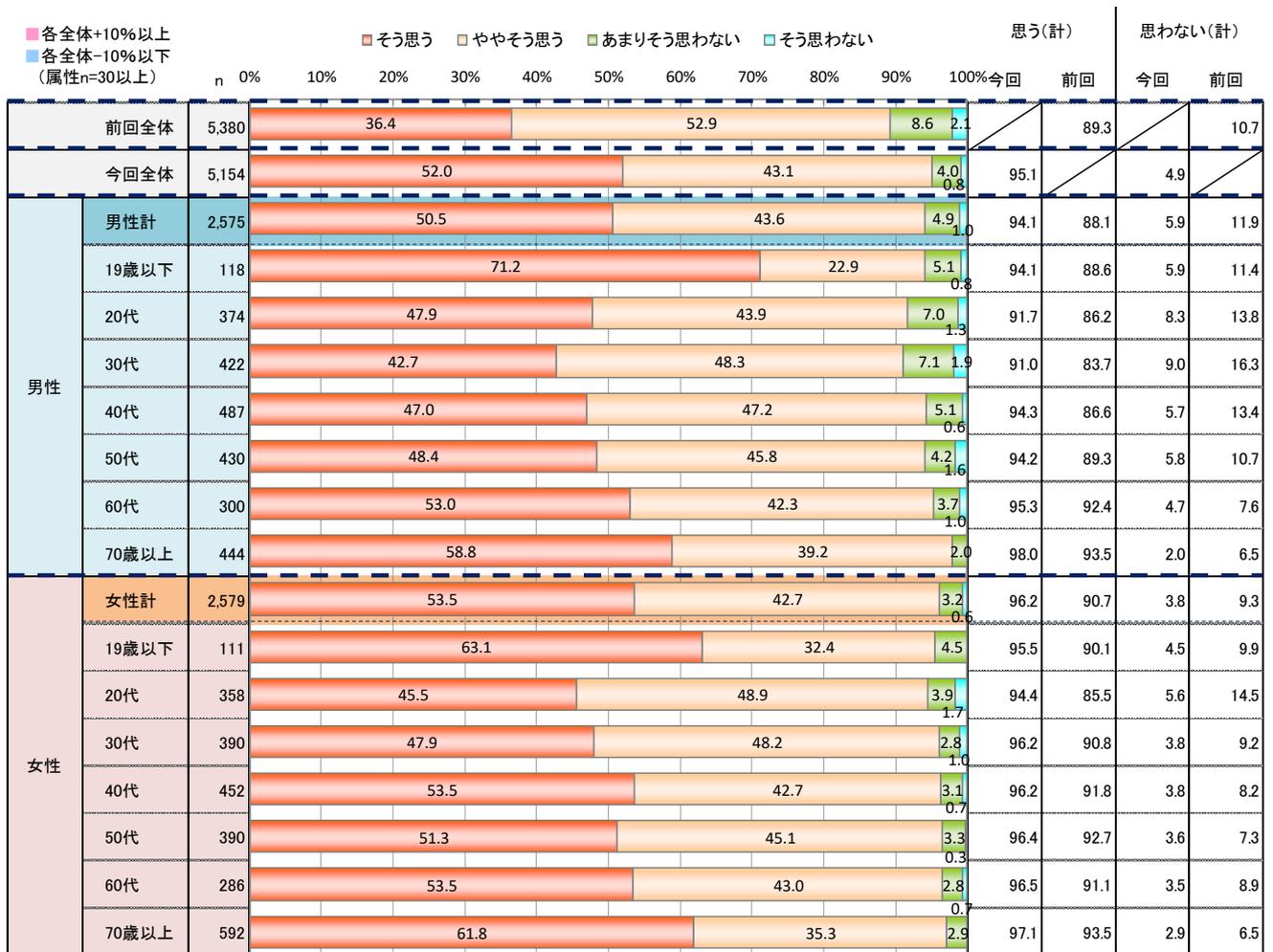
問 4. 「がん」における以下の内容について、あなたのお考えにあてはまるものをそれぞれお選びください。（択一式）
（3）多くの「がん」は早期発見により治療が可能である

【性別×年代別】

- 男女ともに 19 歳以下・70 歳以上で「そう思う」のスコアが有意に高く、19 歳以下の若年層と 70 歳以上の高齢層で同じ傾向がみられる。
- 一方、男性 30 代及び女性 20 代では「そう思う」のスコアが有意に低い。

【前回調査との比較】

- 前回調査（89.3%）と比較して、思う（計）のスコアが 5.8pt 増加。その内訳をみると、「そう思う」のスコアが特に伸びており、前回調査（36.4%）と比較して 15.6pt 増加。



2：「がん」についての認識

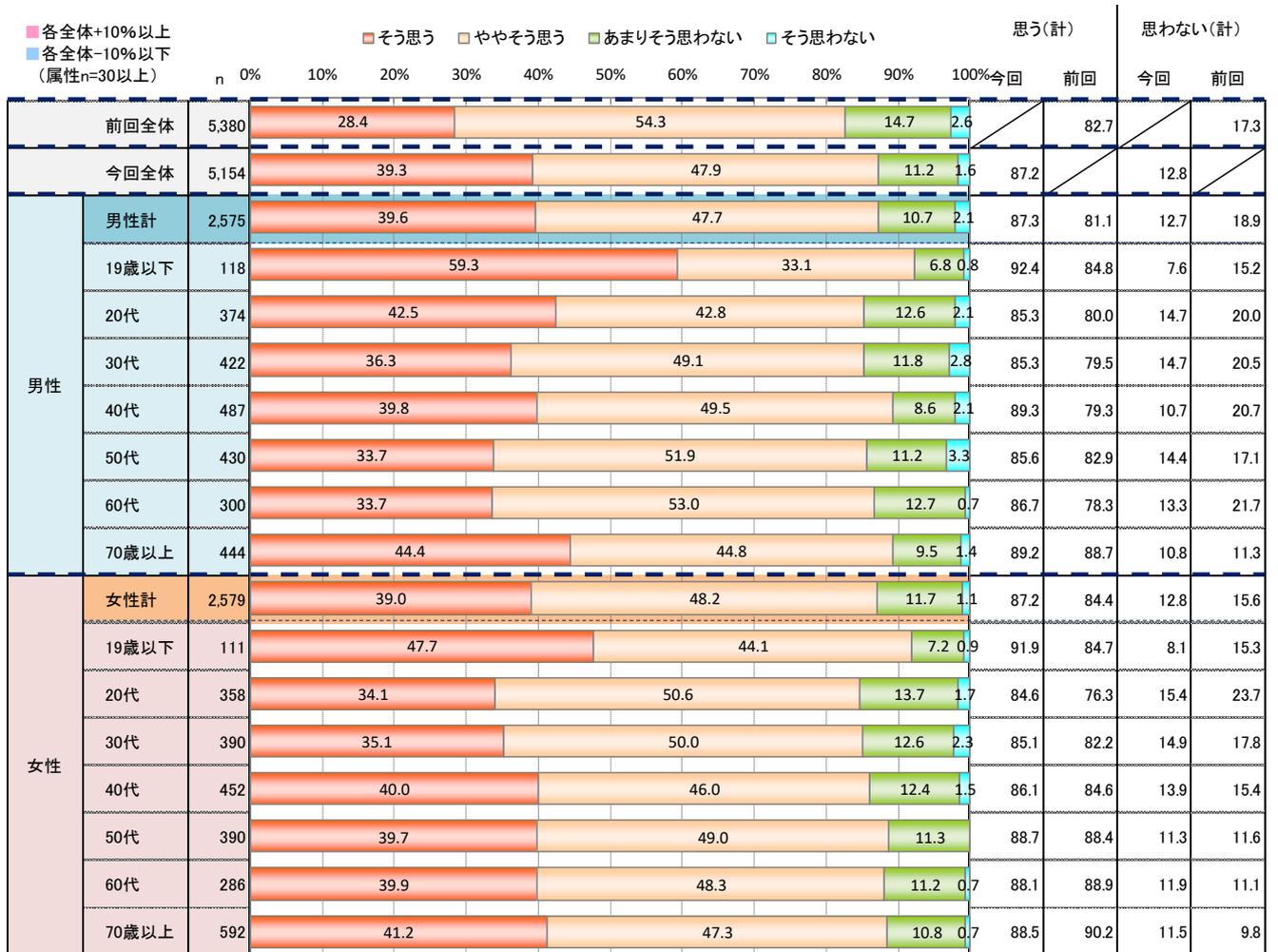
問 4. 「がん」における以下の内容について、あなたのお考えにあてはまるものそれぞれお選びください。（択一式）
（4）「がん」にならないためには生活習慣の改善が重要である

【性別×年代別】

- ・ 男性 19 歳以下・70 歳以上で「そう思う」のスコアが有意に高く、男性の若年層と高齢層で同じ傾向がみられる。
- ・ 一方、男性 50-60 代・女性 20 代では「そう思う」のスコアが有意に低い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査（82.7%）と比較して、思う（計）のスコアは 4.5pt 増加。その内訳をみると、「そう思う」のスコアが特に伸びており、前回調査（28.4%）と比較して 10.9pt 増加。



2：「がん」についての認識

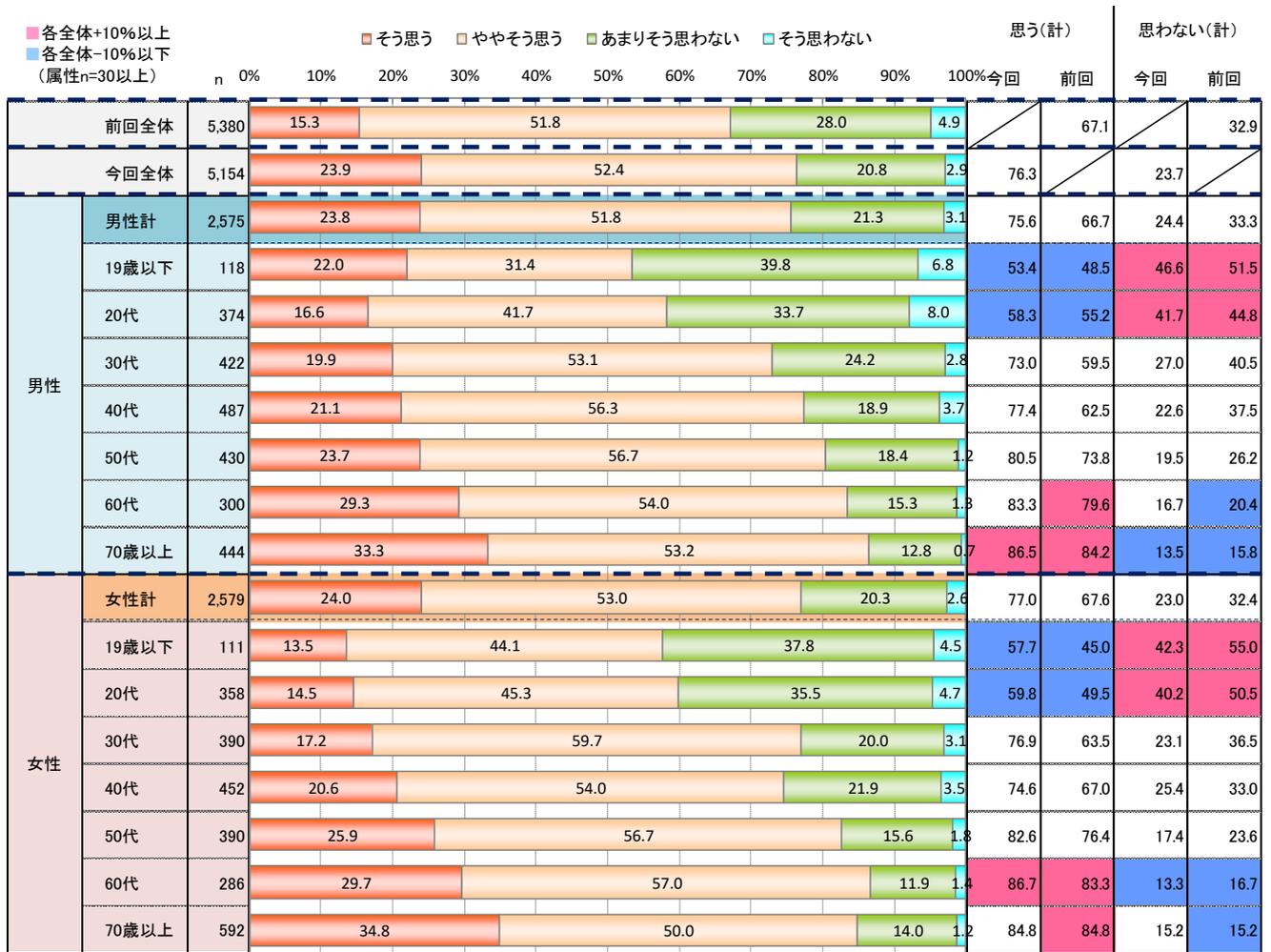
問 4. 「がん」における以下の内容について、あなたのお考えにあてはまるものをそれぞれお選びください。（択一式）
(5) 「がん」になっても治療しながら働くことは可能である

【性別×年代別】

- ・ 男性 50-70 歳代以上・女性 50-70 歳代以上において、思う(計)のスコアが有意に高い。
- ・ 一方、男女ともに 19 歳以下-20 代の若年層において、思わない(計)のスコアが有意に高く、若年層と高齢層で認識の違いがあることが窺える。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査 (67.1%) と比較して、思う(計)のスコアは 9.2pt 増加。



2：「がん」についての認識

問 5．前問の「がんになっても治療しながら働くことは可能である」について「そう思わない」「あまりそう思わない」とお答えになった方にお伺いします。
 あなたが「がんになっても治療しながら働くことは可能である」と思わない理由のうち最もあてはまるものをお選びください。（択一式）

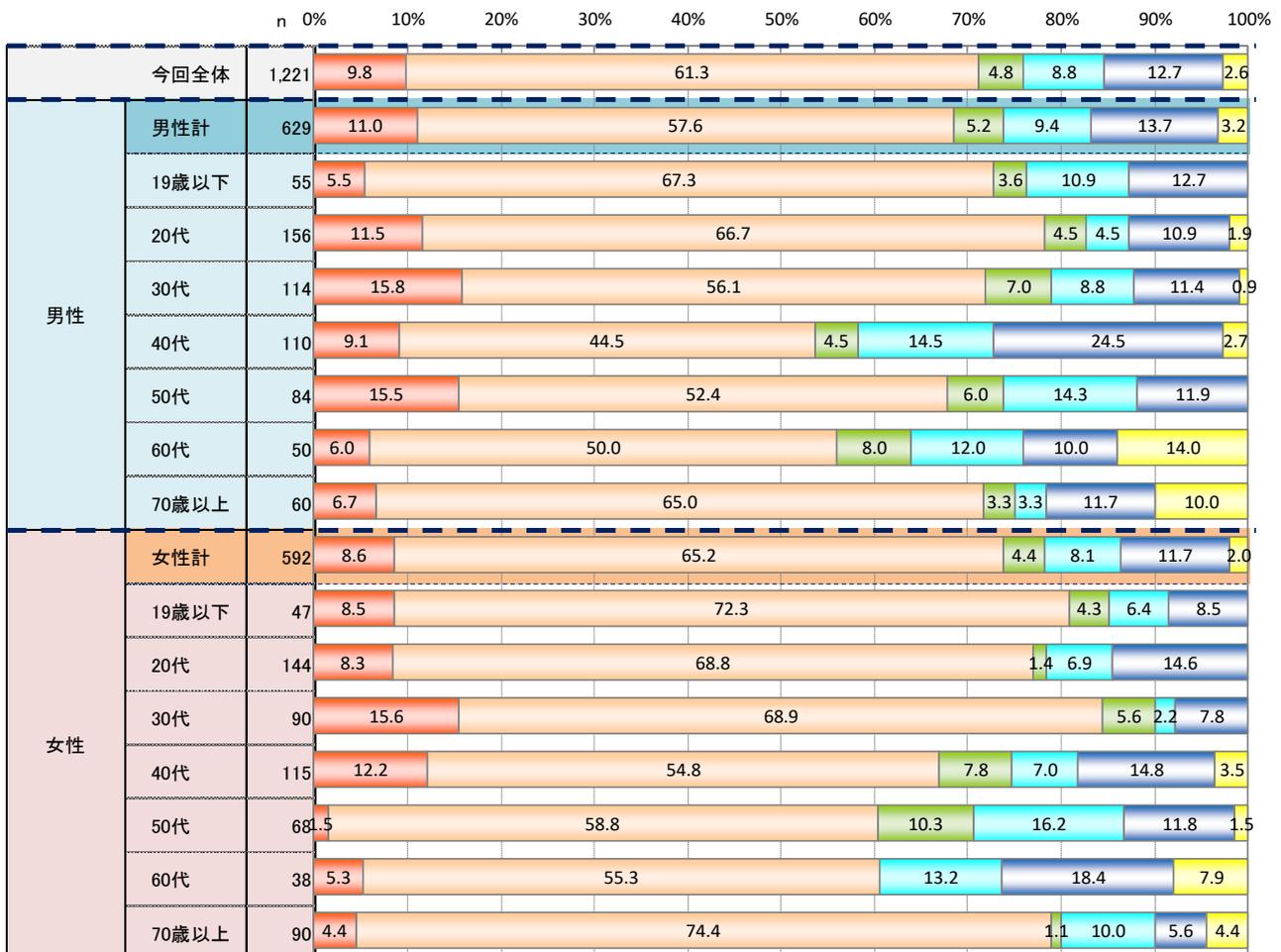
【全体】

- ・ 「体力的に難しいと思うから」が61.3%でトップ、「業務量の調整など、業務上の配慮を得ることが難しいと思うから」（12.7%）、「周囲に治療と仕事を両立している人がいないから」（9.8%）とつづく。

【性別×年代別】

- ・ いずれの性別×年代別でも「体力的に難しいと思うから」がトップ。
- ・ 男性40代において、「治療をしながら働くことについて職場の理解がなさそうに思う」のスコアが14.5%、「業務量の調整など、業務上の配慮を得ることが難しいと思うから」のスコアが24.5%と有意に高い。

- 周囲に治療と仕事を両立している人がいないから
- 体力的に難しいと思うから
- 自分の職場では入院や通院目的の休暇が取りづらいから
- 治療をしながら働くことについて職場の理解がなさそうに思うから
- 業務量の調整など、業務上の配慮を得ることが難しいと思うから
- その他



3 : 「がん」に関する知識

問 6. あなたは「がん」に関する以下の内容についてご存じですか。(択一式)
 (1) 日本人のおよそ二人に一人が「がん」になる

【全体】

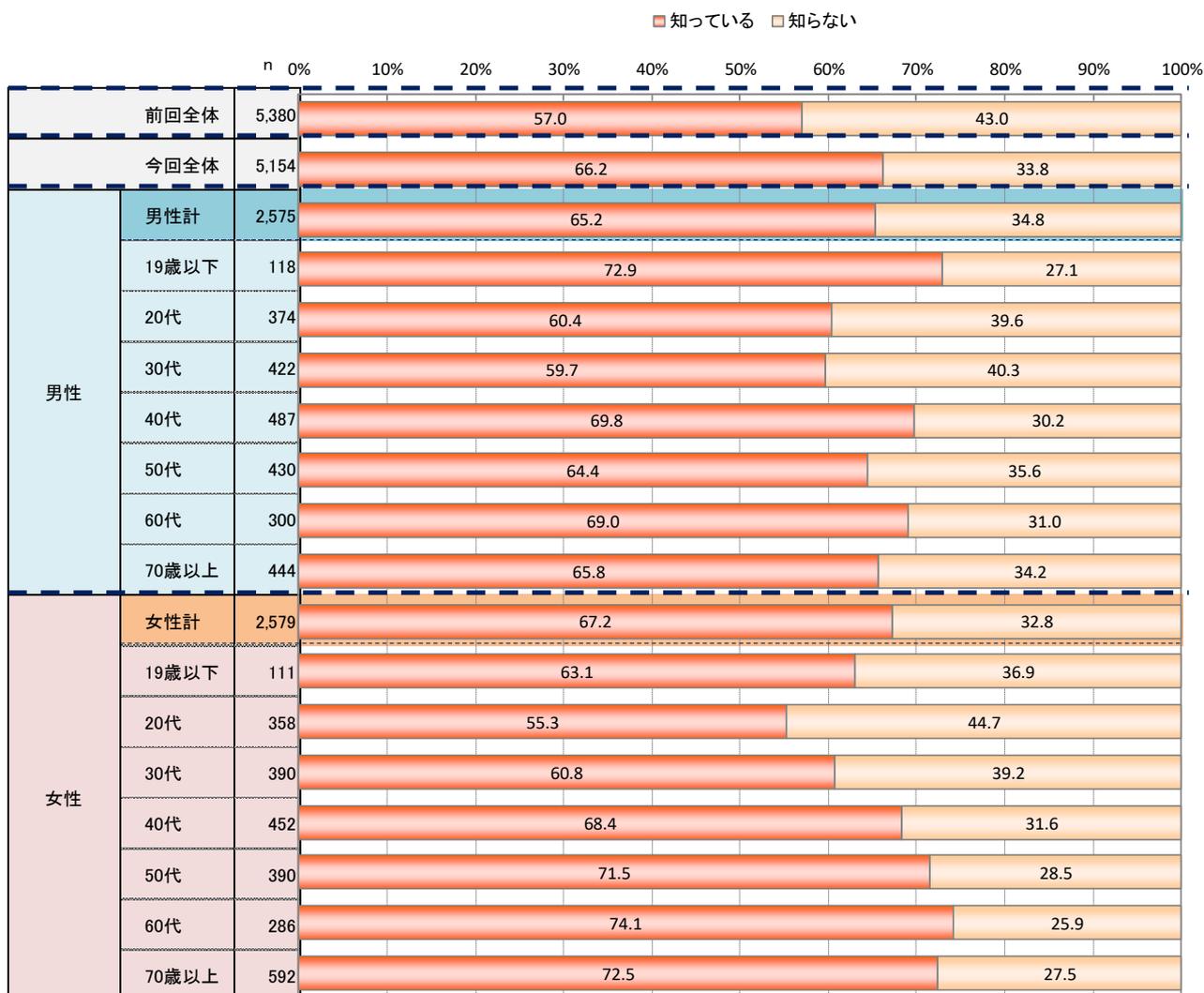
- ・ 「知っている」が 66.2%、「知らない」が 33.8%で「知っている」のスコアが 32.4pt 高い。

【性別×年代別】

- ・ 女性 50-70 歳以上において「知っている」のスコアが有意に高い。
- ・ 一方、男女ともに 20-30 代は「知っている」のスコアが有意に低い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査 (57.0%) と比較して、「知っている」のスコアが 9.2pt 増加。



3 : 「がん」に関する知識

問 6 . あなたは「がん」に関する以下の内容についてご存じですか。 (択一式)
 (2) 「がん」になる人は高齢になるほど増加する

【全体】

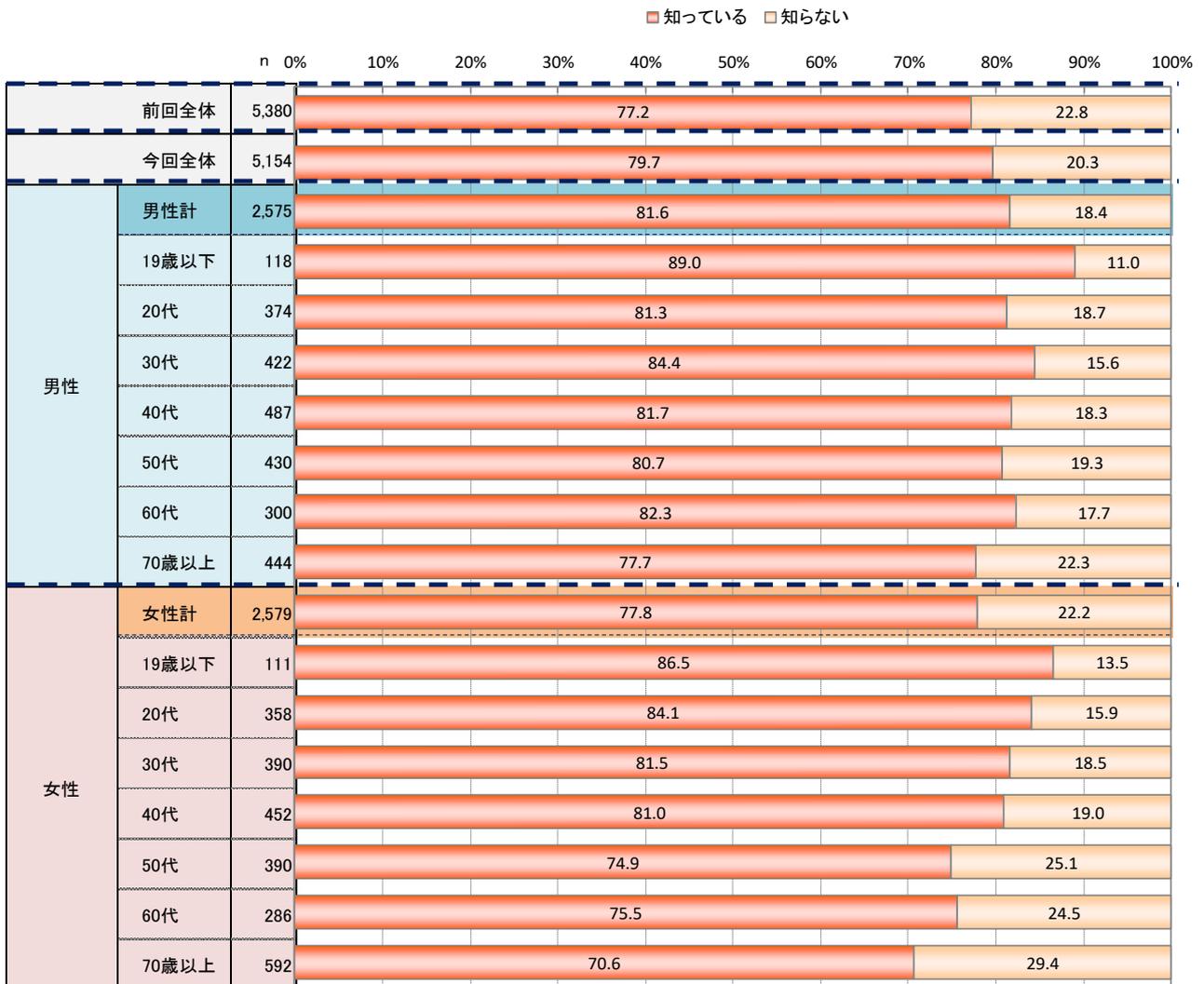
- ・ 「知っている」が79.7%、「知らない」が20.3%で「知っている」のスコアが59.4pt 高い。

【性別×年代別】

- ・ 男性 19 歳以下において「知っている」のスコアが89.0%と有意に高い。
- ・ 一方、女性 70 歳以上は「知っている」のスコアが70.6%と有意に低い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査 (77.2%) と比較して、「知っている」のスコアが2.5pt 増加。



3 : 「がん」に関する知識

問 6 . あなたは「がん」に関する以下の内容についてご存じですか。(択一式)
(3) 若い世代では男性より女性のほうが「がん」になる人が多い

【全体】

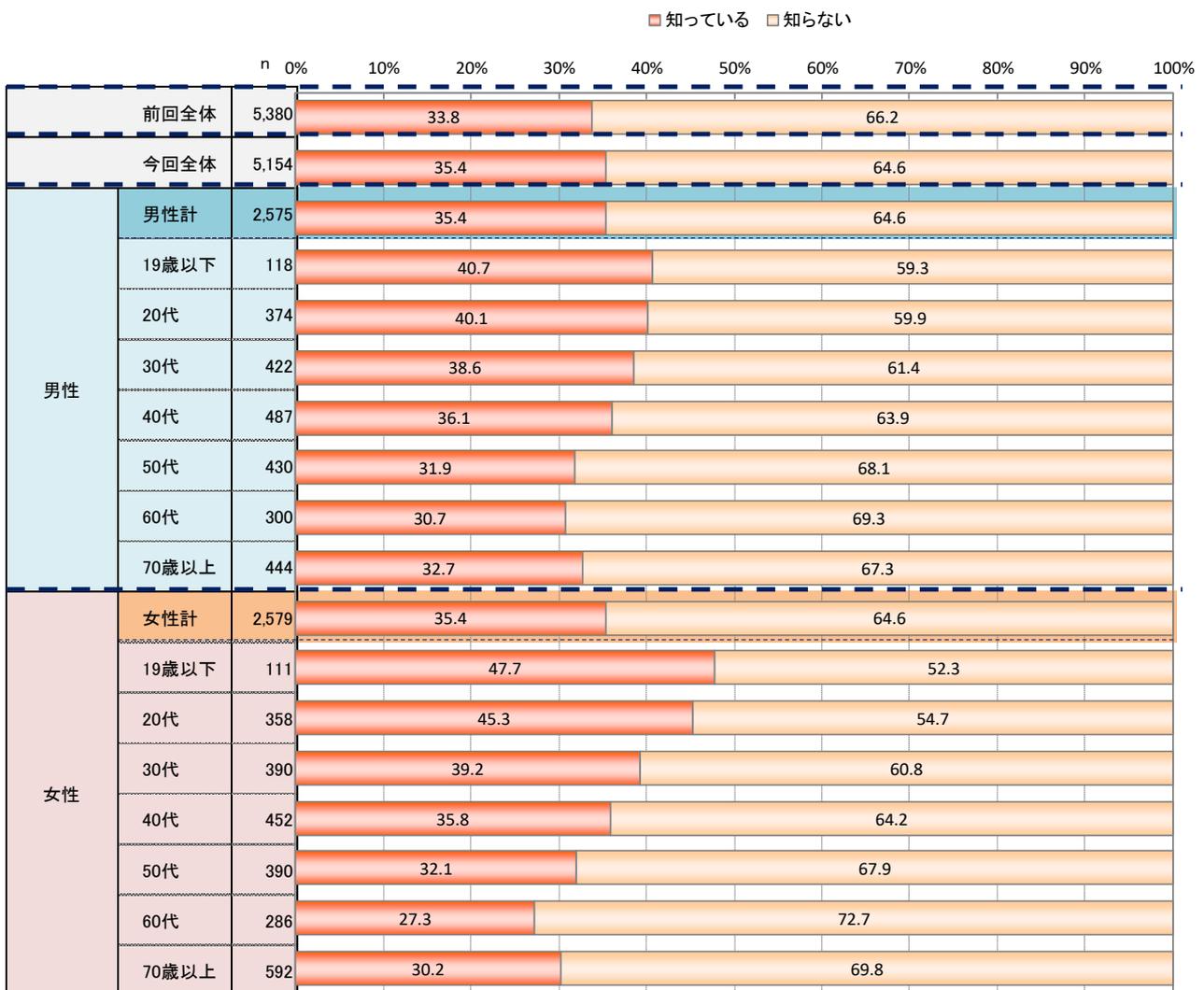
- ・ 「知っている」が 35.4%、「知らない」が 64.6%で「知らない」のスコアが 29.2pt 高い。

【性別×年代別】

- ・ 女性 19 歳以下-20 代において「知っている」のスコアが有意に高い。
- ・ 一方、女性 60-70 歳以上は「知っている」のスコアが有意に低い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査と比較して、大きな差異はみられない。



3 : 「がん」に関する知識

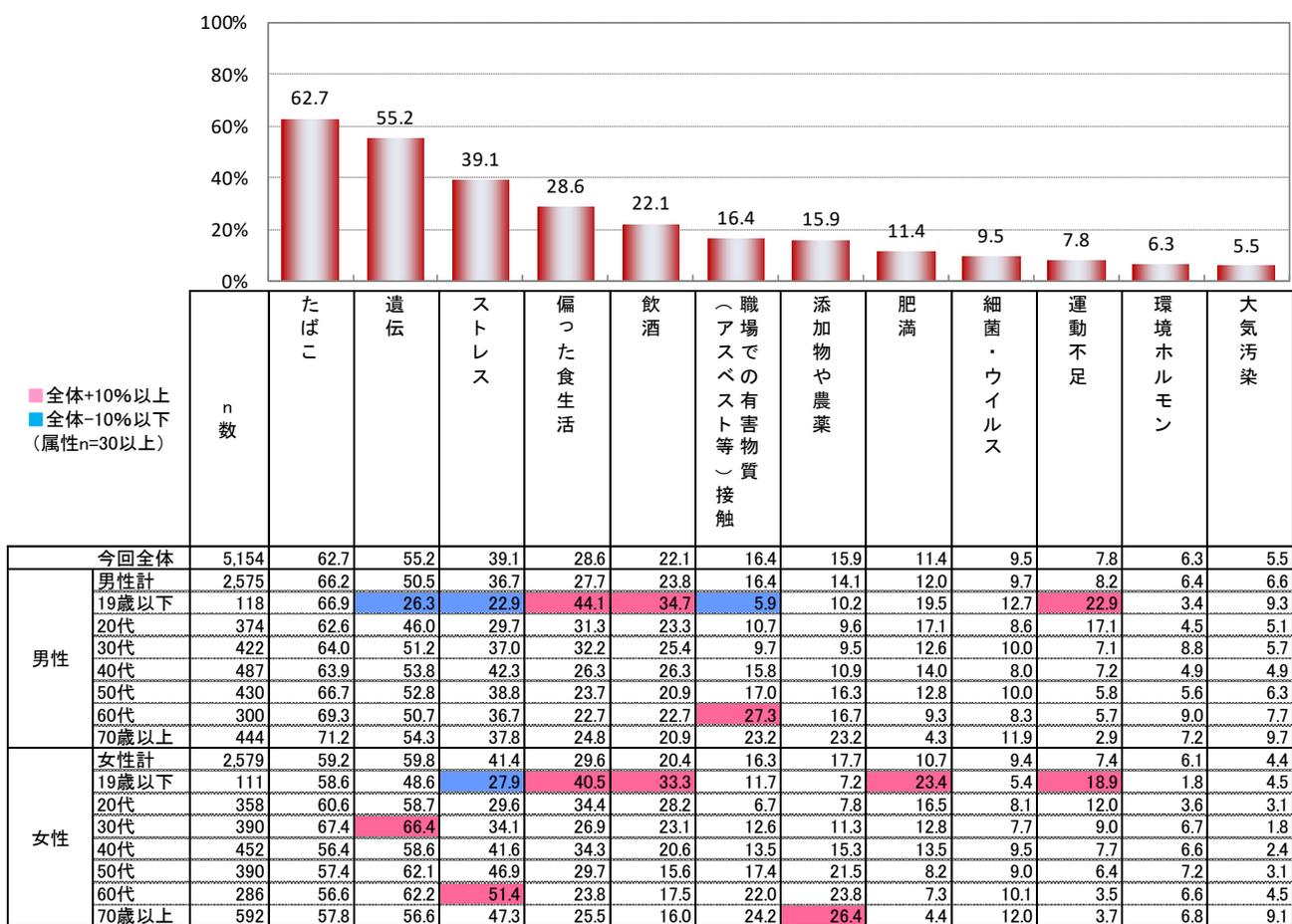
問 7. 以下のうち、「がん」の原因になると思うものを3つまでお選びください。（複数回答）
 ※4つ以上あてはまる方は、特に「がん」の原因になると思うものをお選びください。

【全体】

- ・ 「たばこ」が62.7%でトップ、「遺伝」（55.2%）、「ストレス」（39.1%）、「偏った食生活」（28.6%）とつづく。

【性別×年代別】

- ・ 男女ともに19歳以下において「偏った食生活」「飲酒」「運動不足」がそれぞれ有意に高い。
- ・ 男性60代では「職場での有害物質（アスベスト等）接触」、女性30代では「遺伝」、女性60代では「ストレス」、女性70歳以上では「添加物や農薬」が有意に高い。



3 : 「がん」に関する知識

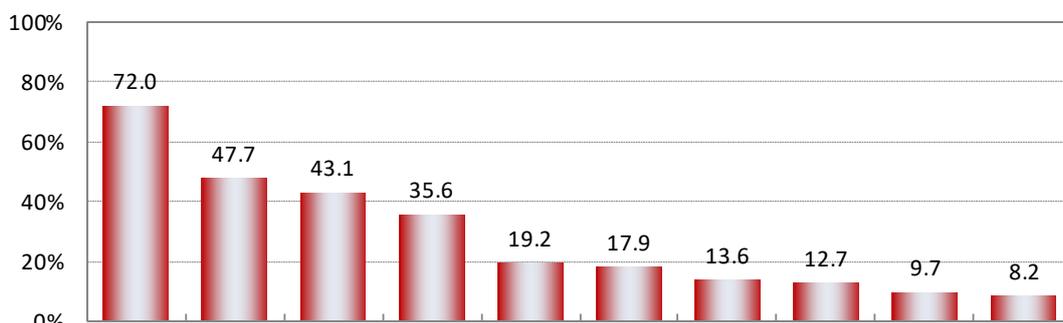
問 8 . 以下のうち、「がん」の危険性を高めると思うものを3つまでお選びください。(複数回答)
 ※4つ以上あてはまる方は、特に「がん」の危険性を高めると思うものをお選びください。

【全体】

- ・ 「たばこを吸う習慣があること」が72.0%でトップ、「放射線に被曝すること」(47.7%)、「他人のたばこの煙を吸うこと(受動喫煙)」(43.1%)とつづく。

【性別×年代別】

- ・ 男性70歳以上・女性60-70歳以上において「放射線に被曝すること」のスコアが有意に高い。



		n 数	たばこを吸う習慣があること	放射線に被曝すること	他人のたばこの煙を吸うこと(受動喫煙)	お酒を飲みすぎる	塩分を摂り過ぎること	太り過ぎや痩せ過ぎること	運動不足であること	や保肉(牛・豚の肉)を摂り過ぎること	赤肉(牛・豚の肉)不足すること	野菜・果物の摂取が不足すること	飲食物を熱い状態で摂ること
今回全体		5,154	72.0	47.7	43.1	35.6	19.2	17.9	13.6	12.7	9.7	8.2	
男性	男性計	2,575	72.3	47.1	40.9	37.2	19.8	18.4	15.4	9.7	9.6	6.8	
	19歳以下	118	65.3	37.3	44.9	40.7	19.5	17.8	29.7	11.9	8.5	4.2	
	20代	374	65.0	34.8	35.8	36.1	21.7	21.7	21.7	9.9	8.0	7.8	
	30代	422	69.0	38.4	41.2	37.4	19.0	24.4	15.6	9.0	9.7	7.6	
	40代	487	73.1	43.7	40.9	37.6	20.5	19.9	17.7	10.7	7.4	4.5	
	50代	430	72.8	53.7	46.0	34.0	19.8	17.0	12.6	9.3	9.1	5.6	
	60代	300	77.0	57.0	42.0	37.0	20.7	11.7	11.0	10.0	10.0	7.0	
女性	70歳以上	444	79.3	59.2	37.8	39.6	17.6	14.6	9.5	8.8	14.0	9.7	
	女性計	2,579	71.6	48.3	45.4	34.0	18.6	17.3	11.8	15.8	9.7	9.7	
	19歳以下	111	75.7	36.9	44.1	53.2	24.3	19.8	16.2	3.6	10.8	1.8	
	20代	358	71.8	37.4	42.7	35.2	21.8	24.9	17.3	8.7	7.3	4.5	
	30代	390	75.6	38.5	48.7	34.4	20.8	22.3	12.3	14.6	6.9	6.2	
	40代	452	70.8	39.8	40.9	35.6	21.5	21.9	15.0	17.3	8.6	7.5	
	50代	390	69.2	51.8	44.1	31.3	15.4	17.7	10.3	19.2	12.1	10.3	
60代	286	69.6	61.2	51.4	30.4	13.3	13.6	8.4	18.5	9.8	11.9		
70歳以上	592	71.1	61.3	46.3	31.9	16.7	6.9	7.6	18.4	12.0	16.7		

4 : 「がん」検診について

問9. 「がん検診」についてお伺いします。

以下のそれぞれの「がん」について、何歳から「がん検診」を受ければよいと思いますか。
(択一式)

(ア) 胃がん

【全体】

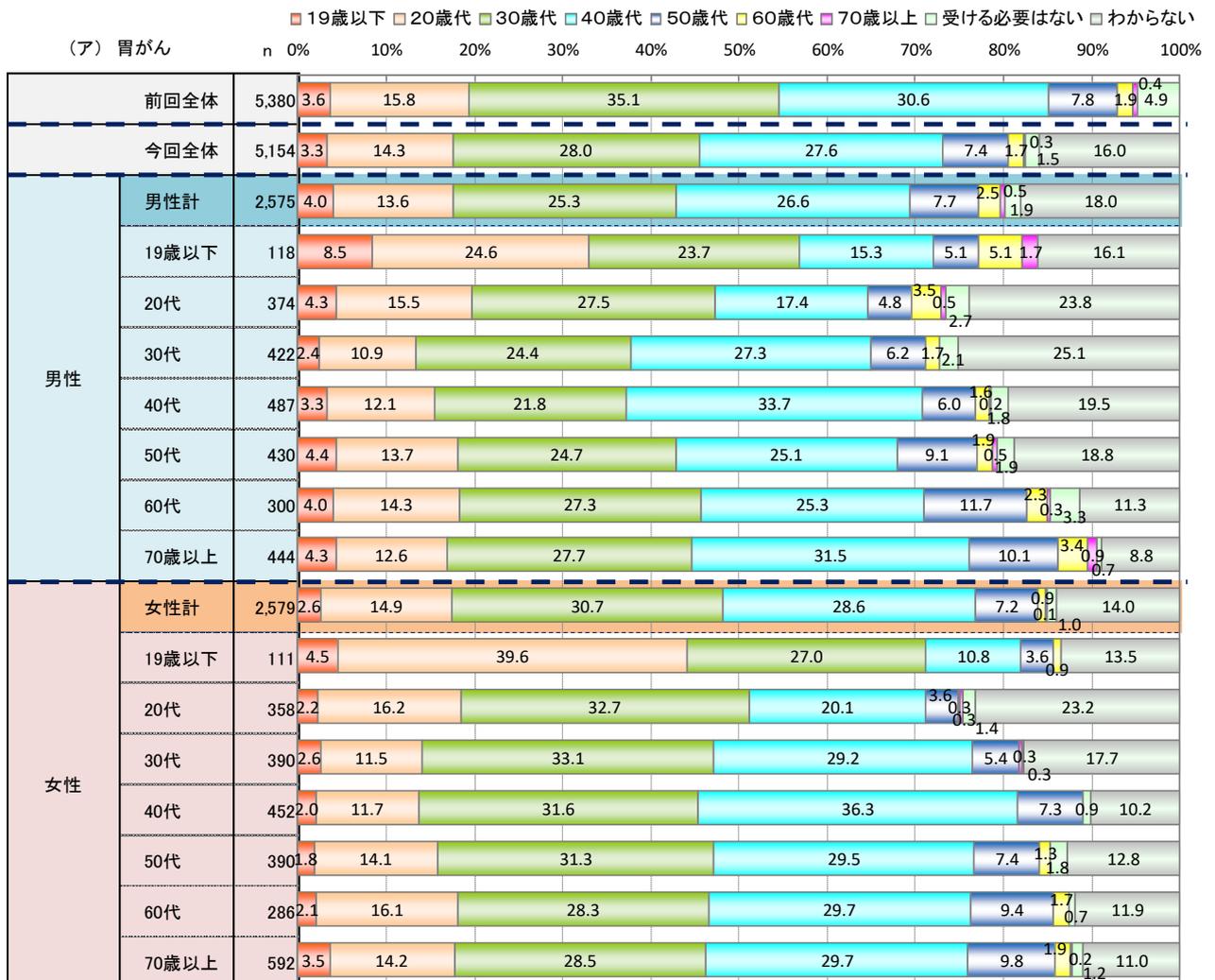
- ・ 「30歳代」が28.0%、「40歳代」が27.6%で過半数を占めている。「わからない」は16.0%。

【性別×年代別】

- ・ 男女ともに19歳以下において「20歳代」のスコアが有意に高く、中でも女性は39.6%にのぼる。
- ・ 男性20-40代と女性20代において「わからない」のスコアが有意に高い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査と比較して、「30歳代」「40歳代」のスコアが特に減少。



※ 前回調査では、「わからない」は選択肢になし。

4 : 「がん」検診について

問9. 「がん検診」についてお伺いします。

以下のそれぞれの「がん」について、何歳から「がん検診」を受ければよいと思いますか。
(択一式)

(イ) 肺がん

【全体】

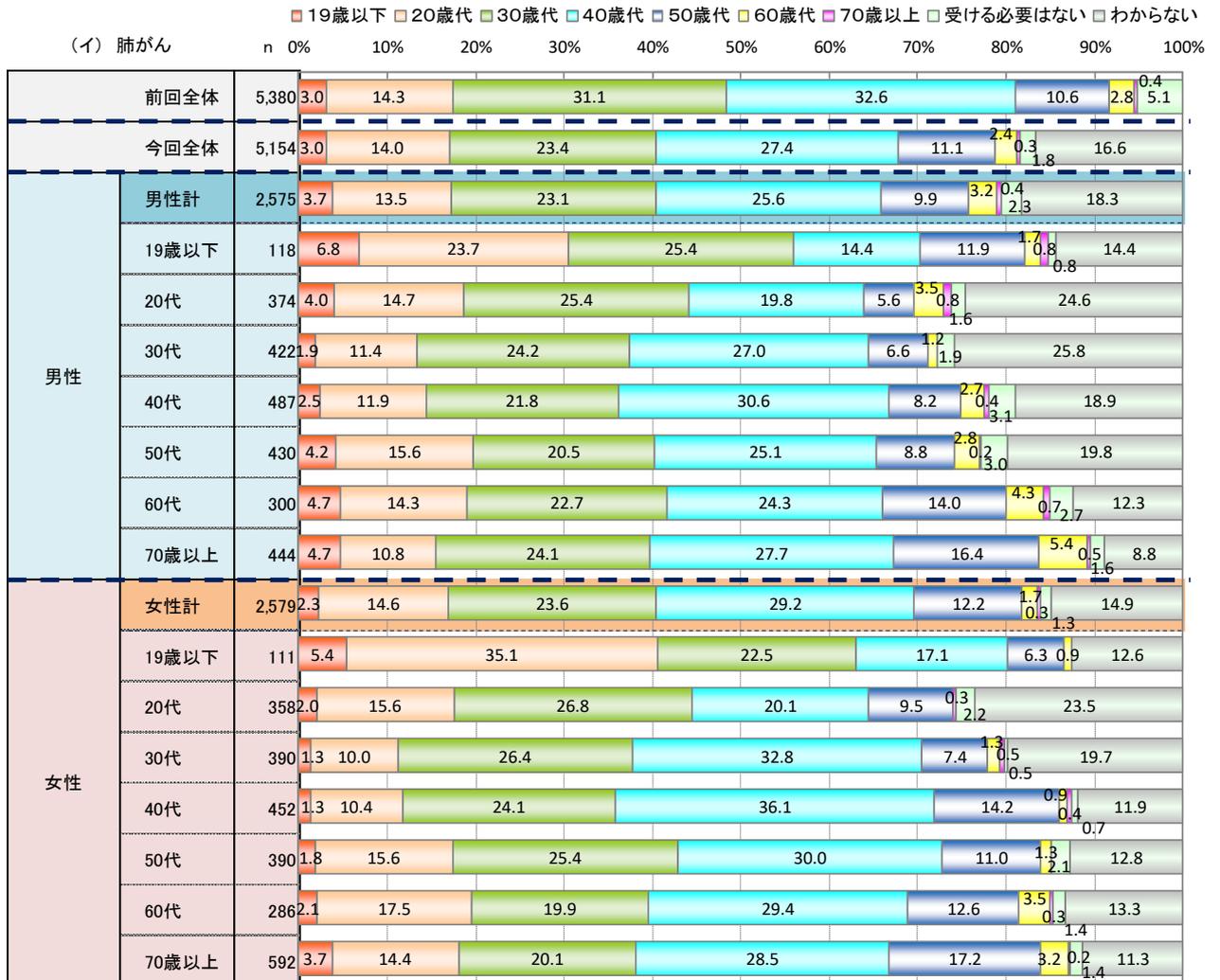
- ・ 「40歳代」が27.4%、「30歳代」が23.4%で約半数を占めている。「わからない」は16.6%。

【性別×年代別】

- ・ 男女ともに19歳以下において「20歳代」のスコアが有意に高く、中でも女性は35.1%にのぼる。
- ・ 男性20-30代と女性20代において「わからない」のスコアが有意に高い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査と比較して、「30歳代」「40歳代」のスコアが特に減少。



※ 前回調査では、「わからない」は選択肢になし。

4 : 「がん」検診について

問 9. 「がん検診」についてお伺いします。

以下のそれぞれの「がん」について、何歳から「がん検診」を受ければよいと思いますか。
(択一式)

(ウ) 大腸がん

【全体】

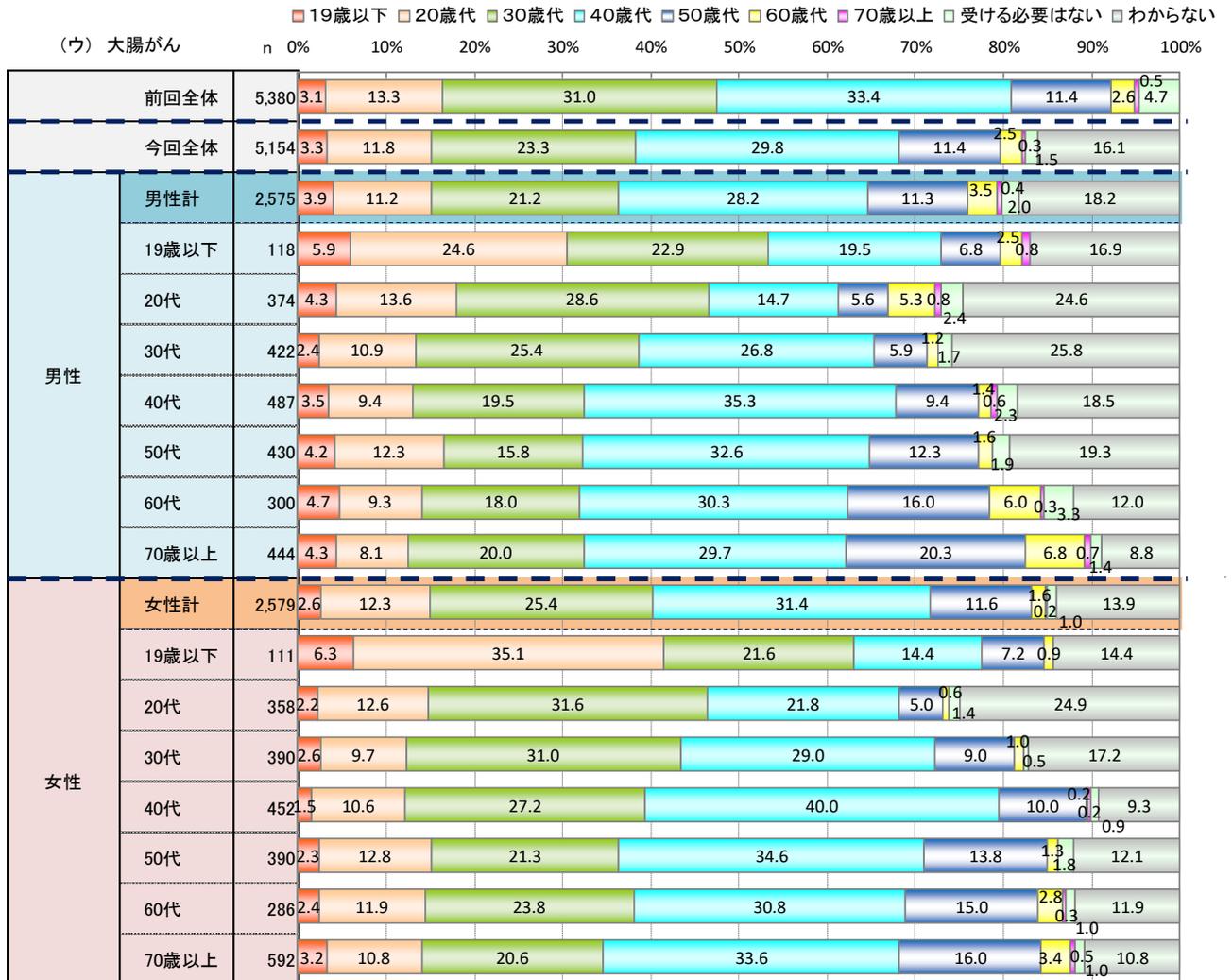
- ・ 「40 歳代」が 29.8%、「30 歳代」が 23.3%で過半数を占めている。「わからない」は 16.1%。

【性別×年代別】

- ・ 男女ともに 19 歳以下において「20 歳代」のスコアが有意に高く、中でも女性は 35.1%にのぼる。
- ・ また、女性 40 代では「40 歳代」のスコアが有意に高い。
- ・ 男性 20-30 代と女性 20 代において「わからない」のスコアが有意に高い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査と比較して、「30 歳代」「40 歳代」のスコアが特に減少。



4 : 「がん」検診について

問9. 「がん検診」についてお伺いします。

以下のそれぞれの「がん」について、何歳から「がん検診」を受ければよいと思いますか。
(択一式)

(エ) 子宮頸がん

【全体】

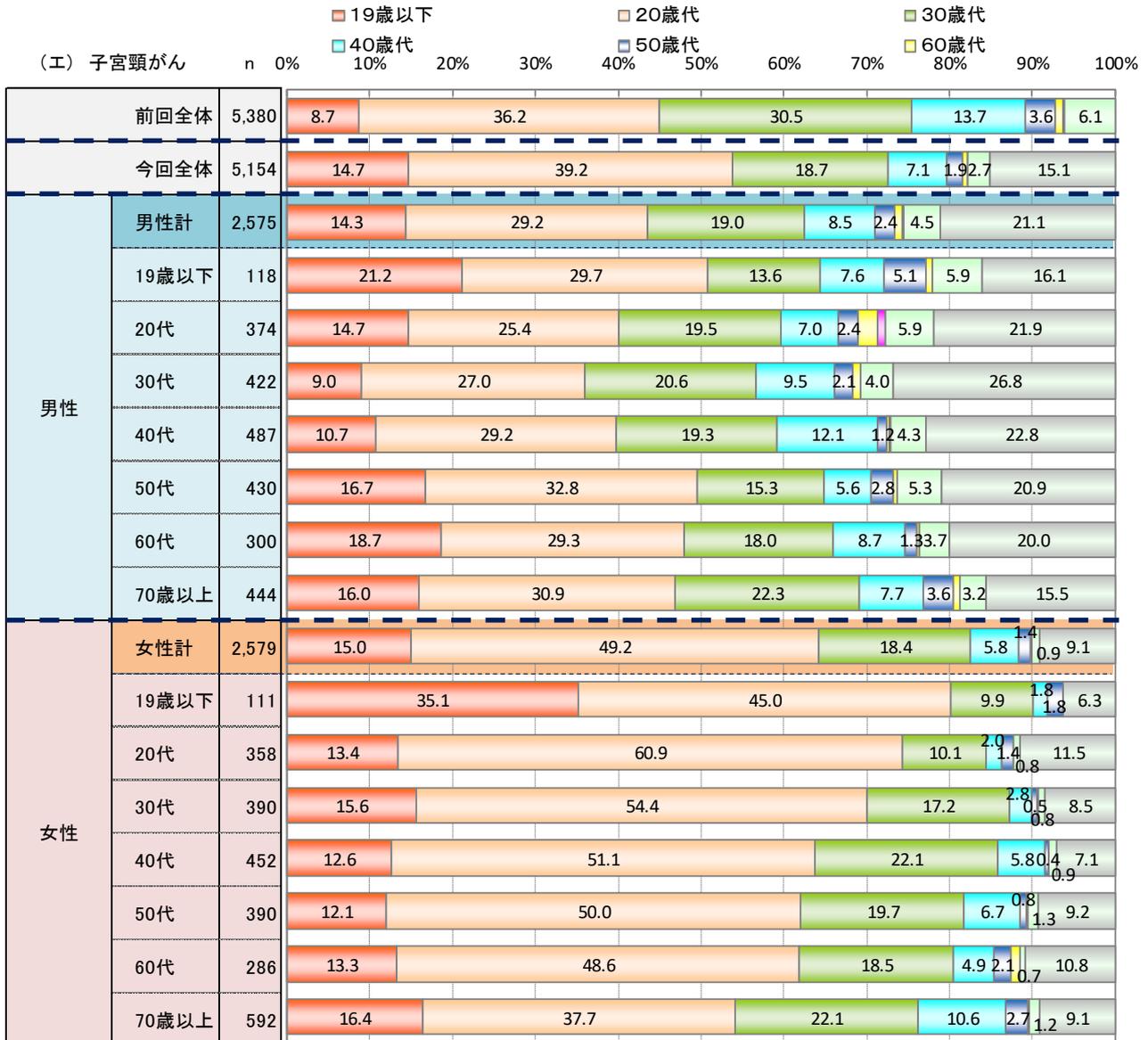
- ・ 「20歳代」が39.2%、「30歳代」が18.7%で過半数を占めている。「わからない」は15.1%。

【性別×年代別】

- ・ 女性19歳以下では「19歳以下」、女性20-60代では「20歳代」のスコアが有意に高い。
- ・ 男性20-60代において「わからない」のスコアが有意に高い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査と比較して、「19歳以下」「20歳代」のスコアが微増。



※ 前回調査では、「わからない」は選択肢になし。

※ 「60代」「70歳以上」の回答者割合はグラフ上では数字が小さくなるためP25にて抜粋

4 : 「がん」検診について
オ 乳がん

問 9. 「がん検診」についてお伺いします。

以下のそれぞれの「がん」について、何歳から「がん検診」を受ければよいと思いますか。
(択一式)

(オ) 乳がん

【全体】

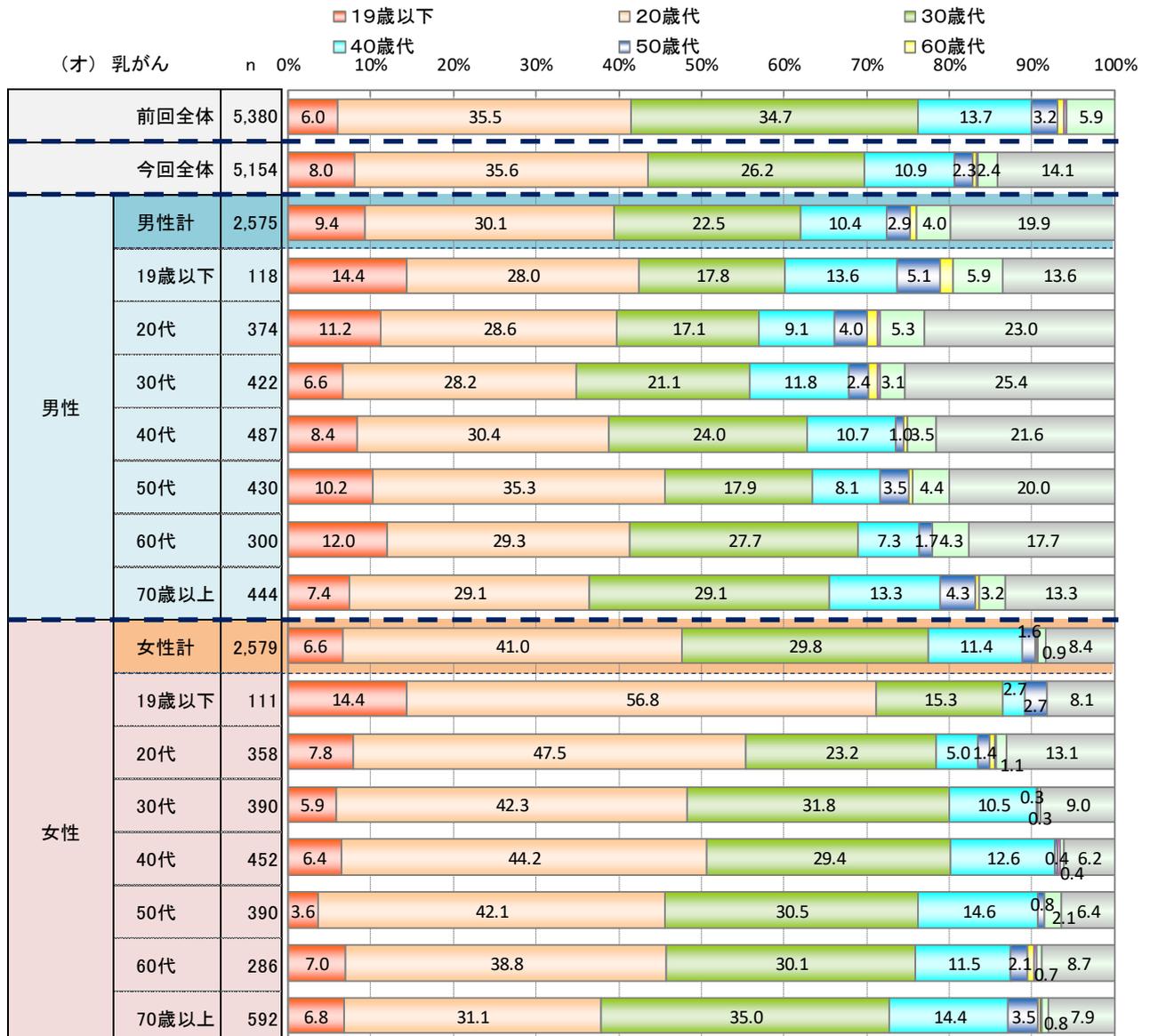
- ・ 「20歳代」が35.6%、「30歳代」が26.2%で全体の6割以上を占めている。「わからない」は14.1%。

【性別×年代別】

- ・ 男女ともに19歳以下では「19歳以下」、女性19歳以下-50代では「20歳代」、女性30代・70歳以上では「30歳代」のスコアが有意に高い。
- ・ 男性20-50代において「わからない」のスコアが有意に高い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査(34.7%)と比較して、「30歳代」のスコアが8.5pt減少。



※ 前回調査では、「わからない」は選択肢になし。

※ 「60代」「70歳以上」の回答者割合はグラフ上では数字が小さくなるためP25にて抜粋

(エ) 子宮頸がん

	60歳代	70歳以上	(単位:%)
前回全体	0.9	0.2	
今回全体	0.5	0.1	
男性計	0.9	0.2	
19歳以下	0.8	-	
20代	2.4	0.8	
30代	0.9	-	
40代	0.2	0.2	
50代	0.5	-	
60代	0.3	-	
70歳以上	0.9	-	
女性計	0.2	-	
19歳以下	-	-	
20代	-	-	
30代	0.3	-	
40代	-	-	
50代	0.3	-	
60代	1.0	-	
70歳以上	0.2	-	

(オ) 乳がん

	60歳代	70歳以上	(単位:%)
前回全体	0.8	0.3	
今回全体	0.5	0.1	
男性計	0.7	0.1	
19歳以下	1.7	-	
20代	1.3	0.3	
30代	1.2	0.2	
40代	0.4	-	
50代	0.5	-	
60代	-	-	
70歳以上	0.5	-	
女性計	0.2	0.2	
19歳以下	-	-	
20代	0.6	0.3	
30代	-	-	
40代	-	0.2	
50代	-	-	
60代	0.7	0.3	
70歳以上	0.3	0.2	

4 : 「がん」検診について

(2) 受診機会

ア 希望の形態

問 1 0. がん検診を受診する際、どのような機会を受診したいですか。(択一式)

※前回調査では複数回答、今回はひとつを選択

【全体】

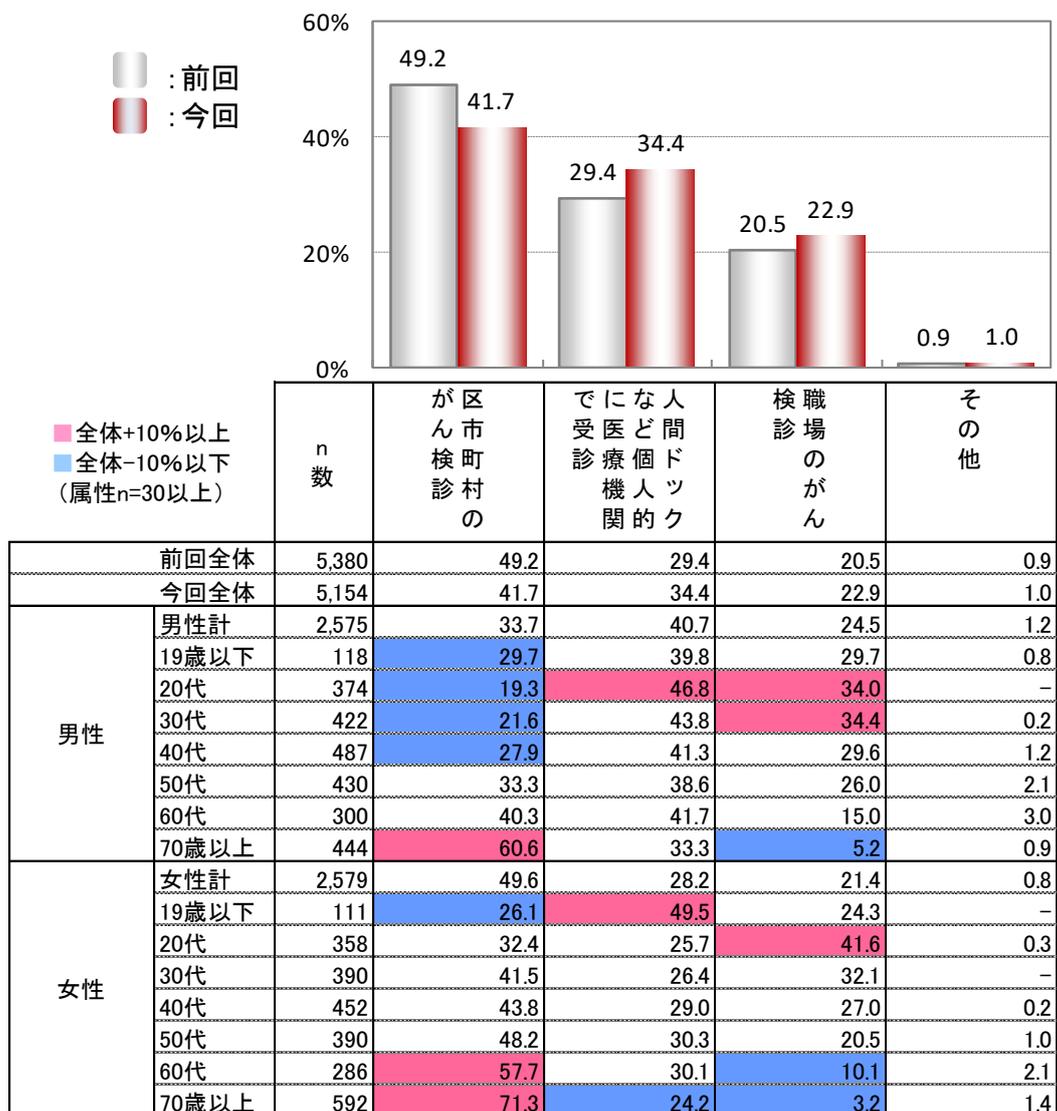
- ・ 「区市町村のがん検診」が 41.7%でトップ、「人間ドックなど個人的に医療機関で受診」(34.4%)、「職場のがん検診」(22.9%)とつづく。

【性別×年代別】

- ・ 男性 70 歳以上・女性 60 代-70 歳以上において「区市町村のがん検診」のスコアが有意に高い。
- ・ また男性 20 代・女性 19 歳以下は「人間ドックなど個人的に医療機関で受診」、男性 20-30 代・女性 20 代は「職場のがん検診」のスコアがそれぞれ有意に高い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査と比較して、「区市町村のがん検診」のスコアは 7.5pt 減少。
- ・ 一方、「人間ドックなど個人的に医療機関で受診」は 5.0pt、「職場のがん検診」は 2.4pt 増加。



4：「がん」検診について

(2) 受診機会

イ 受診対象

問 1 1. がん検診は健康な人が受けるものであることを知っていますか。(択一式)

【全体】

- ・ 「知っている」が 80.2%、「知らない」が 19.8%となり、8割以上が「知っている」と回答。

【性別×年代別】

- ・ 男性 60-70 歳以上・女性 50 代・70 歳以上において「知っている」のスコアが有意に高い。
- ・ 一方、男性 19 歳以下-30 代、女性 20 代では「知っている」のスコアが有意に低い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査と比較して、大きな差異はみられない。



4 : 「がん」検診について

(3) 「がん」検診に関し、提供してほしい情報

問 1 2. 「がん」検診について、東京都からどのような情報が得られるとよいと思いますか。
(択一式)

【全体】

- ・ 「がん検診に関する自治体の取組が比較できる情報」が 35.5%でトップ、「専門用語の説明やデータの見方の説明」(25.0%)、「がん検診受診率等の過去数年間の変化」(20.0%)とつづく。

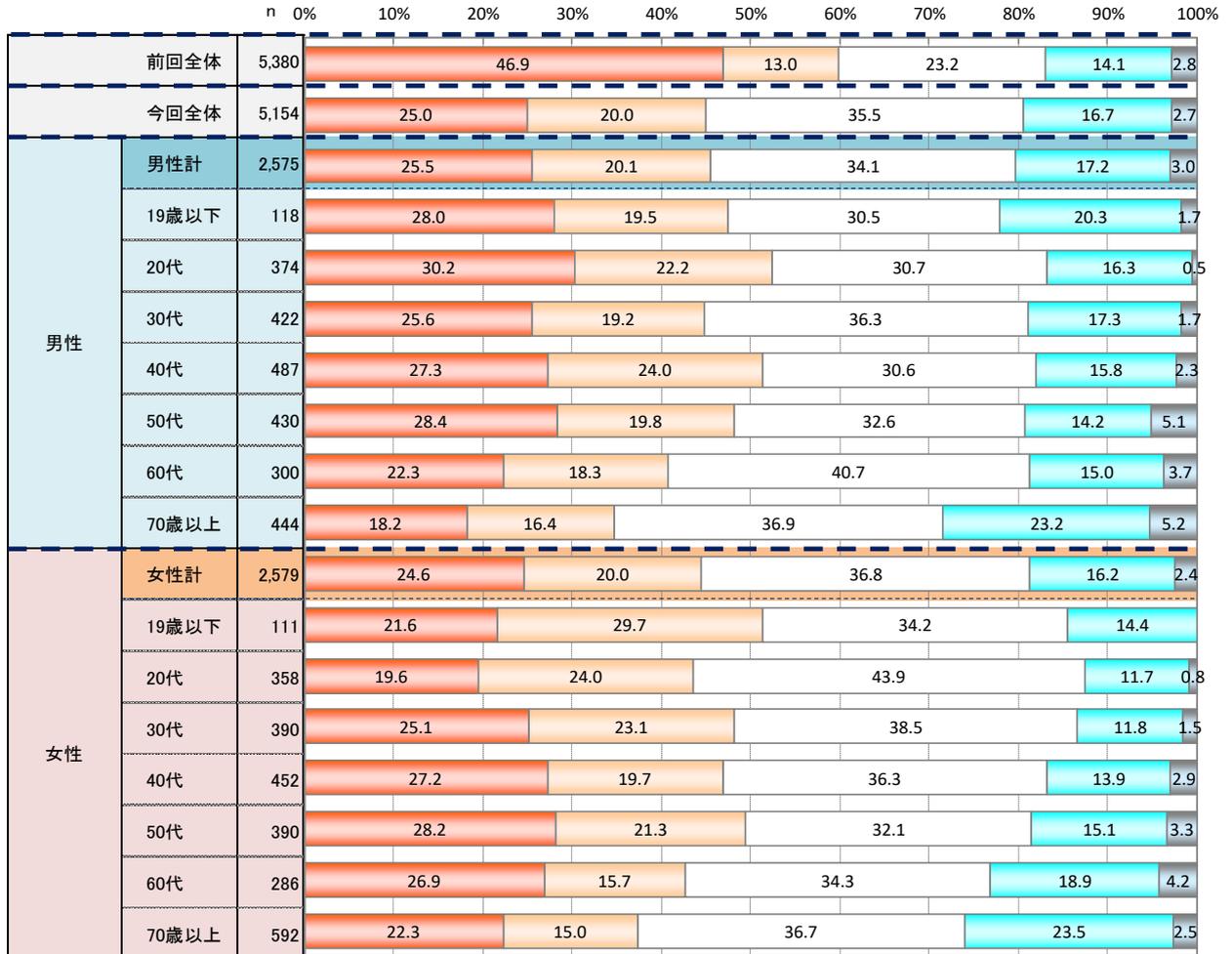
【性別×年代別】

- ・ 男性 20 代は「専門用語の説明やデータの見方の説明」、男性 40 代と女性 19 歳以下は「がん検診受診率等の過去数年間の変化」、女性 20 代は「がん検診に関する自治体の取組が比較できる情報」のスコアがそれぞれ有意に高い。
- ・ また、男女ともに 70 歳以上は「がん検診に関する最新の文献・研究論文の紹介」のスコアが有意に高い。

【前回調査との比較】

- ・ 「がん検診に関する自治体の取組が比較できる情報」は 12.3pt、「がん検診受診率等の過去数年間の変化」は 7.0pt 増加。
- ・ 一方、「専門用語の説明やデータの見方の説明」は 21.9%と減少。

- 専門用語の説明やデータの見方の説明
- がん検診受診率等の過去数年間の変化
- がん検診に関する自治体の取組が比較できる情報
- がん検診に関する最新の文献・研究論文の紹介
- その他



5 : 「肝炎ウイルス」について
 (1) 肝炎ウイルスの認知度

問 13. あなたは「肝炎ウイルス」をご存じですか。(択一式)

【全体】

- ・ 認知計は 69.8%。内訳をみると「聞いたことがある」が 58.5%と認知計の大半を占める。

【性別×年代別】

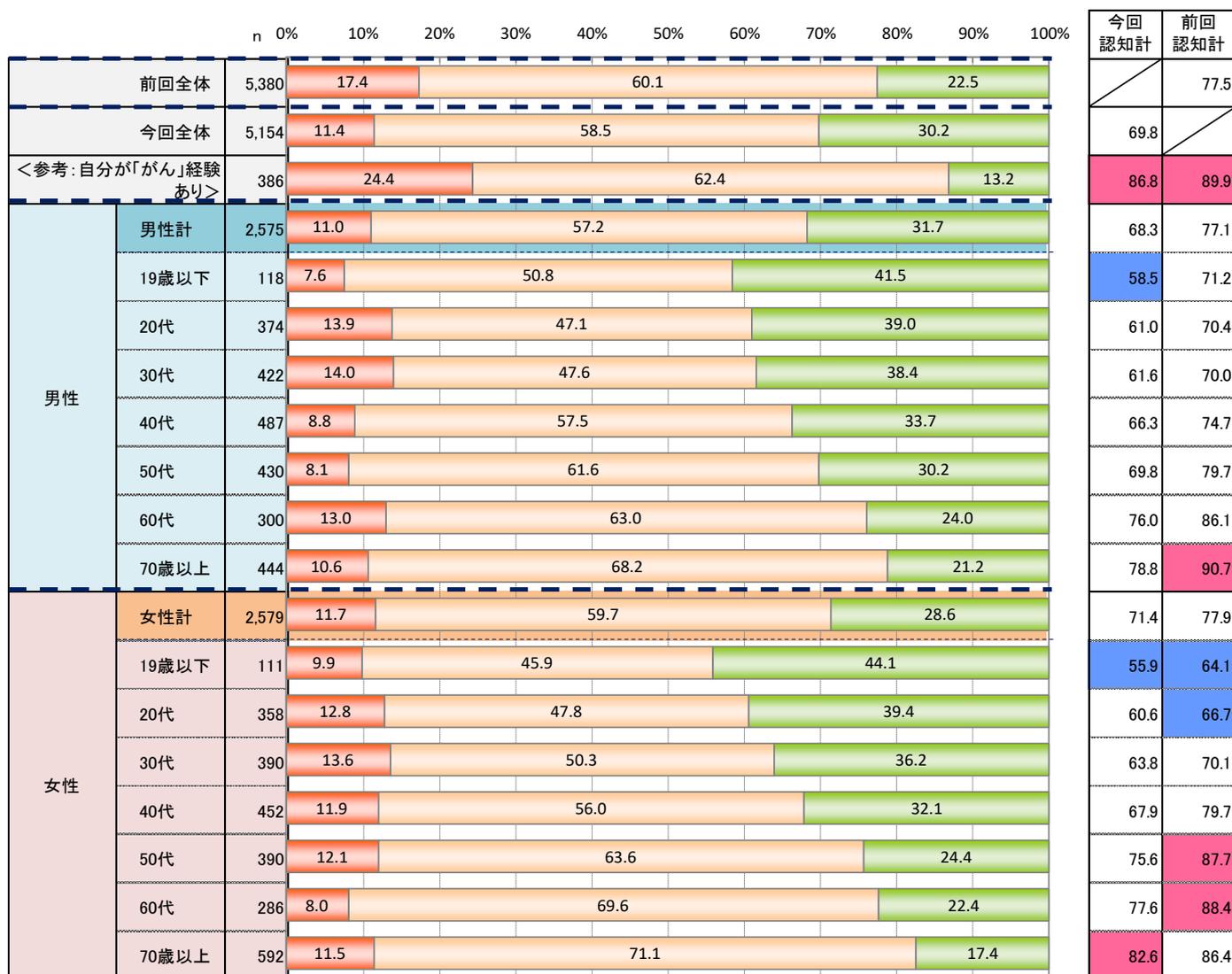
- ・ 男性 60-70 歳以上・女性 50-70 歳以上では、認知計のスコアが有意に高い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査 (77.5%) と比較して、認知計のスコアは 7.7pt 減少。

■ 各全体+10%以上
 ■ 各全体-10%以下
 (属性n=30以上)

■ 内容まで知っている ■ 聞いたことがある ■ 知らない



5 : 「肝炎ウイルス」について
 (2) 肝炎ウイルスへの考え

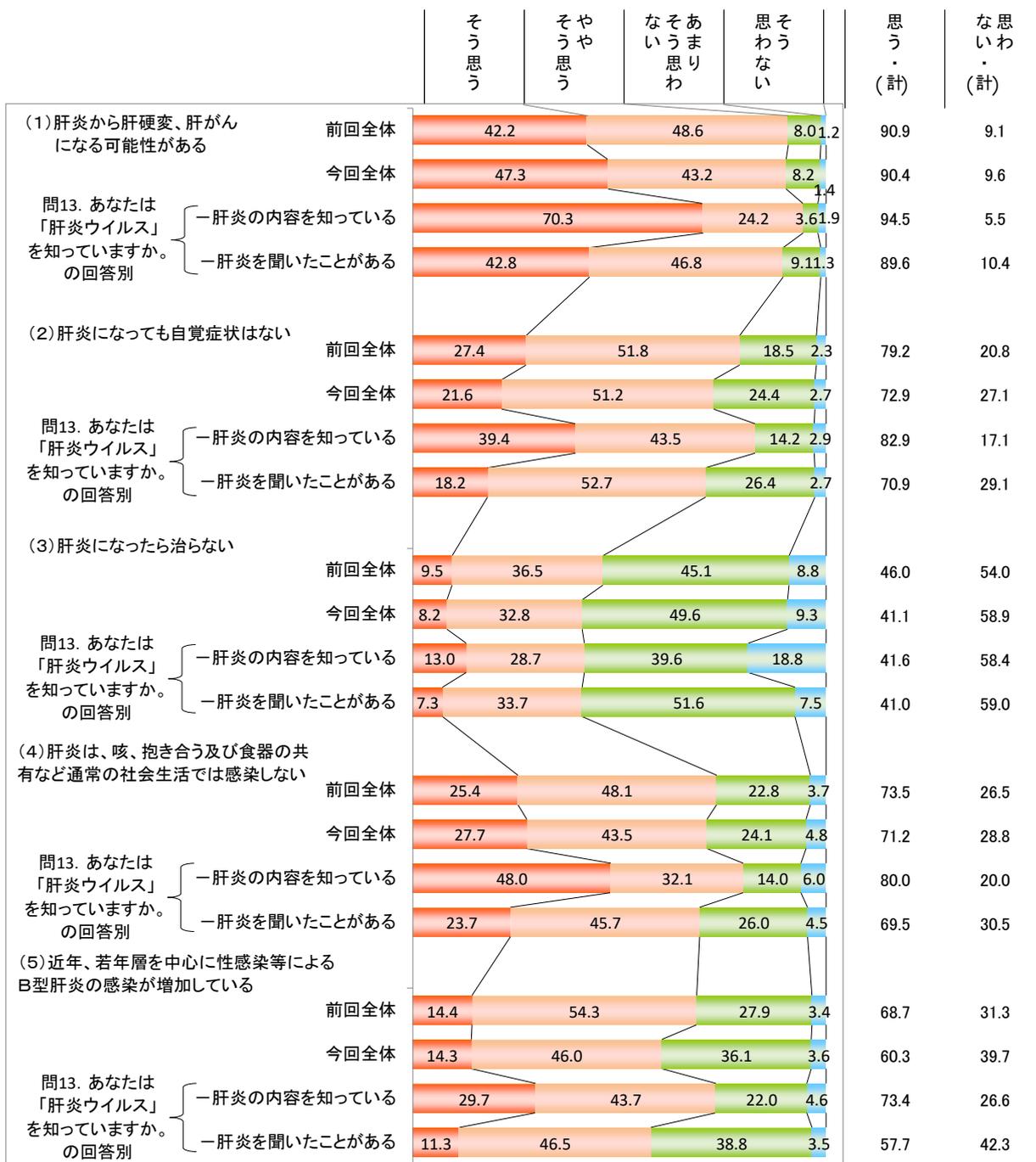
問14. 「肝炎ウイルス」における以下の内容について、あなたのお考えにあてはまるものをそれぞれお選びください。(択一式)

【全体】

- ・ 思う(計)のスコアをみると、「肝炎から肝硬変、肝がんになる可能性がある」が最も高く 90.4%。
- ・ 一方「肝炎になったら治らない」が最も低く 41.1%。

【肝炎ウイルスの認知度別】

- ・ 「肝炎になったら治らない」について、「肝炎の内容を知っている」と回答した者のスコアは今回調査の全体スコアとほぼ同程度。
- ・ 「肝炎を聞いたことがある」と回答した者は、「肝炎の内容を知っている」と回答した者より全体的にスコアが低い傾向がみられる。



5 : 「肝炎ウイルス」について
 (2) 肝炎ウイルスへの考え

問 1 4. 「肝炎ウイルス」における以下の内容について、あなたのお考えにあてはまるものをそれぞれお選びください。(択一式)

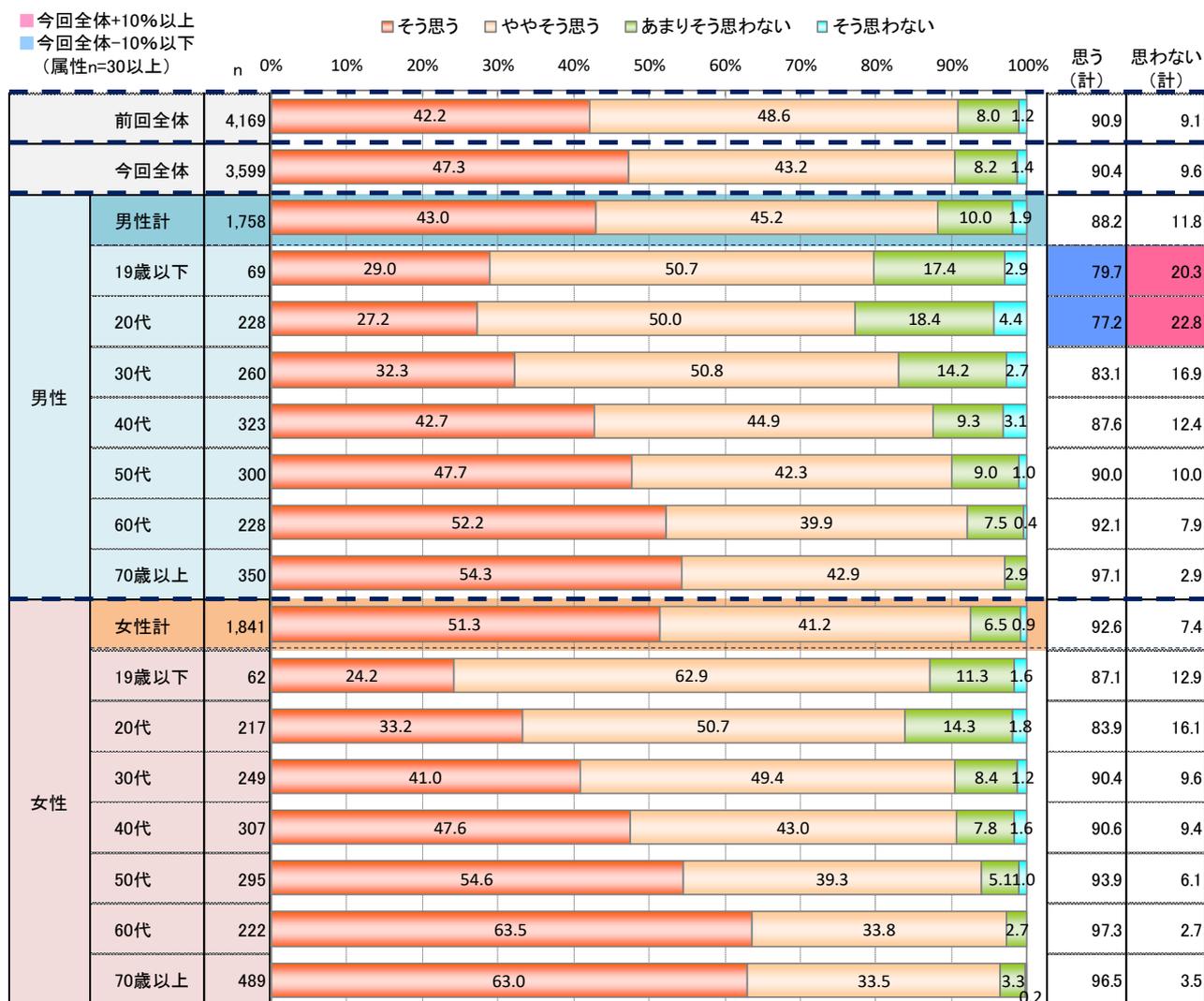
(1) 肝炎から肝硬変、肝がんになる可能性がある

【性別×年代別】

- ・ 男性 19 歳以下-20 代において、思う(計)のスコアが有意に低い。
- ・ また、男女ともに年代が上がるほど「そう思う」のスコアが増加傾向。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査と比較して、思う(計)と思わない(計)に大きな変化はみられない。ただし内訳をみると「そう思う」のスコアは前回調査(42.2%)と比較して5.1pt 増加。



5 : 「肝炎ウイルス」について
 (2) 肝炎ウイルスへの考え

問 1 4. 「肝炎ウイルス」における以下の内容について、あなたのお考えにあてはまるものをそれぞれお選びください。(択一式)

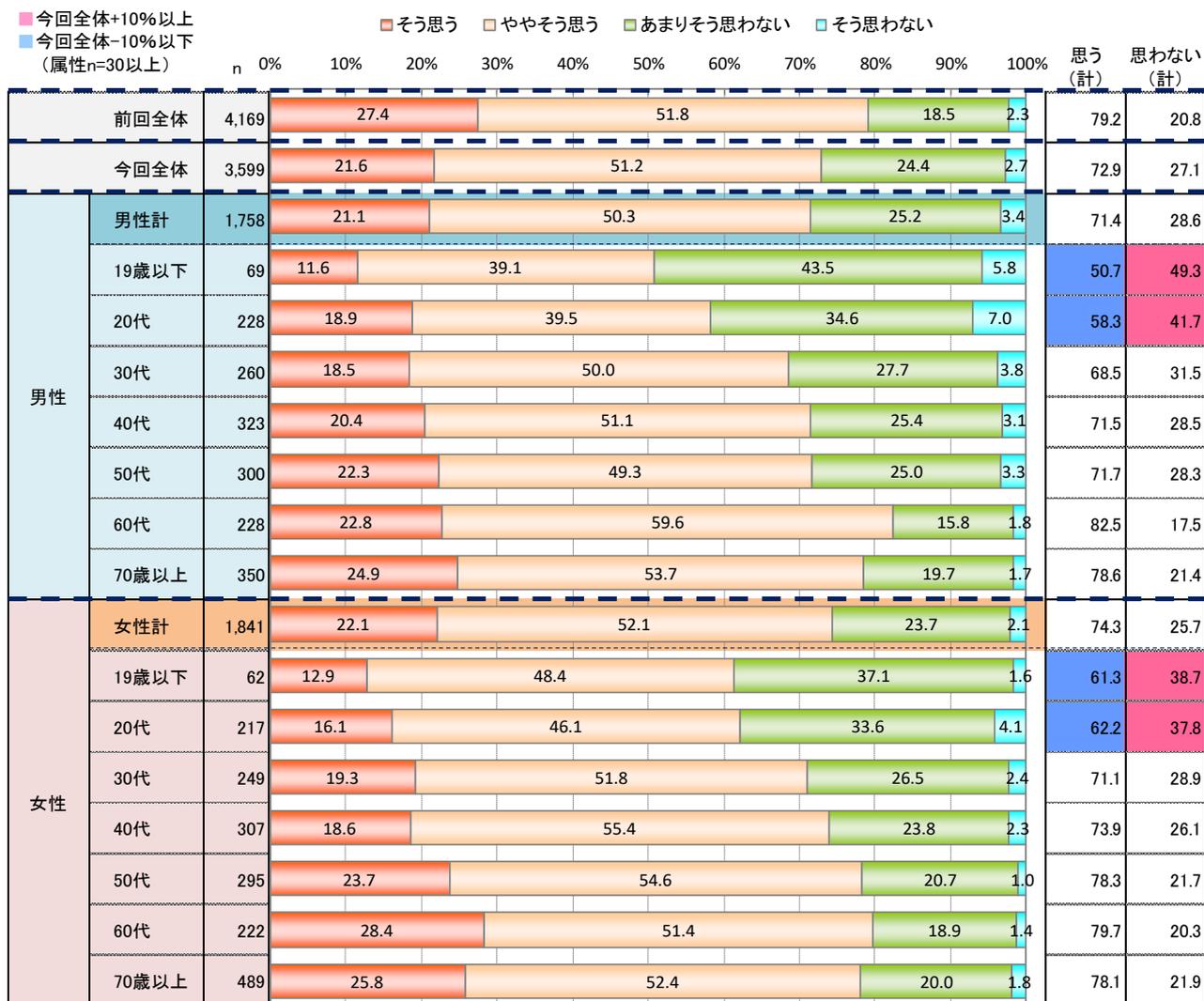
(2) 肝炎になっても自覚症状はない

【性別×年代別】

- 男女ともに19歳以下-20代において思う(計)のスコアが有意に低い。

【前回調査との比較】

- 前回調査(79.2%)と比較して、思う(計)は6.3pt減少。その内訳をみると「そう思う」のスコアが前回調査(27.4%)より5.8pt減少、思う(計)のスコアに影響を及ぼしている。



5 : 「肝炎ウイルス」について
 (2) 肝炎ウイルスへの考え

問 1 4. 「肝炎ウイルス」における以下の内容について、あなたのお考えにあてはまるものをそれぞれお選びください。(択一式)

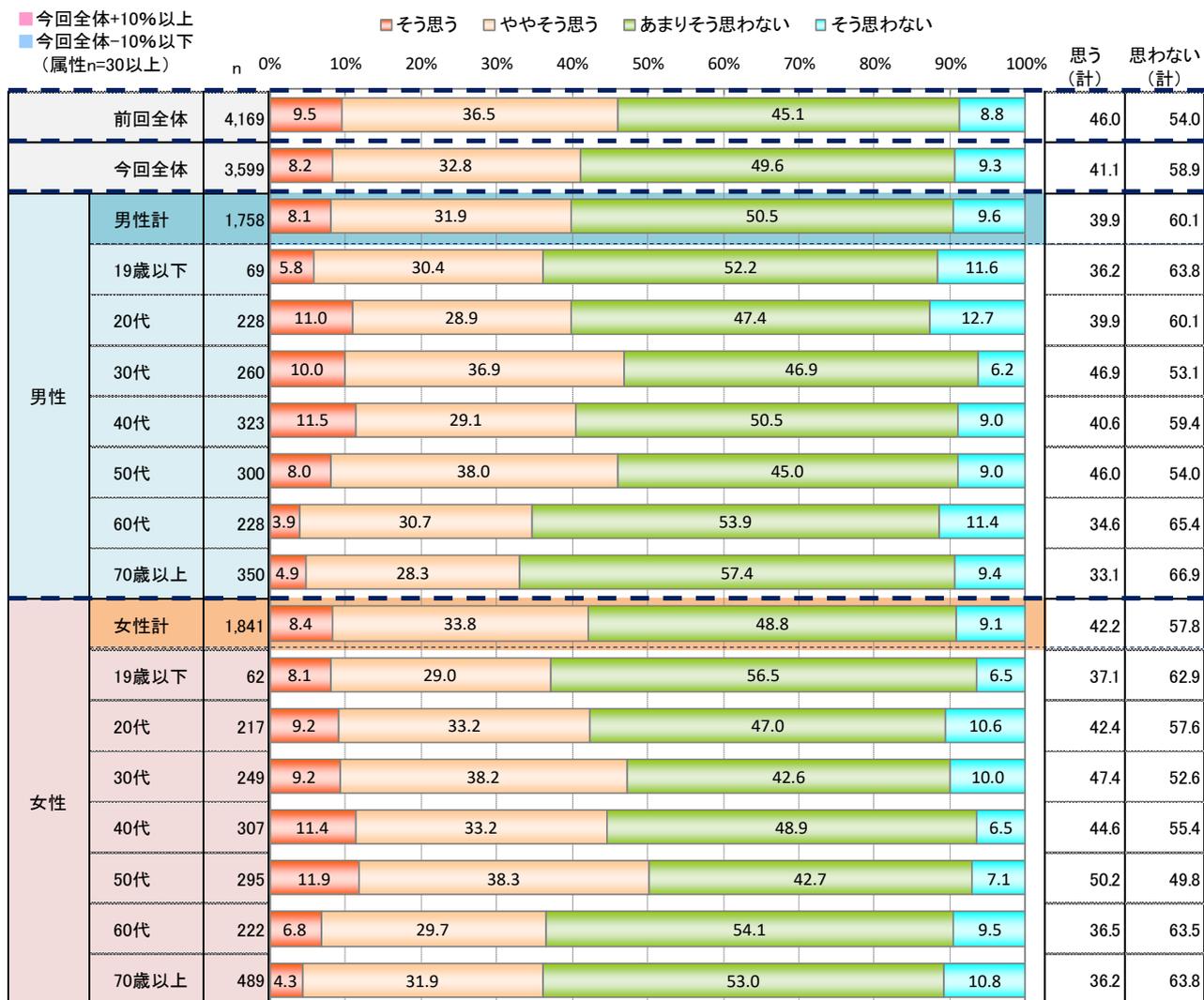
(3) 肝炎になったら治らない

【性別×年代別】

- ・ 女性 30 代・50 代において、思う(計)のスコアが有意に高い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査 (46.0%) と比較して、思う(計)のスコアは 4.9pt 減少。その内訳をみると「ややそう思う」のスコアが前回調査 (36.5%) と比較して 3.7pt 減少。



5 : 「肝炎ウイルス」について
 (2) 肝炎ウイルスへの考え

問 1 4. 「肝炎ウイルス」における以下の内容について、あなたのお考えにあてはまるものをそれぞれお選びください。(択一式)

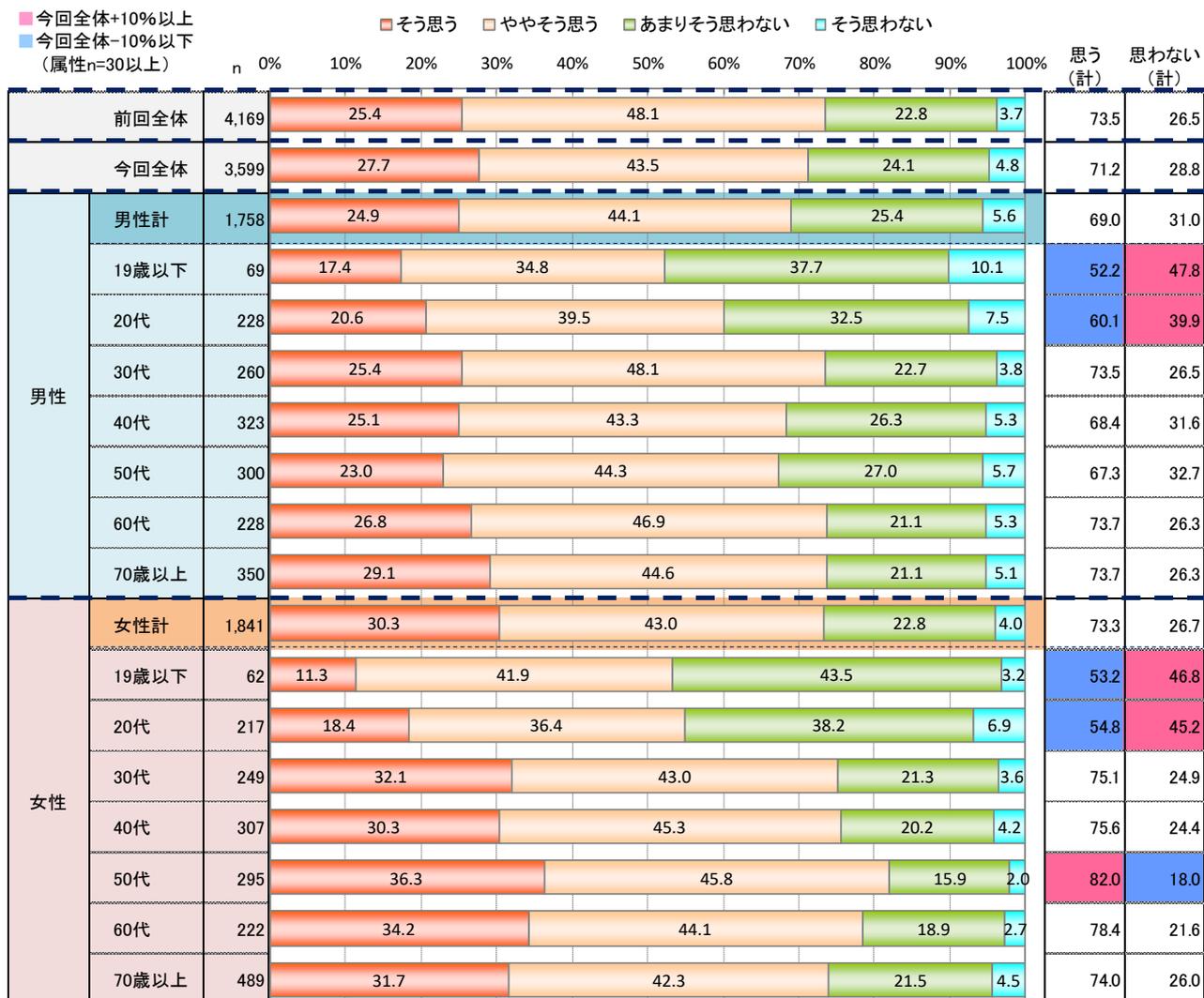
(4) 肝炎は、咳、抱き合う及び食器の共有など通常の社会生活では感染しない

【性別×年代別】

- ・ 女性 50 代において、思う(計)のスコアが有意に高く、中でも女性 50-60 代の「そう思う」のスコアは 3 割半ばとなり、他性年代より有意に高い。
- ・ 一方、男女とも 19 歳以下-20 代では、思う(計)のスコアが有意に低い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査と比較して、思う(計)は 2.3pt 減少、思わない(計)は 2.3pt 増加。その内訳をみると
- ・ 前回調査と比較して「そう思う」のスコアは 2.3pt 増加、「ややそう思う」のスコアは 4.6pt 減少。



5 : 「肝炎ウイルス」について

(2) 肝炎ウイルスへの考え

問 1 4. 「肝炎ウイルス」における以下の内容について、あなたのお考えにあてはまるものをそれぞれお選びください。(択一式)

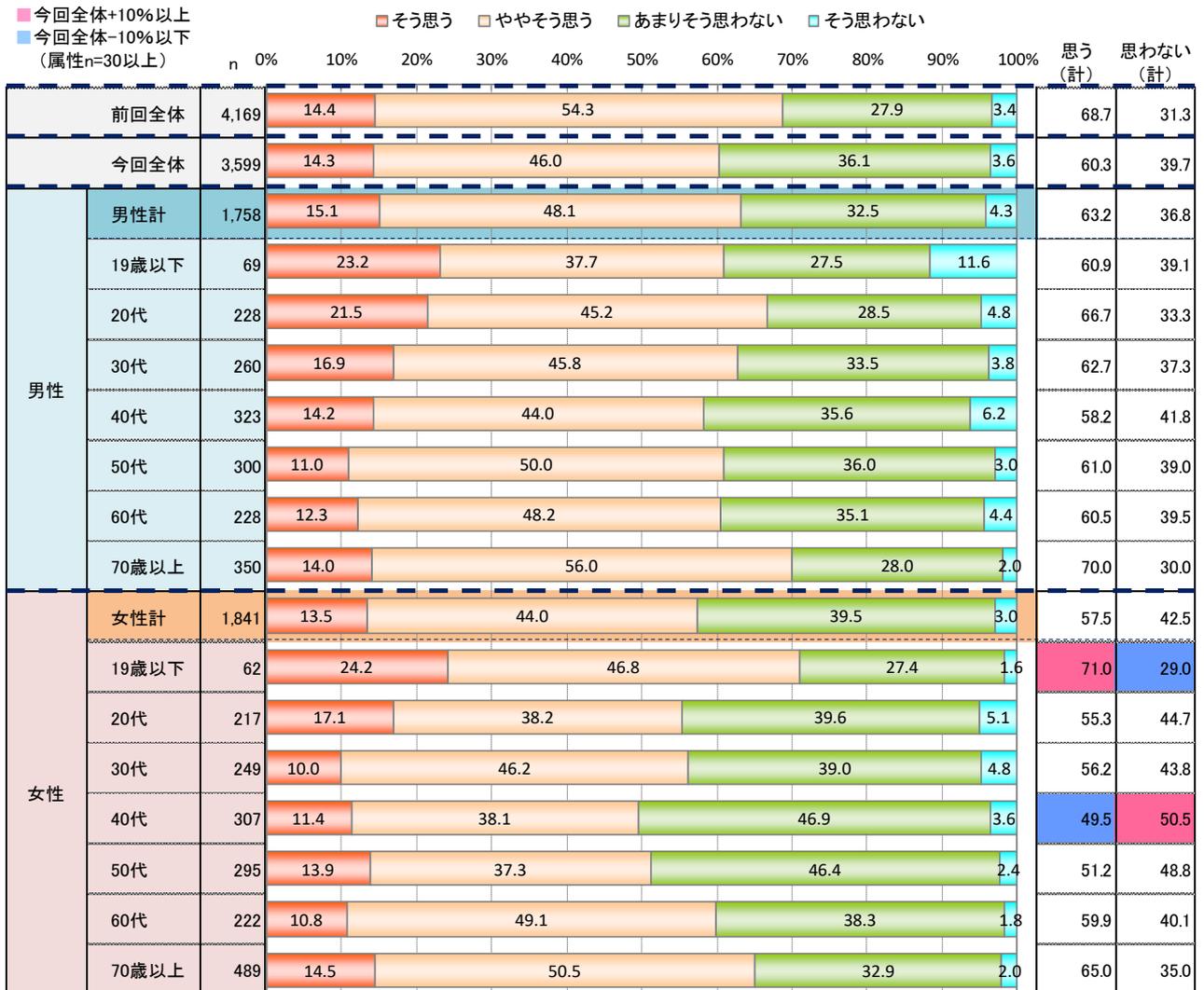
(5) 近年、若年層を中心に性感染等によるB型肝炎の感染が増加している

【性別×年代別】

- ・ 女性 19 歳以下において、思う(計)のスコアが有意に高く、一方、女性 40 代は有意に低い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査と比較して、思う(計)は 8.4pt 減少、思わない(計)は 8.4pt 増加。その内訳をみると前回調査と比較して「ややそう思う」のスコアは 8.3pt 減少、「あまりそう思わない」のスコアは 8.2pt 増加。



5 : 「肝炎ウイルス」について

(3) 肝炎ウイルス検査

問 15. あなたはこれまで、「肝炎ウイルス検査」を受けたことがありますか。(択一式)

【全体】

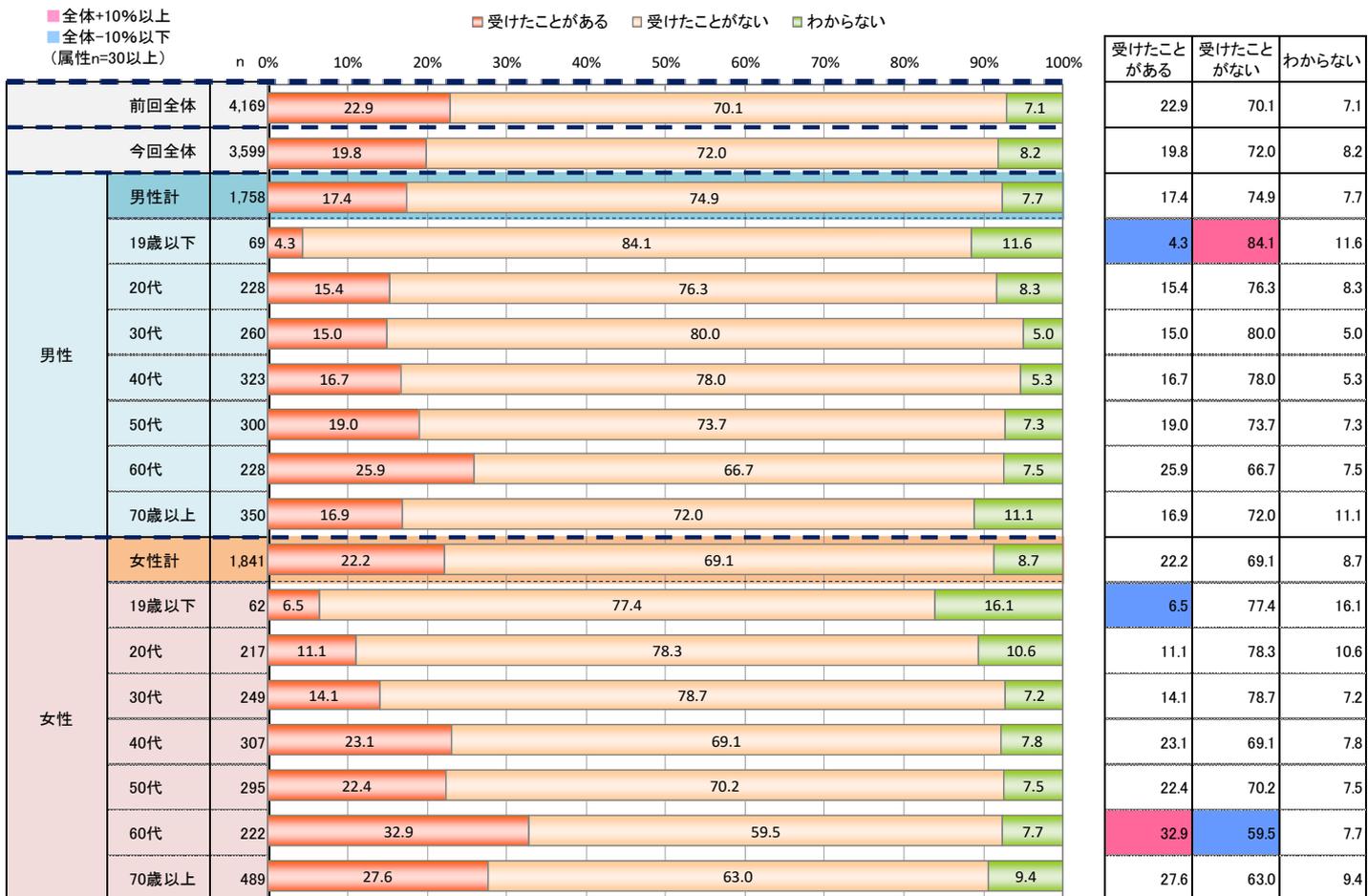
- ・ 「受けたことがある」が19.8%、「受けたことがない」が72.0%、「わからない」は8.2%となり、受けたことがある回答者は2割弱に留まった。

【性別×年代別】

- ・ 女性60代において「受けたことがある」のスコアが有意に高く、一方、男女とも19歳以下は有意に低い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査と比較して、「受けたことがある」は3.1pt減少、「受けたことがない」は1.9pt増加。



5 : 「肝炎ウイルス」について
 (2) 肝炎ウイルス検査

問 16. 前問で「肝炎ウイルス検査」を「受けたことがある」とお答えになった方に
 お伺いします。あなたが受けたことのある「肝炎ウイルス検査項目」をお選びください。
 (択一式)

【全体】

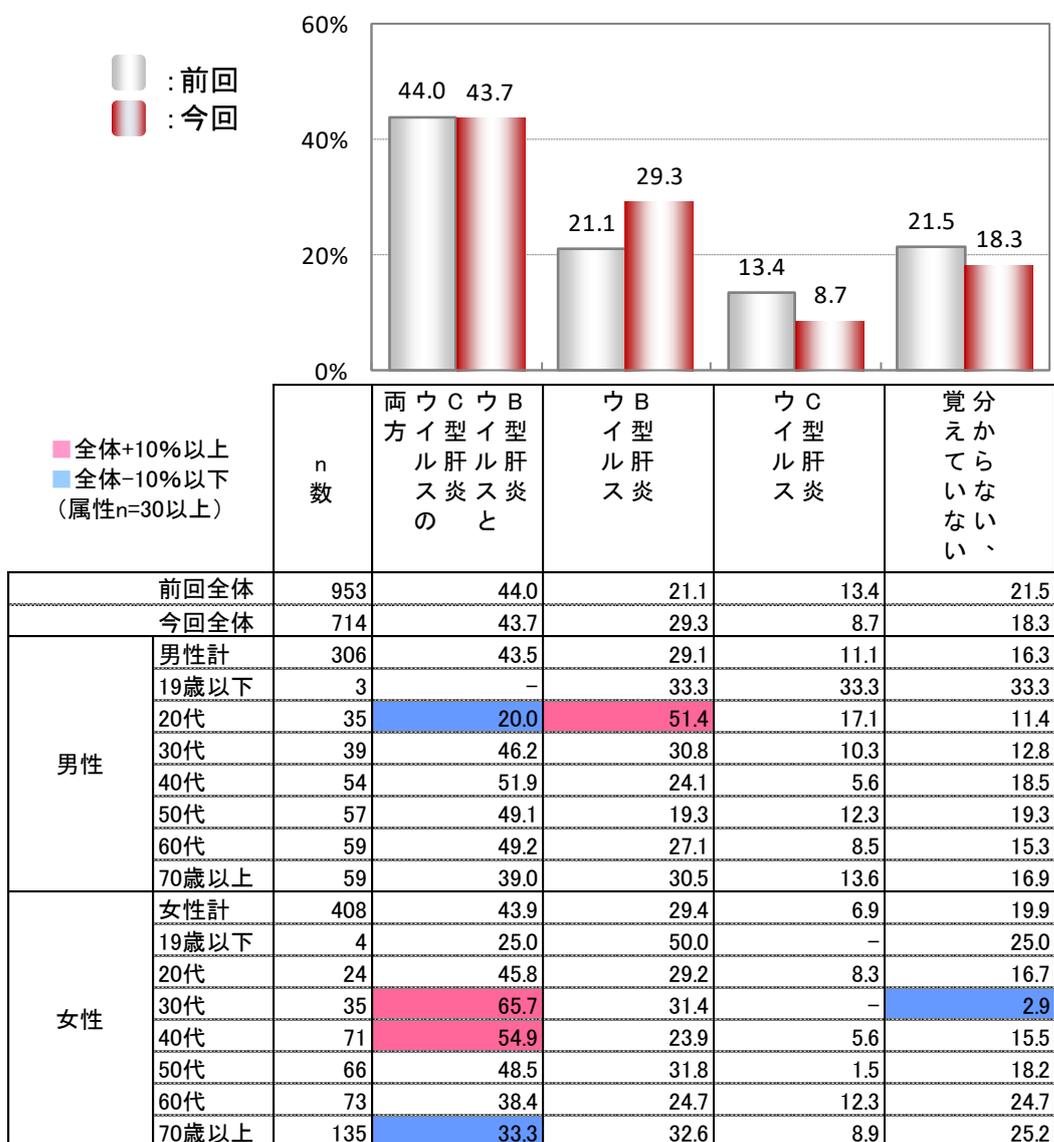
- ・ 「B型肝炎ウイルスとC型肝炎ウイルスの両方」が43.7%で最も高く、「B型肝炎ウイルス」(29.3%) 「C型肝炎ウイルス」(8.7%)とつづく。

【性別×年代別】

- ・ 女性30-40代は「B型肝炎ウイルスとC型肝炎ウイルスの両方」、男性20代は「B型肝炎ウイルス」のスコアがそれぞれ有意に高い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査と比較して、「B型肝炎ウイルス」は8.2pt増加、「C型肝炎ウイルス」は4.7pt減少。



5 : 「肝炎ウイルス」について
 (3) 肝炎ウイルス検査

問 17. 引き続き、「肝炎ウイルス検査」を「受けたことがある」とお答えになった方に
 お伺いします。あなたは検査をどこで受けられましたか。受検したことのある場所を
 すべてお選びください。(複数回答)

【全体】

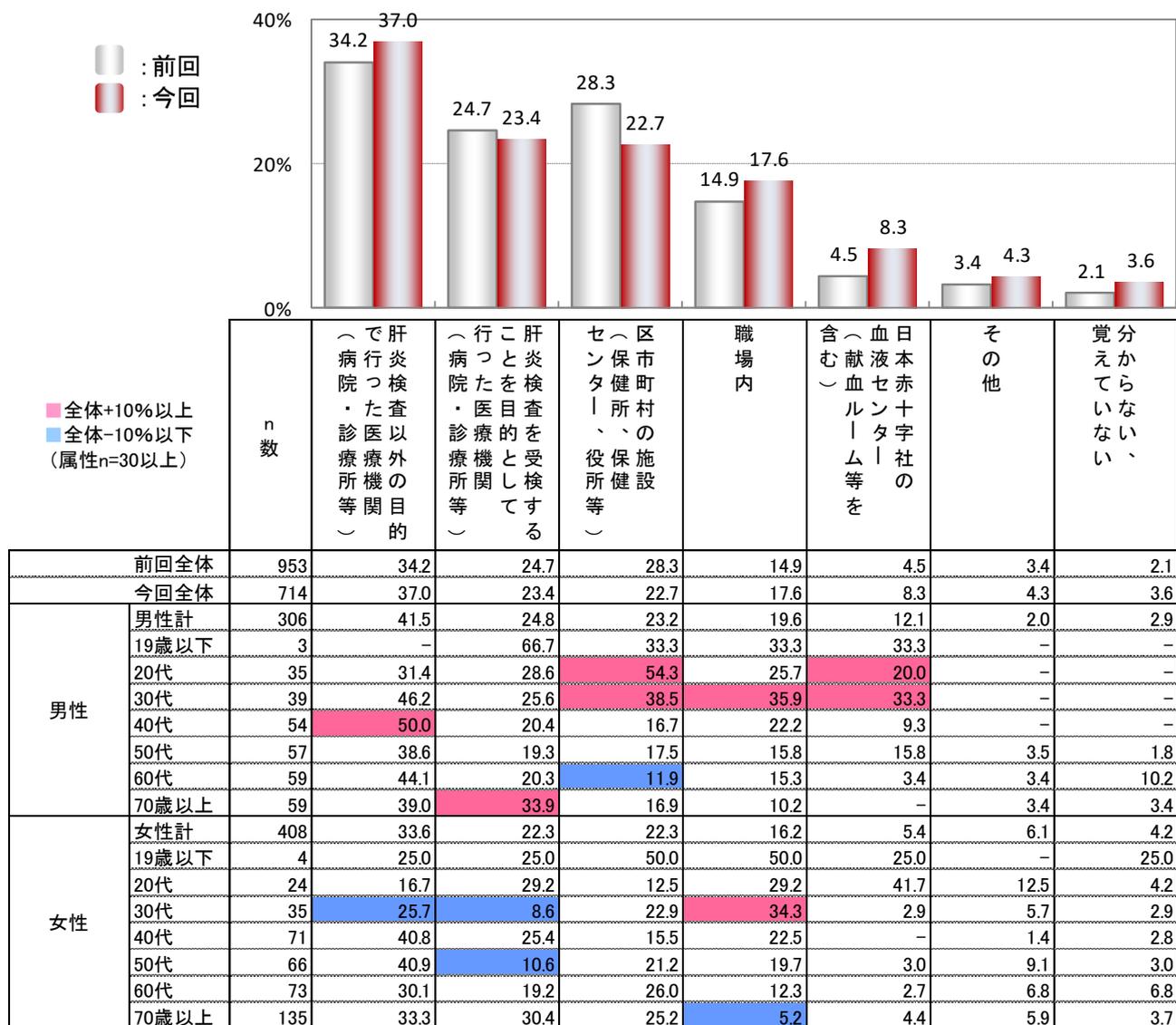
- 「肝炎検査以外の目的で行った医療機関(病院・診療所等)」が37.0%で最も高い。

【性別×年代別】

- 男性40代は「肝炎検査以外の目的で行った医療機関(病院・診療所等)」、男性70歳以上は「肝炎検査を受検することを目的として行った医療機関(病院・診療所等)」、男性20-30代は「区市町村の施設(保健所、保健センター、役所等)」と「日本赤十字社の血液センター(献血ルーム等を含む)」、男女ともに30代は「職場内」のスコアがそれぞれ有意に高い。

【前回調査との比較】

- 前回調査(28.3%)と比較して「区市町村の施設(保健所、保健センター、役所等)」のスコアは5.6pt減少。



5 : 「肝炎ウイルス」について
 (3) 肝炎ウイルス検査

問 18. 前問で「肝炎ウイルス検査」を「受けたことがない」とお答えになった方に
 お伺いします。あなたが検査を受けたことがない理由のうちあてはまるものをお選びください。
 (複数回答)

※設問文内の「前問」は問 15 を指します。

【全体】

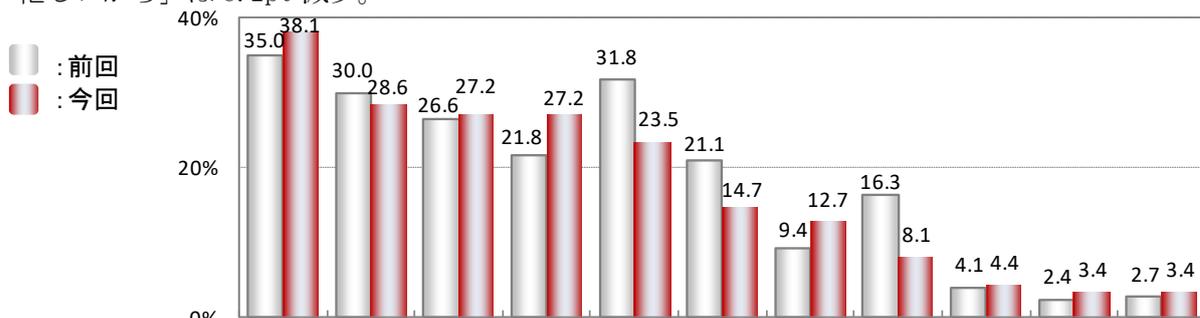
- 「検査方法を知らないから」が 38.1% で最も高く、「検査ができる場所が分からないから」(28.6%)、「自分は感染していないと思うから」(27.2%)、「職場の健診内容に無かったから」(27.2%) とつづく。

【性別×年代別】

- 女性 40 代は「検査方法を知らないから」、男性 60 代・女性 40 代は「職場の健診内容に無かったから」、男女 70 歳以上は「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」、女性 19 歳以下は「忙しいから」のスコアがそれぞれ有意に高い。

【前回調査との比較】

前回調査と比較して、「費用がかかるから」は 8.3pt、「検査に行くのが面倒だから」は 6.4pt、「忙しいから」は 8.2pt 減少。



■ 全体+10%以上
 ■ 全体-10%以下
 (属性n=30以上)

	n 数	理由										
		検査方法を知らないから	検査ができる場所が分からないから	自分は感染していないと思うから	職場の健診内容に無かったから	費用がかかるから	検査に行くのが面倒だから	医療機関を受診しても心配な時はいつでも受診できるから	忙しいから	悪い結果を言われるのが怖いから	夜間や休日に受診できないから	その他
前回全体	2,921	35.0	30.0	26.6	21.8	31.8	21.1	9.4	16.3	4.1	2.4	2.7
今回全体	2,590	38.1	28.6	27.2	27.2	23.5	14.7	12.7	8.1	4.4	3.4	3.4
男性計	1,317	35.3	27.3	26.3	28.1	25.2	15.2	11.2	10.1	4.9	4.6	3.3
19歳以下	58	44.8	20.7	19.0	3.4	19.0	10.3	10.3	15.5	12.1	5.2	10.3
20代	174	32.2	25.9	31.6	19.5	22.4	16.7	6.3	15.5	6.3	8.0	2.3
30代	208	40.9	24.5	23.6	30.8	32.2	20.2	9.1	16.8	5.3	5.8	1.0
40代	252	34.5	23.0	25.0	29.0	26.2	15.9	5.2	12.3	6.0	4.8	4.4
50代	221	30.8	27.6	23.1	31.7	28.5	16.3	5.9	11.3	2.7	4.1	3.2
60代	152	36.2	29.6	21.1	44.7	26.3	15.1	16.4	3.3	4.6	5.9	4.6
70歳以上	252	34.9	34.5	34.1	23.4	18.3	9.5	23.8	0.4	3.2	0.8	2.4
女性計	1,273	40.9	30.0	28.1	26.2	21.7	14.2	14.4	6.0	3.8	2.2	3.6
19歳以下	48	35.4	35.4	33.3	2.1	31.3	12.5	8.3	20.8	-	4.2	4.2
20代	170	45.9	27.1	28.8	32.4	20.0	18.2	3.5	8.8	4.7	2.9	3.5
30代	196	46.4	36.2	28.1	35.2	32.7	14.8	8.2	11.2	5.6	2.6	1.0
40代	212	50.9	31.1	22.6	32.1	23.6	17.0	8.5	4.7	2.8	2.8	3.8
50代	207	40.1	25.6	28.5	37.7	19.8	14.0	12.6	5.3	3.4	2.4	3.4
60代	132	28.0	24.2	31.8	23.5	22.0	12.1	22.0	3.0	1.5	3.0	5.3
70歳以上	308	34.7	31.5	28.9	10.4	14.0	11.0	27.3	1.3	4.9	0.3	4.5

5 : 「肝炎ウイルス」について

(3) 肝炎ウイルス検査

問 19. あなたはお住まいの区市町村で「肝炎ウイルス検査」を受けることができるのをご存じですか。(択一式)

【全体】

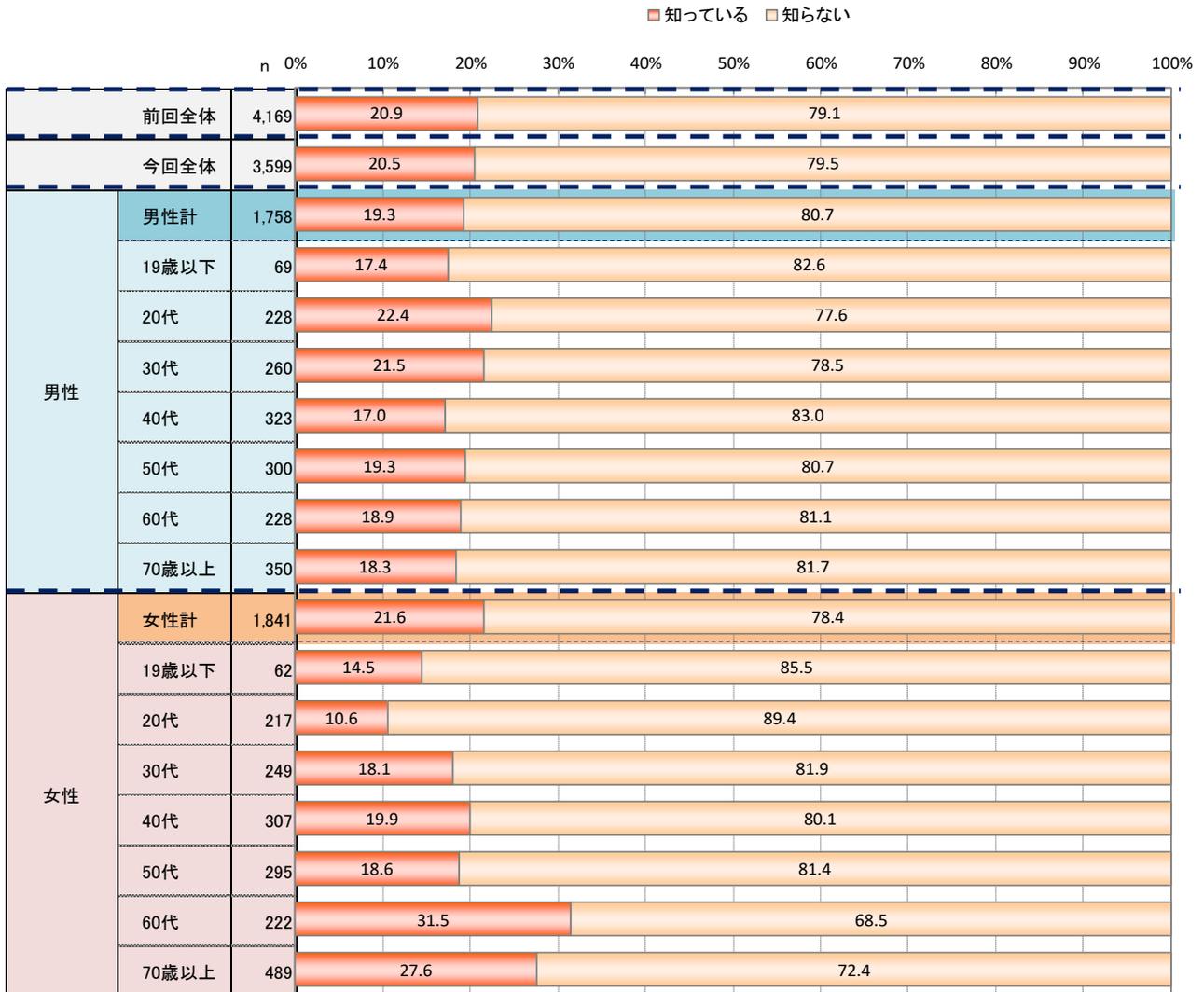
- ・ 「知っている」が20.5%、「知らない」が79.5%となり、8割の方が知らない模様。

【性別×年代別】

- ・ 女性60-70歳以上において「知っている」のスコアが有意に高い。
- ・ 一方、女性20代において「知っている」のスコアが有意に低い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査と比較して、大きな差異はみられない。



5 : 「肝炎ウイルス」について
 (3) 肝炎ウイルス検査

問 20. 「肝炎ウイルス検査」を受けるとしたら、どのような機会に受けたいと思いますか。
 (択一式)

【全体】

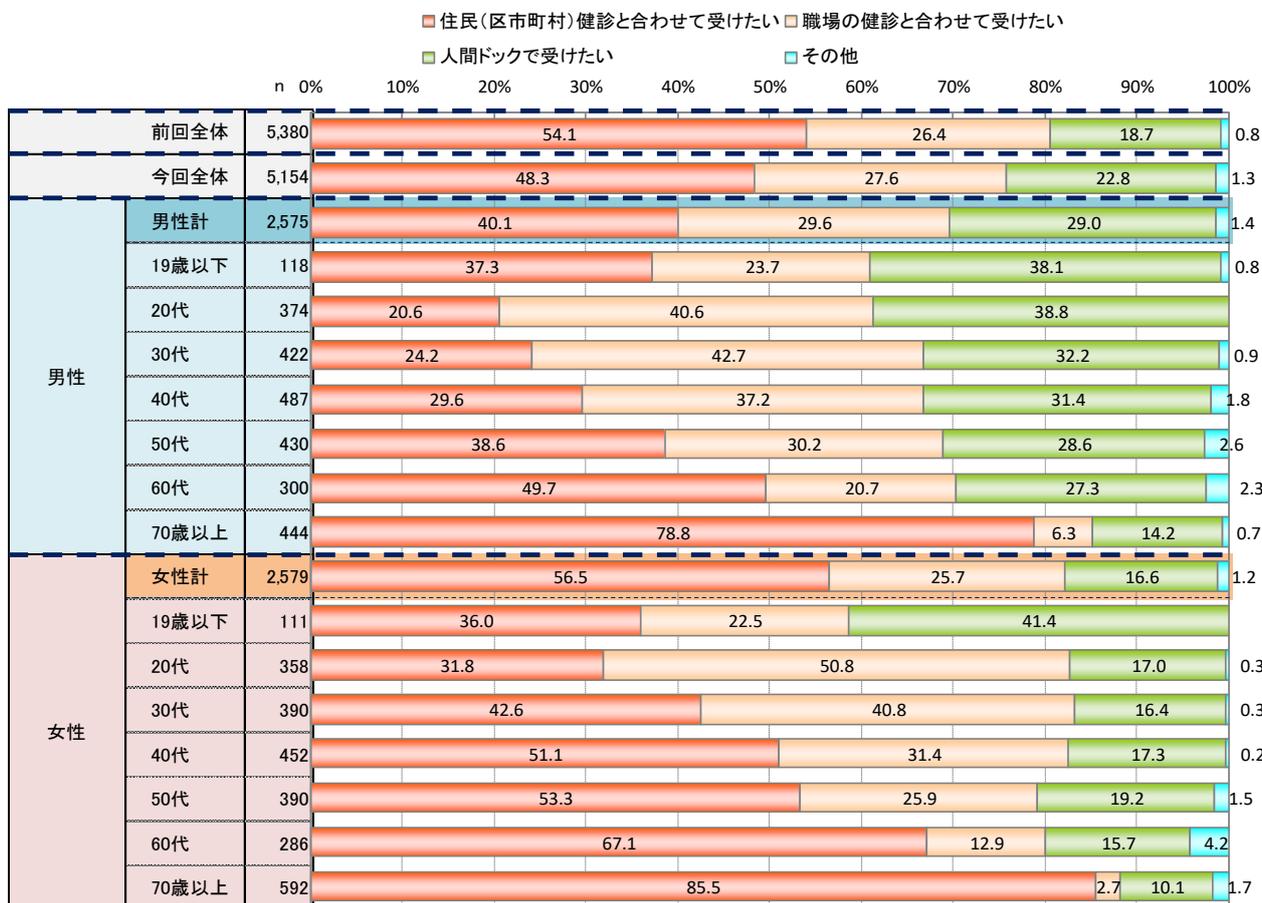
- ・ 「住民（区市町村）健診と合わせて受けたい」が 48.3%、「職場の健診と合わせて受けたい」が 27.6%、「人間ドックで受けたい」が 22.8%となった。

【性別×年代別】

- ・ 男性 19 歳以下・50 代・女性 19 歳以下・30 代の働き盛り世代では「住民（区市町村）健診と合わせて受けたい」のスコアが有意に低く、「職場の健診」や「人間ドック」で受けたい様子。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査と比較して、「住民（区市町村）健診と合わせて受けたい」は 5.8pt 減少、「人間ドックで受けたい」は 4.1pt 増加。



6 : 「がん教育」について
 (1) 「がん教育」の必要性

問 2 1. 多くの人が「がん」にかかっているにもかかわらず、大人も含めて「がん」に関する正しい知識を得る機会は多くはありません。そのため、学校での健康教育の中で子どものころから「がん」に対する正しい知識と「がん患者」に対する正しい認識をもつよう、国において「がん教育」の実施に向けた取組が進められています。あなたはこうした教育は必要だと思いますか。(択一式)

【全体】

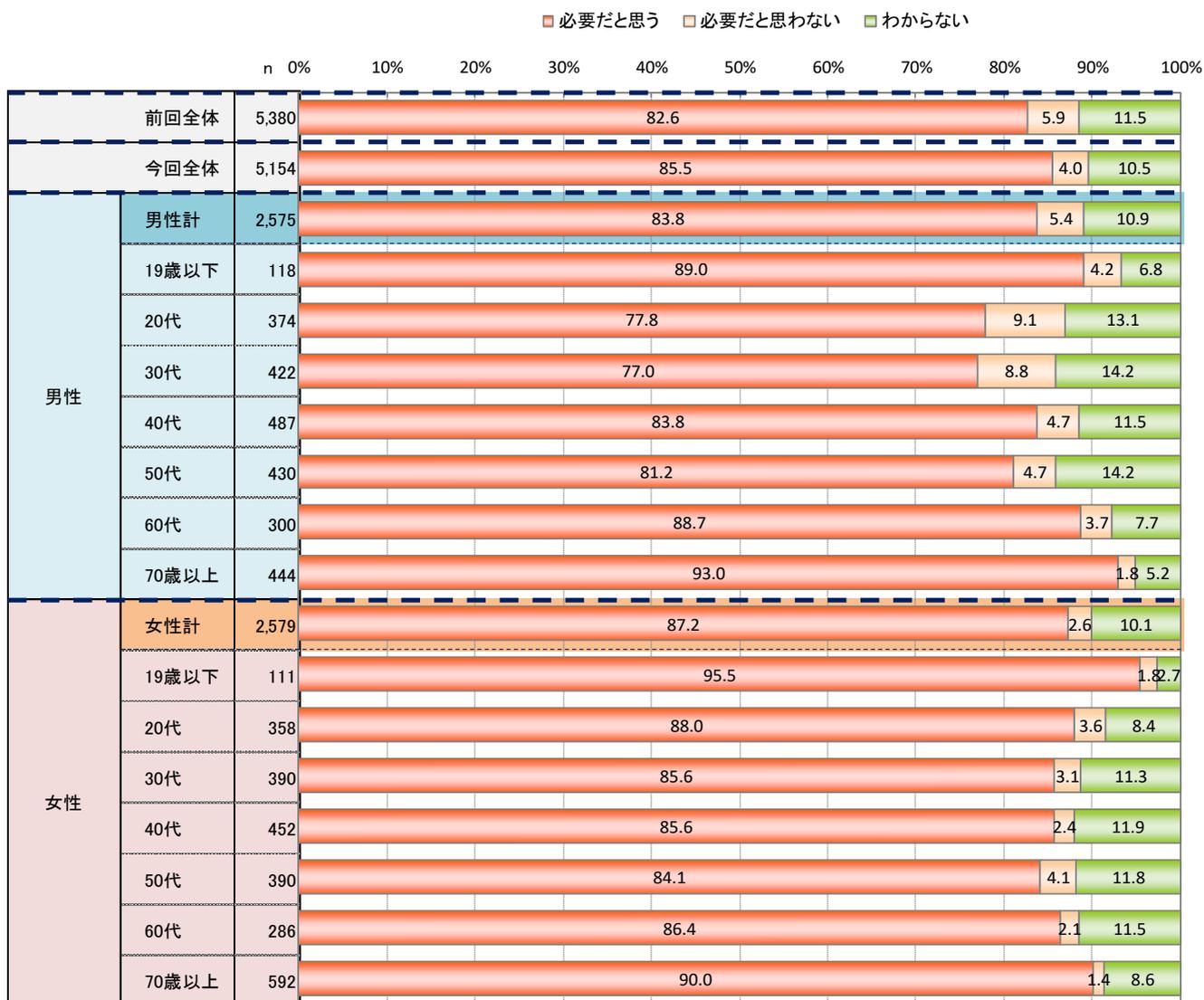
- ・ 「必要だと思う」が 85.5%、「必要だと思わない」が 4.0%、「わからない」が 10.5%となった。

【性別×年代別】

- ・ 男性 70 歳以上・女性 19 歳以下において「必要だと思う」のスコアが有意に高い。
- ・ 一方、男性 20 代は「必要だと思わない」のスコアが有意に高い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査 (82.6%) と比較して、「必要だと思う」のスコアが 2.9pt 増加。



6 : 「がん教育」について
 (1) 「がん教育」の必要性

問 2 2. 前問で「がん教育」が「必要だと思う」とお答えになった方にお伺いします。
 「がん」を正しく知り（理解し）予防に活かすために、子どもに対する「がん教育」をいつから始めるのがふさわしいと思いますか。ふさわしいと思う時期をお選びください。
 (択一式)

【全体】

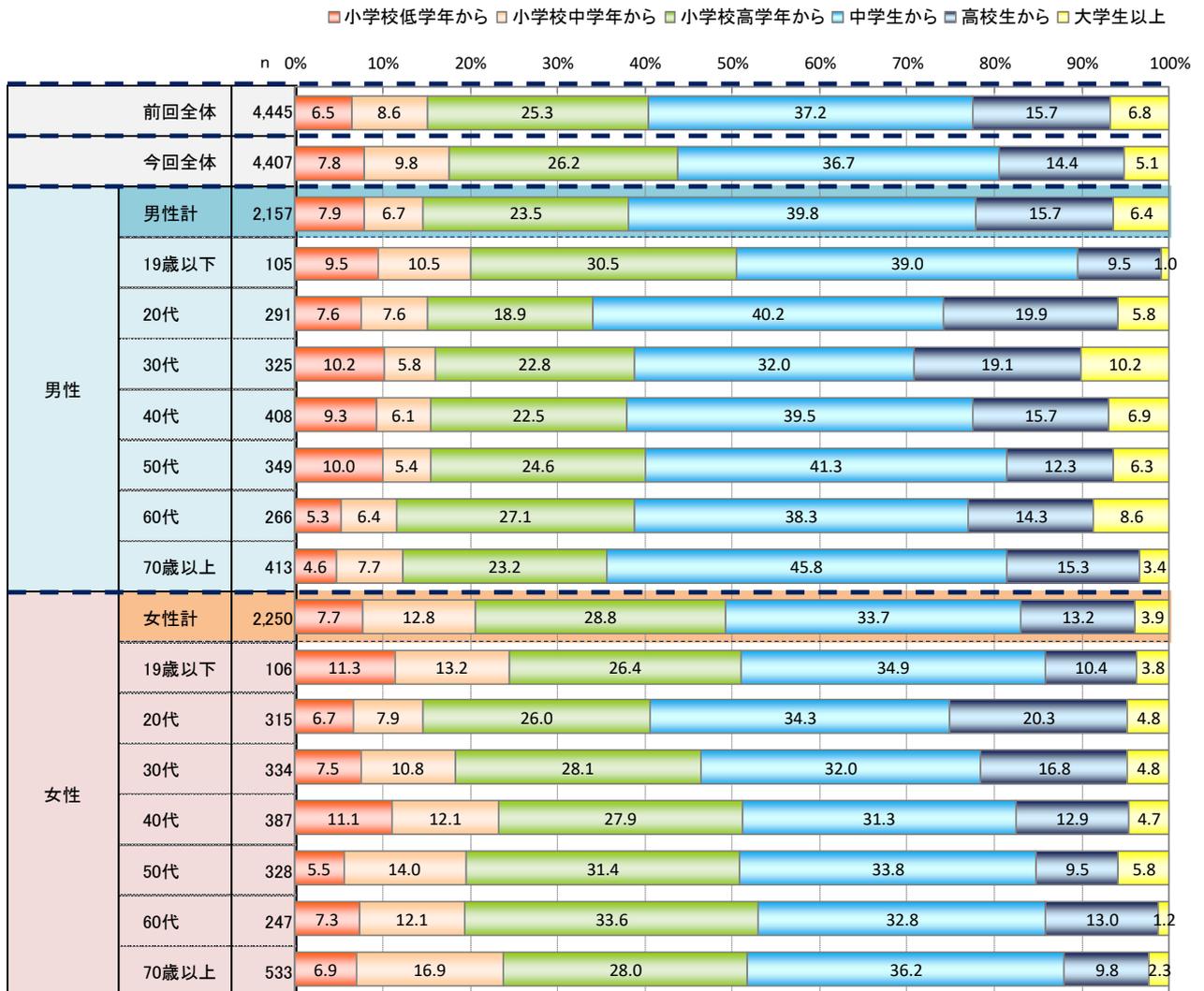
- ・ 「中学生から」が 36.7%でトップ、「小学校高学年から」「高校生から」とつづく。

【性別×年代別】

- ・ 女性 70 歳以上は「小学校中学年」、女性 40-50 代は「小学校高学年から」、男性 70 歳以上は「中学生から」、男女ともに 20 代は「高校生から」、男性 30 代は「大学生以上」のスコアがそれぞれ有意に高い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査と比較して、大きな差異はみられない。



7 : 「がん」にかかった場合、整っていることが望ましい環境

問 2 3. あなたご自身やご家族が「がん」になった場合、どういった環境が整っていることが望ましいと思いますか。以下のうち最も望ましいと思うものから順に3位までお選びください。(1位から3位までランキング回答)

※選択肢「最先端の治療薬・治療機器・治療法を選択できる体制が整っていること」は今回調査より追加。

【全体】

- ・ 「専門的な治療を提供する機器や施設を備えた病院が整備されていること」が 59.0%、「がん医療について専門的な知識を有する医師や看護師などの医療従事者がいること」(45.4%)、「最先端の治療薬・治療機器・治療方法等を選択できる体制が整っていること」(43.5%)とつづく。

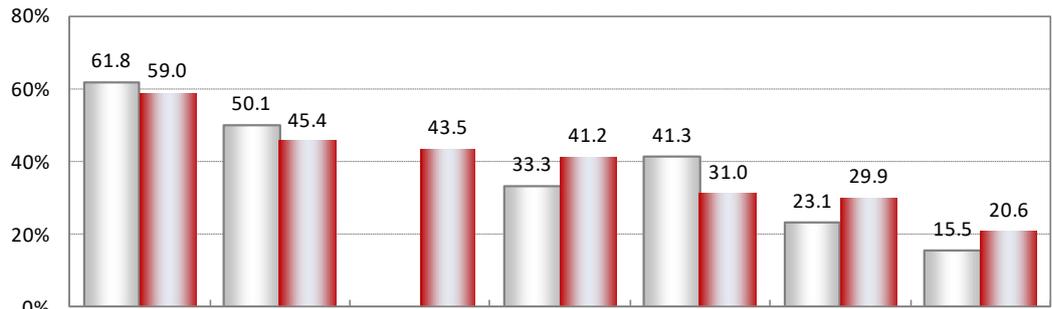
【性別×年代別】

- ・ 男女ともに70歳以上において「高度ながん医療を提供する病院、地域の病院、かかりつけ医(身近で気軽に相談できる医療機関)などが連携し、安心して受診や転院ができる体制が整っていること」のスコアが有意に高い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査と比較して、「高度ながん医療を提供する病院、地域の病院、かかりつけ医(身近で気軽に相談できる医療機関)などが連携し、安心して受診や転院ができる体制が整っていること」が7.9pt増加。「がん患者や家族が、治療法や不安なことを気軽に相談したり、情報を収集するための窓口があること」が6.8pt増加。
- ・ 一方、「がんによる身体的苦痛や精神的な不安をすぐに軽減してくれること」は10.3pt減少。

: 前回
 : 今回



全体+10%以上
 全体-10%以下
 (属性n=30以上)

		n 数	備えた病院が整備されていること	がん医療についての専門的な知識を有すること	最先端の治療薬・治療機器・治療方法等を選択できる体制が整っていること	高度ながん医療を提供する病院、地域の病院、かかりつけ医（身近で気軽に相談できる医療機関）などが連携し、安心して受診や転院ができる体制が整っていること	がんによる身体的苦痛や精神的な不安をすぐに軽減してくれること	がん患者や家族が、治療法や不安なことを気軽に相談したり、情報を収集するための窓口があること	住み慣れた家庭や地域で療養ができるような在宅医療の体制が整っていること
前回全体		5,380	61.8	50.1		33.3	41.3	23.1	15.5
今回全体		5,154	59.0	45.4	43.5	41.2	31.0	29.9	20.6
男性	男性計	2,575	60.9	46.4	45.9	36.5	29.7	25.1	19.8
	19歳以下	118	64.4	50.8	44.9	30.5	30.5	27.1	21.2
	20代	374	58.0	42.5	38.2	28.6	38.2	30.5	19.5
	30代	422	56.4	42.4	46.4	31.5	35.3	31.5	23.2
	40代	487	61.0	44.1	47.8	36.1	34.5	23.4	20.1
	50代	430	60.7	45.3	45.3	31.9	28.8	21.9	21.4
	60代	300	64.7	51.7	46.7	39.3	23.7	22.0	21.7
女性	女性計	2,579	57.1	44.4	41.0	46.0	32.3	34.7	21.4
	19歳以下	111	63.1	46.8	51.4	41.4	32.4	36.0	14.4
	20代	358	55.0	44.7	41.6	35.2	33.5	34.9	18.4
	30代	390	58.7	46.4	39.5	38.7	38.2	32.1	22.1
	40代	452	55.8	42.3	38.3	43.6	32.1	36.5	26.5
	50代	390	55.1	43.6	42.3	47.7	33.6	36.7	20.0
	60代	286	61.5	43.0	40.6	47.9	31.5	37.4	19.6
70歳以上	592	56.3	45.4	41.0	58.1	27.2	32.3	21.8	

8 : がんの「緩和ケア」について

問 2 4. がんの治療においては、緩和ケアも重要な治療です。

「緩和ケア」について、どのようなイメージがありますか。（複数回答）

※選択肢「特にイメージはない」は今回調査より追加。

【全体】

- ・ 「「緩和ケア」は、がんの治療などによる身体の痛みだけでなく、不安などの精神的苦痛や、医療費・仕事などに関する社会的苦痛による痛みや辛さを軽減することである」が 49.8%でトップ。
「「緩和ケア」は、がんやがんの治療による身体の痛みを軽減することである」（36.7%）、
「「緩和ケア」は、がんが進行し、治療ができなくなった場合の最後の手段である」（35.9%）とつづく。

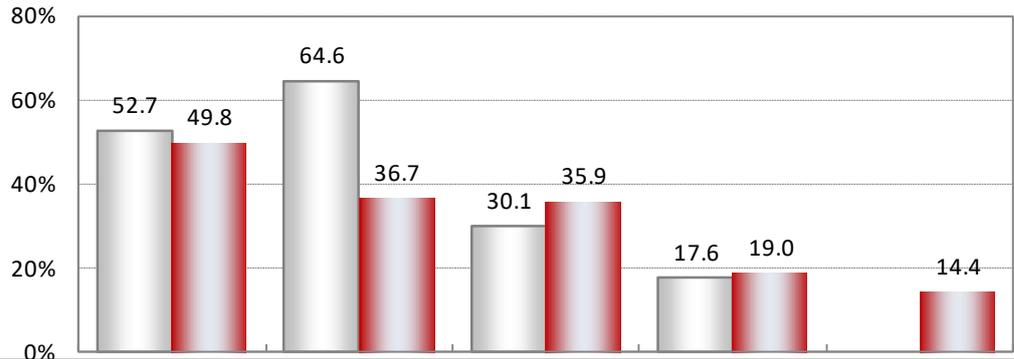
【性別×年代別】

- ・ 男性 60-70 歳以上・女性 50-70 歳以上において「「緩和ケア」は、がんの治療などによる身体の痛みだけでなく、不安などの精神的苦痛や、医療費・仕事などに関する社会的苦痛による痛みや辛さを軽減することである」のスコアが有意に高い。
- ・ また男性 20-50 代と女性 19 歳以下-20 代において「特にイメージはない」のスコアが有意に高い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査と比較して、「「緩和ケア」は、がんが進行し、治療ができなくなった場合の最後の手段である」が 5.8pt 増加。
- ・ 一方、「「緩和ケア」は、がんやがんの治療による身体の痛みを軽減することである」が 27.9pt 減少。

: 前回
 : 今回



全体+10%以上
 全体-10%以下
 (属性n=30以上)

	n 数	痛に「緩和ケア」による痛みを軽減することである	身体「緩和ケア」を軽減することである	きなく「緩和ケア」は、がんが進行し、治療がで	受け「緩和ケア」は、がんを診断された時から	特にイメージはない
前回全体	5,380	52.7	64.6	30.1	17.6	
今回全体	5,154	49.8	36.7	35.9	19.0	14.4
男性計	2,575	45.8	35.0	31.7	19.6	19.0
19歳以下	118	45.8	36.4	25.4	22.9	17.8
20代	374	31.8	32.6	27.3	21.1	27.5
30代	422	40.8	38.4	33.4	21.1	24.9
40代	487	42.7	33.5	35.7	19.3	19.1
50代	430	44.4	36.0	31.6	16.5	18.1
60代	300	55.7	39.0	31.7	17.3	12.7
70歳以上	444	60.4	31.1	30.9	20.9	11.7
女性計	2,579	53.8	38.3	40.1	18.4	9.7
19歳以下	111	38.7	38.7	28.8	19.8	21.6
20代	358	37.7	31.3	32.4	19.8	20.7
30代	390	43.6	39.5	44.1	16.2	12.8
40代	452	50.4	40.3	46.2	14.8	7.3
50代	390	55.1	39.2	42.1	20.3	7.2
60代	286	59.8	40.9	42.0	18.2	6.3
70歳以上	592	71.8	38.5	37.3	20.3	4.1

9 : 「がんゲノム医療」について

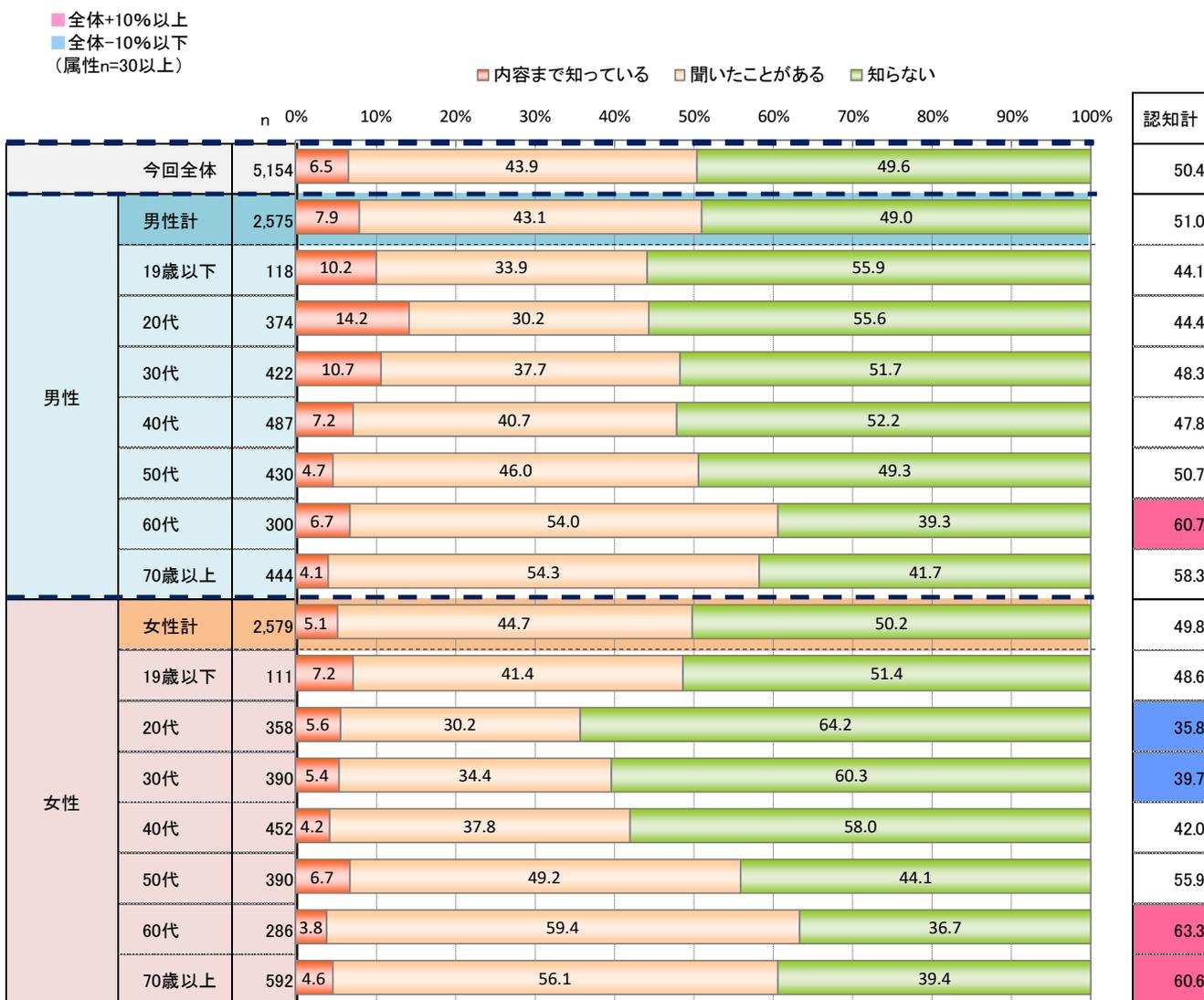
問 2 5. 「主にがんの組織を用いて、多数の遺伝子を同時に調べ、遺伝子変異（※）を明らかにすることにより、一人一人の体質や病状に合わせて治療などを行う医療を「がんゲノム医療」といいます。あなたは「がんゲノム医療」をご存じですか。（択一式）
 （※）遺伝子変異：細胞の中の遺伝子がなんらかの原因で後天的に変化することや、生まれもった遺伝子の違い

【全体】

- ・ 認知計は 50.4%。内訳をみると「聞いたことがある」が 43.9%で認知計の大半を占める。

【性別×年代別】

- ・ 男性 60 代・女性 60-70 歳以上において、認知計のスコアが有意に高い。
- ・ 男性 20 代は、「内容まで知っている」のスコアが有意に高い。



10：人生の最終段階の療養場所

問26. あなたがもし「がん」になり、人生の最終段階（終末期）を迎えることとなった場合、終末期をどこで過ごしたいと思いますか。（択一式）

【全体】

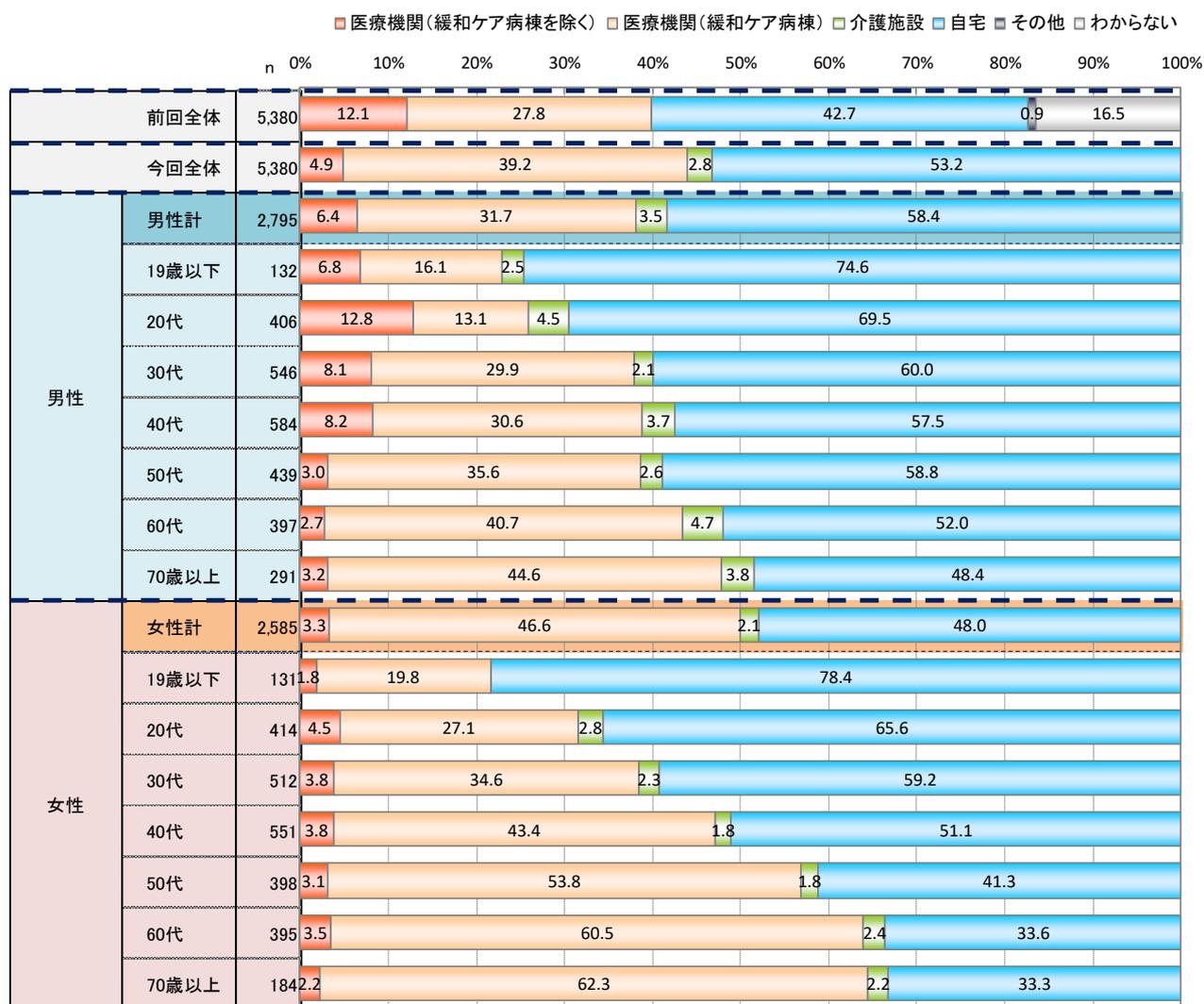
- ・ 「自宅」が53.2%でトップ、「医療機関（緩和ケア病棟）」（39.2%）、「医療機関（緩和ケア病棟を除く）」（4.9%）とつづく。

【性別×年代別】

- ・ 男性70歳以上・女性50-70歳以上において「医療機関（緩和ケア病棟）」のスコアが有意に高い。
- ・ 男性19歳以下・20-30代・50代、女性19歳以下・20-30代において「自宅」のスコアが有意に高い。

【前回調査との比較】※選択肢が異なるため参考値

- ・ 前回調査と比較して、「医療機関（緩和ケア病棟）」は11.4pt、「自宅」は10.5pt増加。



※「医療機関（緩和ケア病棟を除く）」は前は「病院」、「医療機関（緩和ケア病棟）」は前は「緩和ケア病棟（ホスピス）」で聴取。
 ※「その他」「わからない」は今回聴取なし。

11：「小児がん」について

問 27. 「小児がん」とは、15歳以下の小児に発生するがんの総称です。
「小児がん」は、大人がかかるがんとは異なる特徴が多くあります。
「小児がん」に関する内容について、ご存じのものをお選びください。（複数回答）

※選択肢「左記のいずれも知らない」は今回調査より追加。

【全体】

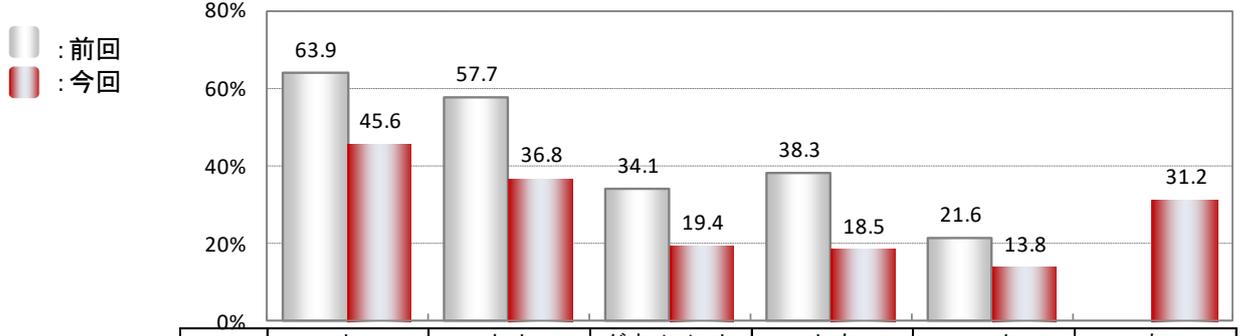
- ・ 「小児がんは大人のがんに比べて進行が速い」が45.6%でトップ、「小児がんは、大人のがんに比べてかかる人が少なく、希少ながんである」（36.8%）とつづく。

【性別×年代別】

- ・ 女性60代は「小児がんは大人のがんに比べて進行が速い」、女性19歳以下・40代は「小児がんは、大人のがんに比べてかかる人が少なく、希少ながんである」のスコアが有意に高い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査と比較して、全体的にスコアが低下している。中でも「小児がんは、大人のがんに比べてかかる人が少なく、希少ながんである」は20.9pt、「大人に多い胃がんや肺がんなどは、小児がんではほとんど見られない」は19.8pt、「小児がんは大人のがんに比べて進行が速い」は18.3ptと大幅減少。



■ 全体+10%以上
 ■ 全体-10%以下
 (属性n=30以上)

	n 数	小児がんは大人のがんに比べて進行が速い	小児がんは、大人のがんに比べてかかる人が少なく、希少ながんである	小児がん患者では、薬や放射線などの治療による副作用により、神経麻痺、合併症が現れたり、新たな影響が引き起こされること	小児がんではほとんど見られない、大人に多い胃がんや肺がんなどは、	小児がんは医療の進歩により、多くの人が（70%）が治ると言われている	左記のいずれも知らない
＜参考＞前回全体	5,380	63.9	57.7	34.1	38.3	21.6	
今回全体	5,154	45.6	36.8	19.4	18.5	13.8	31.2
男性	男性計	2,575	40.3	34.1	16.3	13.9	35.5
	19歳以下	118	29.7	44.1	15.3	11.0	33.9
	20代	374	25.9	36.4	12.0	13.4	40.9
	30代	422	35.5	38.9	16.1	17.8	37.0
	40代	487	42.9	36.1	11.1	11.3	34.3
	50代	430	40.7	27.9	14.4	8.8	40.7
	60代	300	50.3	33.3	20.0	15.7	29.0
女性	女性計	2,579	50.9	39.4	22.5	13.6	26.9
	19歳以下	111	32.4	53.2	22.5	9.9	29.7
	20代	358	40.2	40.2	16.2	9.5	34.1
	30代	390	52.1	41.3	18.5	10.0	27.2
	40代	452	52.7	47.6	19.9	11.5	25.4
	50代	390	53.8	40.3	25.6	12.6	26.4
	60代	286	56.3	37.4	24.5	16.4	21.0
70歳以上	592	54.1	29.4	27.9	20.1	26.0	

※前回は択一式で回答しているため、参考値として掲載。

12：「がん」に関する情報収集

問28. あなたやあなたの身近な人がもし、がんになられた場合、がんに関する情報をどのように収集すると思われますか。（択一式）

【全体】

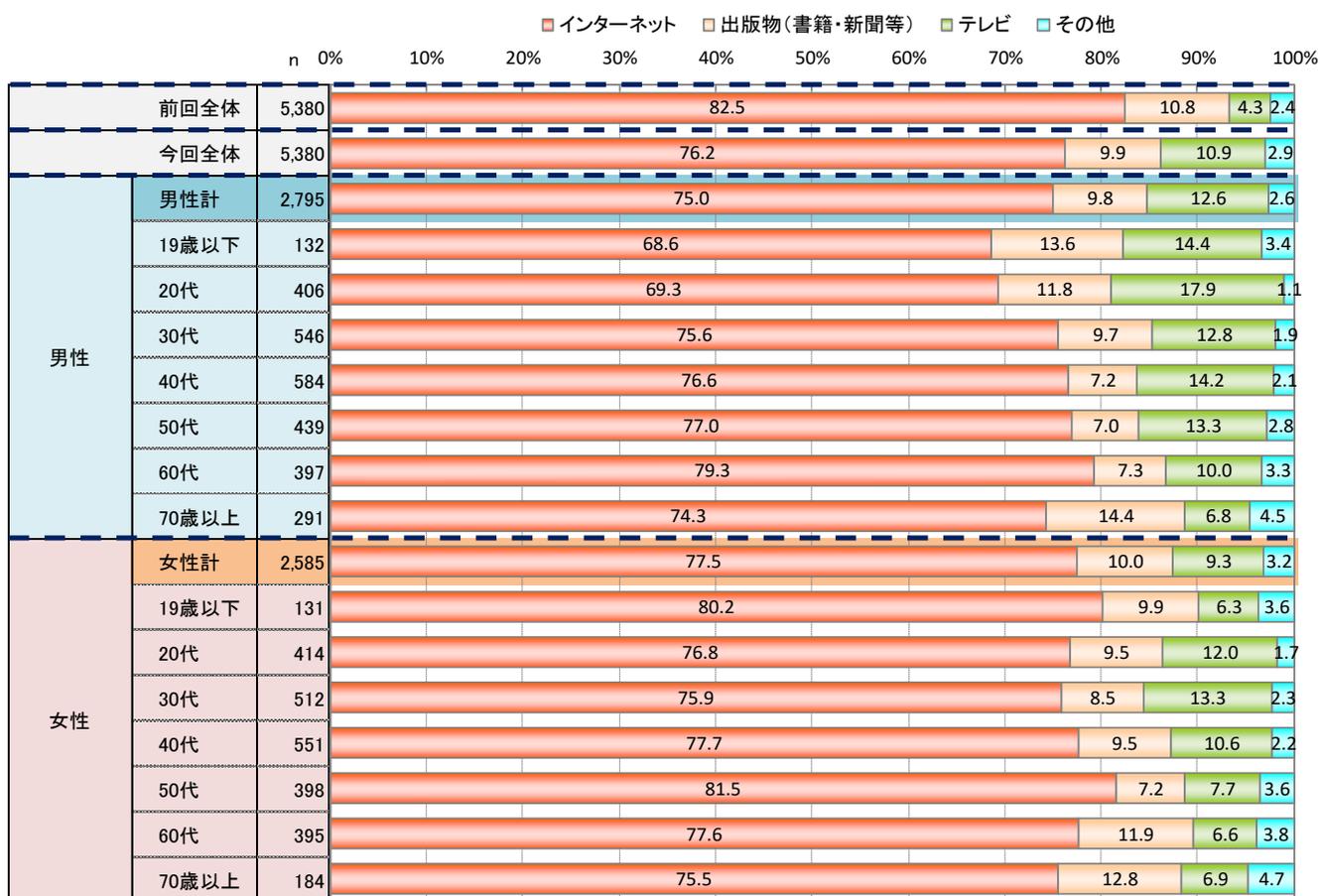
- ・ 「インターネット」が76.2%で突出、「テレビ」（10.9%）、「出版物(書籍・新聞等）」（9.9%）とつづく。

【性別×年代別】

- ・ どの世代でも「インターネット」がトップ。男性19歳以下・20代・70歳以上・女性60-70歳以上では「出版物」が1割を超える。
- ・ 男性20代・40代では「テレビ」、女性50代は「インターネット」、男女ともに70歳以上は「出版物(書籍・新聞など)」のスコアが有意に高い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査と比較して、「インターネット」は6.3pt減少、「テレビ」は6.6pt増加。



12 : 「がん」に関する情報収集

問29. 前問で「がん」に関する情報を「インターネット」で収集するとお答えになった方にお伺いします。あなたは、どのようなウェブサイトを確認されると思いますか。
(複数回答)

【全体】

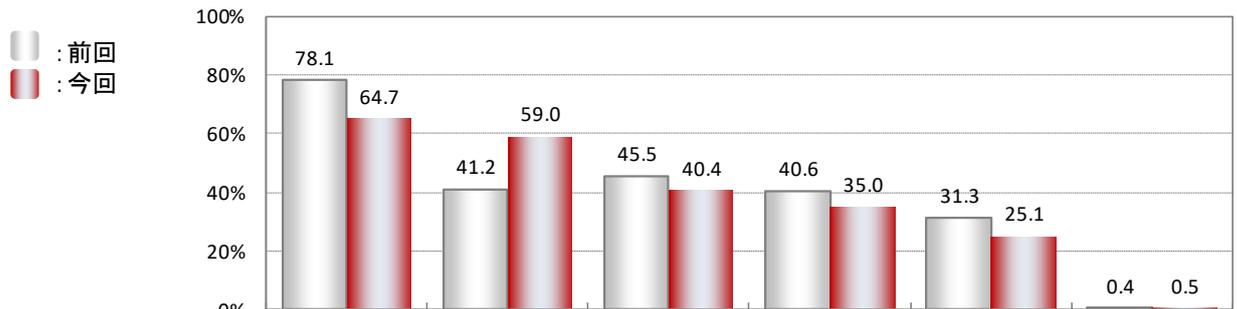
- ・ 「がんの専門病院やがんの治療実績のある病院のウェブサイト」が64.7%でトップ、「がんに関する情報を集める様々な情報をとりまとめたウェブサイト」(59.0%)、「がん経験者や患者団体のウェブサイト」(40.4%)とつづく。

【性別×年代別】

- ・ 女性70歳以上は「がんの専門病院やがんの治療実績のある病院のウェブサイト」、女性60-70歳以上は「がんに関する情報を集める様々な情報をとりまとめたウェブサイト」、女性40代は「がん経験者や患者団体のウェブサイト」、男女ともに19歳以下は「医師や学者が執筆したウェブサイト」、男性19歳以下-20代は「行政のウェブサイト」が有意に高い。

【前回調査との比較】

- ・ 前回調査と比較して、「がんに関する情報を集める様々な情報をとりまとめたウェブサイト」は17.8pt増加。
- ・ 一方、「がんの専門病院やがんの治療実績のある病院のウェブサイト」は13.4pt、「行政のウェブサイト」は6.2pt、「医師や学者が執筆したウェブサイト」は5.6pt、「がん経験者や患者団体のウェブサイト」は5.1pt減少。



	n 数	前回 (%)						今回 (%)						
		がんの専門病院やウェブサイトの実績のある病院の	様々な情報を取りまとめた	ウェブサイト経験者や患者団体の	ウェブサイト医師や学者が執筆した	行政のウェブサイト	その他	がんの専門病院やウェブサイトの実績のある病院の	様々な情報を取りまとめた	ウェブサイト経験者や患者団体の	ウェブサイト医師や学者が執筆した	行政のウェブサイト	その他	
前回全体	4,436	78.1	41.2	45.5	40.6	31.3	0.4	64.7	59.0	40.4	35.0	25.1	0.5	
今回全体	3,929													
男性	男性計	1,931	59.9	55.8	36.6	29.9	0.5	49.4	38.3	46.9	46.9	58.0	-	
	19歳以下	81	49.4	38.3	46.9	58.0	-	45.9	47.5	39.4	34.4	40.2	0.4	
	20代	259	45.9	47.5	39.4	34.4	40.2	58.3	53.9	34.8	39.2	34.2	0.6	
	30代	319	58.3	53.9	34.8	39.2	34.2	54.4	57.6	41.6	32.7	26.5	0.5	
	40代	373	54.4	57.6	41.6	32.7	26.5	64.0	58.6	36.6	26.9	23.0	0.3	
	50代	331	64.0	58.6	36.6	26.9	23.0	66.8	57.1	37.4	38.2	18.9	0.4	
	60代	238	66.8	57.1	37.4	38.2	18.9	72.1	62.4	27.3	40.3	29.4	0.6	
	70歳以上	330	72.1	62.4	27.3	40.3	29.4	69.3	62.2	44.1	34.5	20.4	0.5	
女性	女性計	1,998	69.3	62.2	44.1	34.5	20.4	0.5	61.8	51.7	38.2	51.7	27.0	-
	19歳以下	89	61.8	51.7	38.2	51.7	27.0	59.3	50.9	37.5	37.1	32.4	0.4	
	20代	275	59.3	50.9	37.5	37.1	32.4	63.5	57.4	50.0	36.1	24.0	0.7	
	30代	296	63.5	57.4	50.0	36.1	24.0	67.5	62.1	53.6	30.2	15.7	0.3	
	40代	351	67.5	62.1	53.6	30.2	15.7	73.0	63.2	49.7	31.4	13.8	0.3	
	50代	318	73.0	63.2	49.7	31.4	13.8	71.6	71.2	42.8	28.8	19.8	-	
	60代	222	71.6	71.2	42.8	28.8	19.8	78.5	69.1	34.9	36.9	18.1	0.9	
	70歳以上	447	78.5	69.1	34.9	36.9	18.1							

13: 「がん」に関する自由記述
がんに関する自由意見

問30. がんに関する予防、早期発見、医療など、がん対策に関するご意見をご自由にご記入ください。（具体的に記載してください。）（自由回答）

【主な意見】

- ・子宮頸がんワクチンの接種や乳がん・子宮頸がんの定期検診に関する情報をもっと発信して欲しい。がん＝高齢者の病気というイメージが強いので、若年層にも危険性や対策を打っていきべきだと感じる。（10代女性）
- ・ガンになった人、家族は衝撃を受け、わらにもすがらる思いで慌てて情報を探す。しかし、そのような状況下で正しい情報を得ることは困難であり、満足のいく結果を得にくい。落ち着いて冷静に情報収集ができるうちに情報収集をすることを勧めるような事業が欲しい。（20代男性）
- ・自宅から通える範囲の病院でこういった検査ができるか、予約方法など一覧があればなと思いました。（30代女性）
- ・がんに対する正しい知識を体系的に習った覚えがないが、テレビドラマや創作作品などで扱われるがんのイメージで先入観ができあがってしまっている。早い時期から正しい知識を持つことで予防行動が取れるようになり、早期発見と死亡率改善につなげられると思う。（30代男性）
- ・脳、肺、胃、乳など、がんが現れた場所により詳しい先生がどの病院にいるか調べる方法を知りたい。（40代女性）
- ・親戚にガンを患った人がいるのに、ガンについて何も知らない。身近な病気という認識はあるが、最新の治療法すら知らない。ガンの情報をもっと積極的に発信して欲しいと思う。（40代男性）
- ・癌と診断された際の治療費の工面と長期休暇に対しての職場の理解と雇用の維持に不安を感じます（50代男性）
- ・今はとても難しいでしょうが、一日も早く、有効な薬が作られることを常に願います。しかも、その薬が高額にならず、どんな層にも利用できるような薬であって欲しい。（60代女性）
- ・働いている時は職場でガン検診が受けられるが、退職してしまうと自分から積極的に受けないといけないので、費用の面等受けやすい環境になって欲しい。（70代女性）
- ・がんは国民病といわれるように日本人の半分の人が罹る恐れがあるので、学校の教科の一環として予防、早期発見など教えていくべき。これによりがんの罹患者が減り、しいては医療費の削減にもつながると思う。（70代男性）

付： 調査票（提示調査画面）

がんに関するアンケート

下記アンケートにご協力お願いいたします。

-  「調査についての守秘義務」の徹底をお願いしています。決して第三者に口外しないよう、ご協力をお願いします。
-  アンケート中は、ブラウザの「戻る」ボタンは押さぬようご注意ください。

Q1

3%

あなたご自身は、これまで「がん」になられたことがありますか。

単一回答 必須回答

- ① あるが、寛解している
- ② あり、治療中である
- ③ あるが、治療はしていない
- ④ がんになったことはない

Q2

6%

あなたの周りで「がん」になられた方はいますか（いましたか）。

※ご家族（血縁関係がない方も含む）や友人などすべて含めてお答えください。

単一回答

必須回答

▲ とじる

① いる/いた

② いない

Q3

10%

前問でご自身の周りに「がん」になられた方がいるとお答えになった方にお伺いします。

その「がんと診断された方」とあなたとの関係において、あてはまるものをお選びください。

（いくつでも）

複数回答

必須回答

▲ とじる

① 配偶者

② 両親（血縁関係あり）

③ 両親（血縁関係なし）

④ 兄弟/姉妹（血縁関係あり）

⑤ 兄弟/姉妹（血縁関係なし）

⑥ 祖父母

⑦ 子ども

⑧ その他の親戚

⑨ 友人、同僚

⑩ その他

Q4

13%

「がん」における以下の内容について、あなたのお考えにあてはまるものをそれぞれお選びください。

⊙ 単一回答

★ 必須回答

▲ とじる

0/5

1	がんにならないためには生活習慣の改善が重要である	▼
2	がんになっても治療しながら働くことは可能である	▼
3	多くのがんは早期発見により治療が可能である	▼
4	自分はがんにならないと思っている	▼
5	がんは治る病気である	▲

① そう思う

② ややそう思う

③ あまりそう思わない

④ そう思わない

Q5

16%

前問の「がんになっても治療しながら働くことは可能である」について「そう思わない」「あまりそう思わない」とお答えになった方にお伺いします。

あなたが「がんになっても治療しながら働くことは可能である」と思わない理由のうち最もあてはまるものをお選びください。（ひとつ）

⊙ 単一回答

★ 必須回答

▲ とじる

- ① 治療をしながら働くことについて職場の理解がなさそうに思うから
- ② 業務量の調整など、業務上の配慮を得ることが難しいと思うから
- ③ 自分の職場では入院や通院目的の休暇が取りづらいから
- ④ 体力的に難しいと思うから
- ⑤ 周囲に治療と仕事を両立している人がいないから
- ⑥ その他

Q6

20%

あなたは「がん」に関する以下の内容についてご存じですか。

⊙ 単一回答

★ 必須回答

0/3

- 1 若い世代では男性より女性のほうががんになる人が多い ▼
- 2 がんになる人は高齢になるほど増加する ▼
- 3 日本人のおよそ二人に一人ががんになる ▲

- ① 知っている
- ② 知らない

Q7

23%

以下のうち、「がん」の原因になると思うものを3つまでお選びください。

※4つ以上あてはまる方は、特に「がん」の原因になると思うものをお選びください。

✓ 複数回答 (3個まで選択)

★ 必須回答

▲ とじる

- 1 遺伝
- 2 偏った食生活
- 3 飲酒
- 4 大気汚染
- 5 肥満
- 6 細菌・ウイルス
- 7 環境ホルモン
- 8 運動不足
- 9 職場での有害物質（アスベスト等）接触
- 10 添加物や農薬
- 11 ストレス
- 12 たばこ

Q8

26%

以下のうち、「がん」の危険性を高めると思うものを3つまでお選びください。

※4つ以上あてはまる方は、特に「がん」の危険性を高めると思うものをお選びください。

✓ 複数回答 (3個まで選択)

★ 必須回答

▲ とじる

- 1 放射線に被曝すること
- 2 太り過ぎや痩せ過ぎること
- 3 運動不足であること
- 4 赤肉（牛・豚の肉）や保存・加工肉を摂り過ぎること
- 5 飲食物を熱い状態で摂ること
- 6 塩分を摂り過ぎること
- 7 お酒を飲みすぎること
- 8 野菜・果物の摂取が不足すること
- 9 他人のたばこの煙を吸うこと（受動喫煙）
- 10 たばこを吸う習慣があること

Q9

30%

「がん検診」についてお伺いします。

以下のそれぞれの「がん」について、何歳から「がん検診」を受ければよいと思いますか。

⊙ 単一回答

★ 必須回答

▲ とじる

0/5

1	子宮頸がん	▼
2	乳がん	▼
3	大腸がん	▼
4	肺がん	▼
5	胃がん	▲

① 19歳以下

② 20歳代

③ 30歳代

④ 40歳代

⑤ 50歳代

⑥ 60歳代

⑦ 70歳以上

⑧ 受ける必要はない

⑨ わからない

Q10

33%

あなたが「がん検診」を受診する際、どのような機会に受診したいですか。（ひとつ）

⊙ 単一回答 ★ 必須回答

① 人間ドックなど個人的に医療機関で受診

② 職場のがん検診

③ 区市町村のがん検診

④ その他

Q11

36%

あなたは、「がん検診」は健康な人が受けるものであることをご存じですか。

⊙ 単一回答 ★ 必須回答

① 知っている

② 知らない

Q12

40%

「がん検診」について東京都からどのような情報が得られるとよいと思いますか。
最もあてはまるものをお選びください。（ひとつ）

◎ 単一回答

★ 必須回答

▲ とじる

- ① がん検診に関する最新の文献・研究論文の紹介
- ② がん検診に関する自治体の取組が比較できる情報
- ③ がん検診受診率等の過去数年間の変化
- ④ 専門用語の説明やデータの見方の説明
- ⑤ その他

Q13

43%

あなたは「肝炎ウイルス」をご存じですか。

◎ 単一回答

★ 必須回答

- ① 内容まで知っている
- ② 聞いたことがある
- ③ 知らない

Q14

46%

「肝炎ウイルス」における以下の内容について、あなたのお考えにあてはまるものをそれぞれお選びください。

⊙ 単一回答

★ 必須回答

↓ とじる

0/5

1	肝炎は、咳、抱き合う及び食器の共有など通常の社会生活では感染しない	▼
2	近年、若年層を中心に性感染等によるB型肝炎の感染が増加している	▼
3	肝炎になったら治らない	▼
4	肝炎になっても自覚症状はない	▼
5	肝炎から肝硬変、肝がんになる可能性がある	▲

- ① そう思う
- ② ややそう思う
- ③ あまりそう思わない
- ④ そう思わない

Q15

50%

あなたはこれまで、「肝炎ウイルス検査」を受けたことがありますか。

⊙ 単一回答

★ 必須回答

- ① 受けたことがある
- ② 受けたことがない
- ③ 分からない

Q16

53%

前問で「肝炎ウイルス検査」を「受けたことがある」とお答えになった方にお伺いします。
あなたが受けたことのある「肝炎ウイルス検査項目」をお選びください。

単一回答

必須回答

▲ とじる

- ① B型肝炎ウイルス
- ② C型肝炎ウイルス
- ③ B型肝炎ウイルスとC型肝炎ウイルスの両方
- ④ 分からない、覚えていない

Q17

56%

引き続き、「肝炎ウイルス検査」を「受けたことがある」とお答えになった方にお伺いします。

あなたは検査をどこで受けられましたか。

受検したことのある場所をすべてお選びください。（いくつでも）

複数回答

必須回答

▲ とじる

- ① 区市町村の施設（保健所、保健センター、役所等）
- ② 肝炎検査を受検することを目的として行った医療機関（病院・診療所等）
- ③ 肝炎検査以外の目的で行った医療機関（病院・診療所等）
- ④ 職場内
- ⑤ 日本赤十字社の血液センター（献血ルーム等を含む）
- ⑥ その他
- ⑦ 分からない、覚えていない

Q18

60%

前問で「肝炎ウイルス検査」を「受けたことがない」とお答えになった方にお伺いします。あなたが検査を受けたことがない理由のうちあてはまるものをお選びください。（いくつでも）

✓ 複数回答

★ 必須回答

▲ とじる

- 1 職場の健診内容に無かったから
- 2 夜間や休日などに受診できないから
- 3 検査ができる場所が分からないから
- 4 悪い結果を言われるのがこわいから
- 5 検査方法を知らないから
- 6 費用がかかるから
- 7 自分は感染していないと思うから
- 8 心配な時はいつでも医療機関を受診できるから
- 9 検査に行くのが面倒だから
- 10 忙しいから
- 11 その他

Q19

63%

あなたはお住まいの区市町村で「肝炎ウイルス検査」を受けることができるのをご存じですか。

◎ 単一回答

★ 必須回答

▲ とじる

- 1 知っている
- 2 知らない

Q20

66%

「肝炎ウイルス検査」を受けるとしたら、どのような機会に受けたいと思いますか。
最もあてはまるものをお選びください。（ひとつ）

肝炎ウイルスとは・・・

肝炎ウイルスに感染すると、気付かないうちに肝臓の炎症が進み、慢性肝炎となり、肝硬変や肝臓がんに進行する場合があります。

⊙ 単一回答

★ 必須回答

▲ とじる

- ① 人間ドックで受けたい
- ② 職場の健診と合わせて受けたい
- ③ 住民（区市町村）健診と合わせて受けたい
- ④ その他

Q21

70%

多くの方が「がん」にかかっているにもかかわらず、大人も含めて「がん」に関する正しい知識を得る機会は多くはありません。

そのため、学校での健康教育の中で子どものころから「がん」に対する正しい知識と「がん患者」に対する正しい認識をもつよう、国において「がん教育」の実施に向けた取組が進められています。

あなたはこうした教育は必要だと思いますか。

⊙ 単一回答

★ 必須回答

▲ とじる

- ① 必要だと思う
- ② 必要だと思わない
- ③ 分からない

Q22

73%

前問で「がん教育」が「必要だと思う」とお答えになった方にお伺いします。

「がん」を正しく知り（理解し）予防に活かすために、子どもに対する「がん教育」をいつから始めるのがふさわしいと思いますか。

ふさわしいと思う時期をお選びください。

⊙ 単一回答

★ 必須回答

▲ とじる

① 小学校低学年から

② 小学校中学年から

③ 小学校高学年から

④ 中学生から

⑤ 高校生から

⑥ 大学生以上

Q23

76%

あなたご自身やご家族が「がん」になった場合、こういった環境が整っていることが望ましいと思いますか。

以下のうち最も望ましいと思うものから順に3位までお選びください。

☰ 順位回答 (3位まで)

★ 必須回答 (1位まで)

↑ とじる

専門的な治療を提供する機器や施設を備えた病院が整備されていること

最先端の治療薬・治療機器・治療方法等を選択できる体制が整っていること

がん医療について専門的な知識を有する医師や看護師などの医療従事者がいること

がんによる身体的苦痛や精神的な不安をすぐに軽減してくれること

がん患者や家族が、治療法や不安なことを気軽に相談したり、情報を収集するための窓口があること

高度ながん医療を提供する病院、地域の病院、かかりつけ医（身近で気軽に相談できる医療機関）などが連携し、安心して受診や転院ができる体制が整っていること

住み慣れた家庭や地域で療養ができるような在宅医療の体制が整っていること

Q24

80%

がんの治療においては、「緩和ケア」も重要な治療です。

あなたは「緩和ケア」について、どのようなイメージがありますか。

あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

✓ 複数回答

★ 必須回答

▲ とじる

- 1 「緩和ケア」は、がんやがんの治療による身体の痛みを軽減することである
- 2 「緩和ケア」は、がんの治療などによる身体の痛みだけでなく、不安などの精神的苦痛や、医療費・仕事などに関する社会的苦痛による痛みや辛さを軽減することである
- 3 「緩和ケア」は、がんが進行し、治療ができなくなった場合の最後の手段である
- 4 「緩和ケア」は、がんと診断された時から受けられるものである
- 5 特にイメージはない

Q25

83%

主にがんの組織を用いて、多数の遺伝子を同時に調べ、遺伝子変異（※）を明らかにすることにより、一人一人の体質や病状に合わせて治療などを行う医療を「がんゲノム医療」といいます。

あなたは「がんゲノム医療」をご存じですか。

（※）遺伝子変異：細胞の中の遺伝子がなんらかの原因で後天的に変化することや、生まれもった遺伝子の違い

◎ 単一回答

★ 必須回答

▲ とじる

- ① 内容まで知っている
- ② 聞いたことがある
- ③ 知らない

Q26

86%

あなたがもし「がん」になり、人生の最終段階（終末期）を迎えることとなった場合、終末期をどこで過ごしたいと思いますか。

最もあてはまるものをお選びください。（ひとつ）

◎ 単一回答

★ 必須回答

▲ とじる

- ① 自宅
- ② 介護施設
- ③ 医療機関（緩和ケア病棟）
- ④ 医療機関（緩和ケア病棟を除く）

Q27

90%

「小児がん」とは、15歳以下の小児に発生するがんの総称です。
「小児がん」は、大人がかかるがんとは異なる特徴が多くあります。
「小児がん」に関する内容ついて、ご存じのものをお選びください。（いくつでも）

✓ 複数回答

★ 必須回答

▲ とじる

- 1 小児がんは、大人のがんに比べてかかる人が少なく、希少ながんである
- 2 大人に多い胃がんや肺がんなどは、小児がんではほとんど見られない
- 3 小児がんは医療の進歩により、多くの人（70～80%）が治ると言われている
- 4 小児がんは大人のがんに比べて進行が速い
- 5 小児がん患者では、薬や放射線などの治療による副作用により、治療が終わったあとに、成長への影響や神経麻痺、合併症が現れたり、新たながんが引き起こされることがある
- 6 上記のいずれも知らない

Q28

93%

あなたは、ご自身や身近な人がもし「がん」になられた場合、「がん」に関する情報をどのように収集しますか。
最もあてはまるものをお選びください。（ひとつ）

◎ 単一回答

★ 必須回答

▲ とじる

- ① テレビ
- ② 出版物（書籍・新聞等）
- ③ インターネット
- ④ その他

Q29

96%

前問で「がん」に関する情報を「インターネット」で収集するとお答えになった方にお伺いします。

あなたは、どのようなウェブサイトを確認されると思いますか。

以下のうちあてはまるものを3つまでお選びください。

※4つ以上あてはまる方は、特に優先して確認されると思うものをお選びください。

✓ 複数回答 (3個まで選択)

★ 必須回答

▲ とじる

1 がんに関する情報を集める様々な情報をとりまとめたウェブサイト

2 がん経験者や患者団体のウェブサイト

3 行政のウェブサイト

4 がんの専門病院やがんの治療実績のある病院のウェブサイト

5 医師や学者が執筆したウェブサイト

6 その他 (必須入力)

Q30

100%

がんに関する予防、早期発見、医療など、がん対策に関するご意見をご自由にご記入ください。

※できるだけ具体的にご記入をお願いいたします。

★ 必須回答

▲ とじる

0/500文字

アンケートは以上で終わりです。
ご協力ありがとうございました。
送信ボタンを押してください。